

青森市埋蔵文化財調査報告書 第79集

市内遺跡

発掘調査報告書13

平成16年度

青森市教育委員会

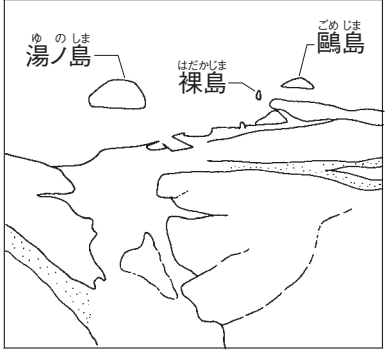
青森市埋蔵文化財調査報告書 第79集

市内遺跡

発掘調査報告書13

平成16年度

青森市教育委員会



①湯ノ島遠景



②焼土



③土製支脚



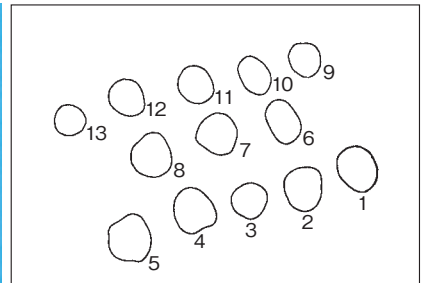
④土師器



① 竪穴住居跡 (SI-01) 出土の基石と思われる小石の出土状況



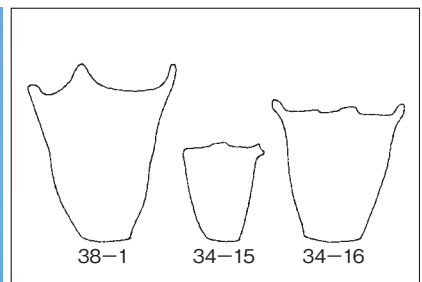
② 竪穴住居跡 (SI-01) 出土の基石と思われる小石



(第29図1~13に対応)



③ 出土土器



(第34・38図に対応)

序

私たちの住む青森市には、豊かな自然の中で培われてきた貴重な文化遺産が数多く所在しており、特別史跡 三内丸山遺跡や史跡 小牧野遺跡などもそのひとつであります。

先人たちが残した多くの文化遺産が所在する青森市ではありますが、一方、豊かで住みよいまちづくりを目指した地域開発や公共事業などによる行為もいたるところで行われています。

そのような各種開発事業との円滑な調整を図りながら遺跡の保護をすすめるために、青森市教育委員会では、平成4年度から国庫補助事業で分布調査や試掘調査等を実施してきております。

本書は、平成16年度に実施しました各遺跡の分布調査や試掘・確認調査および栄山（3）遺跡の発掘調査などの調査結果をまとめたものであり、本市における埋蔵文化財の保護に資することができれば幸いです。

最後になりましたが、本書を刊行するにあたり文化庁・県文化財保護課をはじめ関係者の方々に深く感謝の意を表します。

平成17年3月

青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎

例 言

1. 本書は、国と県の補助金交付を受けて、平成16年度に実施した青森市内遺跡発掘調査事業の調査報告書であり、分布調査、試掘・確認調査、本発掘調査等の調査成果を収録してある。
2. 本年度に調査を実施した遺跡および地区は下記のとおりである。
 - ①分布調査：雲谷山吹（1）遺跡、湯ノ島遺跡、桑原（2）遺跡、内長沢遺跡、三内丸山（8）遺跡、小牧野（2）遺跡
 - ②試掘・確認調査：三内丸山（3）遺跡、合子沢松森（2）遺跡、細越館遺跡、栄山（3）遺跡、安田近野（1）遺跡、三内丸山（6）遺跡、三内丸山（8）遺跡、三内沢部（1）遺跡、三内丸山地区
 - ③発掘調査：栄山（3）遺跡
3. 発掘調査を実施した栄山（3）遺跡は、個人による進入路造成に伴う調査で、国庫補助事業区と称して平成16年7月12日～8月20日まで調査を行った。また、本調査区に隣接する民間会社の開発に伴う調査区を原因者負担区と称し、平成16年7月20日～8月20日まで調査を行った。

なお、原因者負担区の調査成果については、本年度刊行の『栄山（3）遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第76集に掲載している。
4. 本書の編集は青森市教育委員会が行い、執筆分担は下記の者が担当した。

第Ⅰ～Ⅲ章、第Ⅳ章第2～6節、第Ⅴ章第3～9節、第Ⅵ章第1節：文化財主事 児玉大成
第Ⅳ章第1節、第Ⅴ章第1・10・11節：文化財主事 設楽政健
第Ⅳ章第2節：青森県埋蔵文化財調査センター 福田友之（共）
第Ⅴ章第2節：文化財主事 小野貴之
第Ⅵ章第2・3・5節：青森市埋蔵文化財調査員 一町田 工
第Ⅵ章第4節：(株)九州テクノリサーチ
5. 本報告書で使用了地図類は、「青森市遺跡地図（数値地図）」の2万5千分の1図または2千500分の1図を用い、すべて真北を示している。
6. 挿図の縮尺は各図に示し、方位については真北を示した。
7. 図版番号や表番号は、第Ⅰ～Ⅵ章第3節を「第○図」「第○表」「写真○」とし、第Ⅵ章第4節を「photo ○」「table ○」とした。

8. 石質の鑑定については青森県総合学校教育センター 指導主事 工藤一彌氏に依頼した。
9. 本報告書の土色の注記については『新版 標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄1993）に準拠した。
10. 出土遺物および記録図面・写真関係資料は、現在、青森市教育委員会が保管している。
11. 第Ⅵ章の栄山（3）遺跡調査報告の図中、表中で使用した遺構の略称は以下のとおりである。
 竪穴住居跡→S I -○○、土坑→S K -○○、小ピット→S P -○○、焼土遺構→S F -○○、
 竪穴住居跡に伴う土坑→S I○○ - sk○○、竪穴住居跡内の柱穴→S I○○ - pit○○
12. 調査にあたっては、地権者の方々をはじめ、次の機関・諸氏にご指導・ご協力を賜った。ここに深く感謝の意を表する次第である。（敬称略）
 文化庁・青森県教育庁文化財保護課・青森県埋蔵文化財調査センター・青森県立郷土館・青森市
 浅虫財産区・青森市管財課・青森市広報課・青森市立栄山小学校・（財）岩手県文化振興事業団埋
 蔵文化財センター・弘前大学人文学部・葛西 勳・木村房雄・工藤清泰・工藤 大・白鳥文雄・鈴
 木克彦・高橋 潤・成田滋彦・成田誠治・畠山 昇・藤沼邦彦・三浦圭介・三浦謙一・三宅徹也

本文目次

序	
例言	
目次	
第I章 事業実施の概要	1
第II章 事業照会の概要	2
第III章 新規登録・範囲変更遺跡等	8
第1節 新規登録遺跡	8
第2節 範囲変更遺跡	8
第3節 その他	9
第IV章 分布調査	15
第1節 雲谷山吹（1）遺跡	15
第2節 湯ノ島遺跡	15
第3節 桑原（2）遺跡	16
第4節 内長沢遺跡	16
第5節 三内丸山（8）遺跡	16
第6節 小牧野（2）遺跡	17
第V章 試掘・確認調査	21
第1節 三内丸山（3）遺跡	21
第2節 合子沢松森（2）遺跡	21
第3節 細越館遺跡	21
第4節 栄山（3）遺跡①	22
第5節 栄山（3）遺跡②	22
第6節 安田近野（1）遺跡	23
第7節 三内丸山（6）遺跡①	23
第8節 三内丸山（6）遺跡②	24
第9節 三内丸山（8）遺跡	24
第10節 三内沢部（1）遺跡	25
第11節 三内丸山地区	25
第VI章 発掘調査－栄山（3）遺跡－	
第1節 調査の概要	36
1 調査に至る経緯	36
2 調査要項	37
3 調査方法	37
4 調査経過	38
5 遺跡の環境	38
第2節 検出遺構	40
1 竪穴住居跡	40
2 土坑	54
3 小ピット	61
4 焼土遺構	63
第3節 出土遺物	65
1 土器	65
(1) 縄文時代の土器	65
(2) 平安時代の土師器・須恵器	74
2 石器	76
3 土製品	77
4 石製品	78
5 鉄関連遺物	78
第4節 栄山（3）遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査	88
第5節 栄山（3）遺跡発掘調査のまとめ	95
引用・参考文献	96
報告書抄録	97

図版目次

第1図	平成16年度調査対象遺跡	
第2図	平成16年度新規登録・範囲変更遺跡の位置	10
第3図	新規登録・範囲変更遺跡(1)	11
第4図	新規登録・範囲変更遺跡(2)	12
第5図	新規登録・範囲変更遺跡(3)	13
第6図	新規登録・範囲変更遺跡(4)	14
第7図	分布調査採集遺物(1)	18
第8図	分布調査採集遺物(2)	19
第9図	試掘調査地点(1)	26
第10図	試掘調査地点(2)	27
第11図	試掘調査地点(3)	28
第12図	試掘調査地点(4)	29
第13図	試掘調査地点(5)	30
第14図	試掘調査地点(6)	31
第15図	試掘・確認調査出土遺物(1)	32
第16図	試掘・確認調査出土遺物(2)	33
第17図	調査区位置図	36
第18図	グリッド配置図	38
第19図	基本層序	38
第20図	遺構配置図	39
第21図	SI-01(1)	43
第22図	SI-01(2)	44
第23図	SI-01(3)	45
第24図	SI-01(4)	46
第25図	SI-01(5)	47
第26図	SI-01出土遺物(1)	48
第27図	SI-01出土遺物(2)	49
第28図	SI-01出土遺物(3)	52
第29図	SI-01出土遺物(4)	53
第30図	SK01～06	58
第31図	SK07～09	59
第32図	SK09～10	60
第33図	土坑出土遺物(1)	60
第34図	土坑出土遺物(2)	62
第35図	小ピット	63
第36図	焼土遺構	64
第37図	焼土遺構出土遺物	64
第38図	遺構外出土土器(1)	67
第39図	遺構外出土土器(2)	68
第40図	遺構外出土土器(3)	69
第41図	遺構外出土土器(4)	70
第42図	遺構外出土土器(5)	71
第43図	遺構外出土土器(6)	72

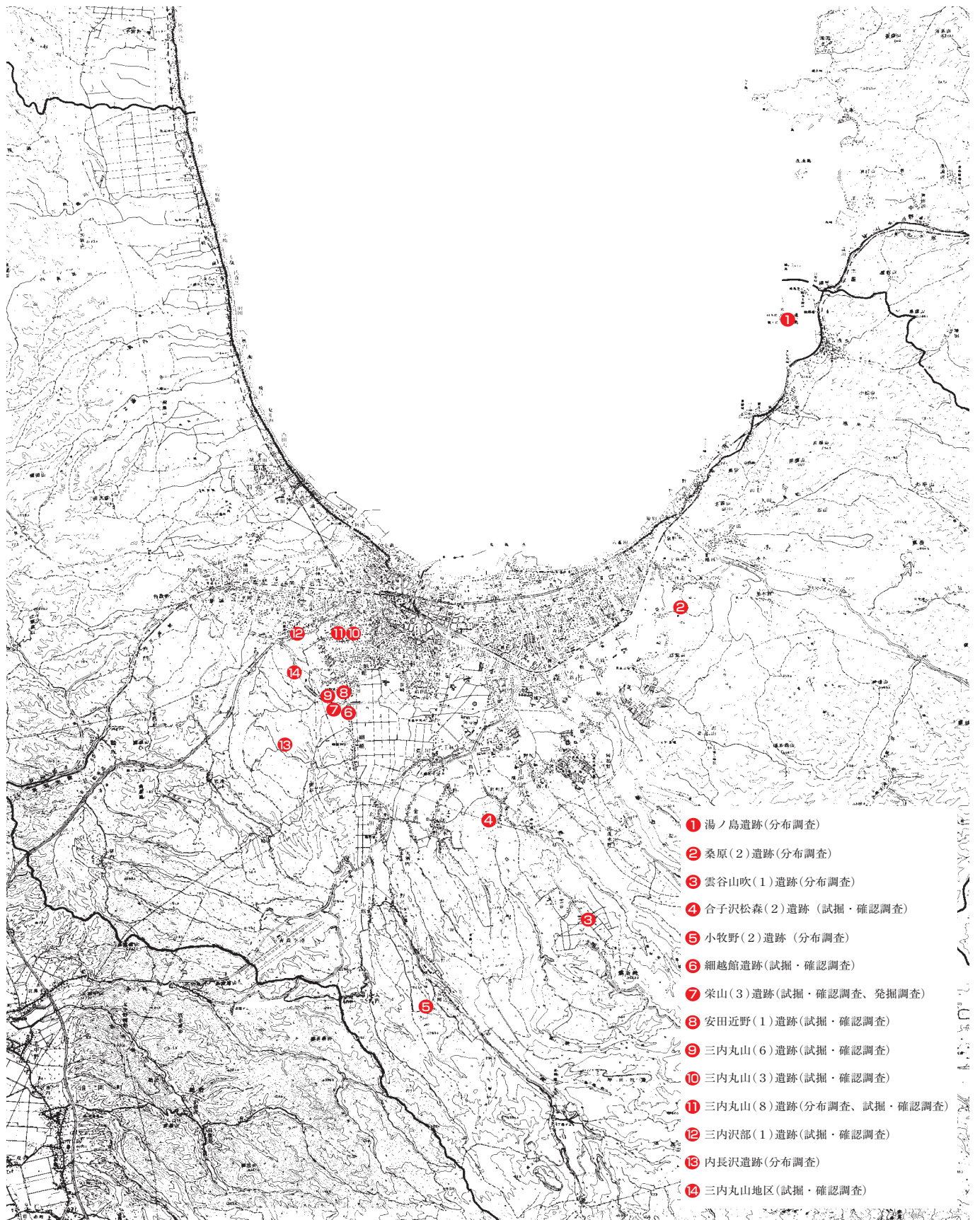
第44図	遺構外出土土器(7)	73
第45図	縄文土器底面圧痕	73
第46図	遺構外出土土器(1)	79
第47図	遺構外出土土器(2)、土製品、鉄関連遺物	80

表目次

第1表	平成15年度後期来課各種開発事業照会一覧	2
第2表	平成16年度前期来課各種開発事業照会一覧	3
第3表	平成15年度後期庁内関係開発事業照会一覧	6
第4表	平成16年度前期庁内関係開発事業照会一覧	6
第5表	竪穴住居跡(SI-01)属性表	42
第6表	SI-01出土土器属性表(1)	48
第7表	SI-01出土土器属性表(2)	50
第8表	SI-01出土土器属性表(3)	51
第9表	SI-01出土石器属性表	54
第10表	SI-01出土土製品属性表	54
第11表	SI-01出土石製品属性表	54
第12表	SI-01出土鉄関連遺物属性表	54
第13表	土坑属性表	57
第14表	土坑出土土器属性表	61
第15表	土坑出土石器属性表	61
第16表	小ピット属性表	63
第17表	焼土遺構属性表	63
第18表	焼土遺構出土土器属性表	64
第19表	遺構外出土土器属性表(1)	74
第20表	遺構外出土土器属性表(2)	75
第21表	遺構外出土土器属性表(3)	76
第22表	遺構外出土石器属性表	81
第23表	遺構外出土土製品属性表	81
第24表	遺構外出土鉄関連遺物属性表	81

写真目次

写真1	分布調査	17
写真2	分布調査採集遺物	20
写真3	試掘・確認調査	34
写真4	試掘・確認調査出土遺物	35
写真5	栄山(3)遺跡検出遺構等(1)	82
写真6	栄山(3)遺跡検出遺構等(2)	83
写真7	出土遺物(1)	84
写真8	出土遺物(2)	85
写真9	出土遺物(3)	86
写真10	出土遺物(4)	87



第1図 平成16年度調査対象遺跡

第 I 章 事業実施の概要

1. 調査目的

近年、市内の各所において、道路網の整備事業や大規模施設の建設などの大規模開発事業が増加し、併せて宅地開発や下水道整備事業等市民の身近な生活の中で必要とされる各種開発行為が継続しており、破壊・消滅の危機に瀕している遺跡も増加している。貴重な埋蔵文化財を保護し、各種開発行為との円滑な調整を図るためには、周知の遺跡の現況・範囲・数の把握や今後開発が予想される地域における未発見の遺跡の新規登録などにより、市内に所在する遺跡に関する詳細な基礎資料を整備する必要がある。

以上の点を踏まえ、市内に所在する周知の遺跡についての現況調査ならびに今後開発が予想される地域の分布調査、開発行為に先立つ試掘・確認調査及び発掘調査を実施するものである。

なお、本事業は国・県の補助金交付を受け実施するものである。

2. 対象地域

①分布調査

雲谷地区（雲谷山吹（1）遺跡）、浅虫地区（湯ノ島遺跡）、桑原地区（桑原（2）遺跡）、細越地区（内長沢遺跡）、三内地区（三内丸山（8）遺跡）、野沢地区（小牧野（2）遺跡）

②試掘・確認調査

三内丸山（3）遺跡、合子沢松森（2）遺跡、細越館遺跡、栄山（3）遺跡、安田近野（1）遺跡、三内丸山（6）遺跡、三内丸山（8）遺跡、三内沢部（1）遺跡、三内丸山地区

③発掘調査

栄山（3）遺跡

3. 事業実施期間 平成16年4月1日～平成17年3月31日

4. 調査指導機関 文化庁文化財部記念物課 青森県教育庁文化財保護課

5. 調査体制

調査事務局 青森市教育委員会事務局

教 育 長	角田詮二郎	文化財主事	小野 貴之（調査担当）
教 育 部 長	古山 善猛	〃	木村 淳一（ 〃 ）
教 育 次 長	最上 進	〃	児玉 大成（ 〃 ）
参事・文化財課長事務取扱	遠藤 正夫	〃	設楽 政健（ 〃 ）
主 幹	多田 弘仁	主 事	宮本 大輔（庶務担当）
主 査	辻 文子	〃	足澤 愛子（ 〃 ）

第Ⅱ章 事業照会の概要

青森市教育委員会文化財課では、公共事業に関する土木工事等の開発行為や民間の各種開発行為に対して事前の遺跡地図による確認を実施し、必要に応じて分布調査を実施してきており、平成12年度から本格的に試掘・確認調査を実施するようになった。

遺跡の確認は基本的に当課に直接来課し、開発予定地に遺跡が所在するか確認するケースと、都市計画法第32条関連の協議・青森県景観条例・農振除外申請等に基づく関係課からの照会のケースがほとんどで、昨年度報告（青森市埋蔵文化財調査報告書第74集）以降の平成15年度後半は12～3月末日までで73件（来課63件・庁内関係10件）、平成16年度4～12月末日までで187件（来課148件・庁内関係39件）の照会があった。

本年度4～12月分と平成14、15年度4～12月分と比較した場合、平成14年度に比べ83ポイント増（183%）で、その内訳は来課が128ポイントの大幅増（228%）、庁内関係が5ポイントの微増（105%）となっている。平成15年度との比較では1ポイントの減（99%）となっており、内訳では来課が1%の微増（101%）、庁内関係が9ポイントの減（91%）となっている。

事業照会の増減をみると、来課による照会が平成15年度に飛躍的に増加していることがわかる。この原因は、平成15年1月から施行された不動産鑑定法の法改正による埋蔵文化財の有無の事前確認が義務化されたことによる。しかし、本年度では平成15年度並の照会件数に落ち着いていることから、何らかの法整備が行われないうえ、大幅な増減が生じるとは考えにくい。

また、庁内関係では、大幅な増減はないものの、予算の縮減に伴う新規事業の見直しなどが影響しているせいか、本年度は若干減少している状況である。（児玉大成）

第1表 平成15年度後期来課各種開発事業照会一覧（H15.12～H16.3）（回答 A：周知の遺跡内、B：隣接地、C：該当なし）

番号	年月日	対象地	面積	開発行為	回答	備考
1	H15.12.4	浜田		その他（工作物調査）	C	
2	H15.12.10	駒込字蛭沢		宅地分譲	C	
3	H15.12.10	本町1丁目		物件調査	C	
4	H15.12.11	富田5丁目、新田2丁目、問屋町2丁目		物件調査	C	
5	H15.12.11	野木字野尻		物件調査	C	
6	H15.12.12	造道2丁目		不動産鑑定	C	
7	H15.12.12	鶴ヶ坂字山本	12,379㎡	砂利採取	C	
8	H15.12.15	油川字千刈		その他建物建築計画（携帯電話無線局）	C	
9	H15.12.16	浅虫字蛭谷		物件調査	C	
10	H15.12.18	新城字平岡	7,600㎡	宅地分譲	C	
11	H15.12.19	浅虫字坂本		不動産鑑定	C	
12	H15.12.19	浅虫字蛭谷 付近		不動産鑑定	C	
13	H15.12.19	新町2丁目		物件調査	C	
14	H15.12.25	大野字鳴滝		不動産鑑定	C	
15	H16.1.6	上野字山辺	418.3㎡	物件調査	C	
16	H16.1.8	富田3丁目		その他建物建築計画	C	
17	H16.1.9	造道3丁目		物件調査	C	
18	H16.1.14	荒川字寒水沢	約930,000㎡	物件調査	C	
19	H16.1.16	野沢字川部	32,000㎡	その他土木工事（山荘分譲）	C	
20	H16.1.19	堤町		物件調査	C	
21	H16.1.19	石江字高間		物件調査（競売）	C	
22	H16.1.20	古川2丁目		物件調査（競売物件調査）	C	
23	H16.1.21	筒井字桜川4丁目	1,781㎡	その他建物建築計画（共同住宅）	C	
24	H16.1.28	南佃	4,791.03㎡	その他建物建築計画	C	
25	H16.1.28	大谷字小谷、新城1丁目、清水字浜元		その他建物建築計画（携帯電話無線鉄塔）	C	
26	H16.2.2	岡造道1丁目		物件調査	C	
27	H16.2.2	浜田字玉川		物件調査、不動産基礎調査	C	
28	H16.2.3	三内字丸山		物件調査	A	三内丸山（6）遺跡に該当。

番号	年月日	対象地	面積	開発行為	回答	備考
29	H16.2.4	長島		物件調査	C	ゆかりの地標識があるため工事の際には協議必要。
30	H16.2.4	奥内字川合	391.25㎡	物件調査	C	
31	H16.2.9	富田5丁目	151.47㎡	物件調査	C	
32	H16.2.10	富田4丁目 他	2,700㎡	宅地分譲	C	
33	H16.2.13	長島4丁目		物件調査	C	
34	H16.2.17	新城字平岡		物件調査	C	
35	H16.2.23	造道1丁目、安田字近野		不動産鑑定	C	
36	H16.2.23	三内字丸山	507㎡	物件調査	B	三内丸山（3）遺跡隣接地。
37	H16.2.24	新城字山田		建物建築計画（店舗）	C	
38	H16.2.25	間屋町1丁目		不動産鑑定	C	
39	H16.2.25	大野字若宮	415㎡	その他建物建築計画（共同住宅）	C	
40	H16.2.26	港町3丁目		不動産鑑定	C	
41	H16.2.26	浪館字志田		不動産鑑定	C	
42	H16.2.27	横内字猿沢		不動産鑑定	B	横内猿沢遺跡隣接地。
		横内字猿沢		不動産鑑定	A	一部が横内猿沢遺跡範囲内。
		横内字猿沢		不動産鑑定	B	横内猿沢遺跡隣接地。
43	H16.3.1	浜田		物件調査	C	
44	H16.3.1	新城字平岡		物件調査（担保評価）	C	新城遺跡近接地。
45	H16.3.1	新城字平岡	991㎡	その他建物建築計画（共同住宅）	C	付近に新城平岡（3）遺跡が所在。
46	H16.3.2	栄町		物件調査	C	
47	H16.3.2	妙見1丁目		物件調査	C	
48	H16.3.8	三内字丸山		その他建物建築計画（鉄塔建設）	B	三内丸山遺跡隣接地。
49	H16.3.8	佃2丁目		物件調査（競売物件調査）	C	
50	H16.3.8	原別		物件調査	C	
51	H16.3.9	新城	約30,000㎡	土木工事計画（運送業敷地造成）	A	試掘を前提とした調査が必要。
52	H16.3.11	安方2丁目、本町2丁目		物件調査	C	
53	H16.3.12	細越字栄山 他	16,000㎡	その他（駐車場造成）	B	細越館遺跡、栄山（3）遺跡隣接地。遺跡との近接度から見て試掘を前提とした調査が必要。
54	H16.3.12	里見一丁目		その他建物建築計画（共同住宅）	C	
55	H16.3.16	入内字一の沢		物件調査	C	
56	H16.3.17	新町野字菅谷		物件調査	A	新町野遺跡に該当。
57	H16.3.18	古川		物件調査	C	
58	H16.3.22	新城字山田	264,464㎡	建物建築計画（店舗）	C	
59	H16.3.22	戸山字赤坂	約989㎡	物件調査、その他建物建築計画	C	
60	H16.3.24	羽白字沢田	3,691㎡	宅地分譲	C	
61	H16.3.25	石江字平山		その他建物建築計画（鉄塔設置）	B	三内沢部（4）遺跡隣接地。
		三内字沢部		その他建物建築計画（鉄塔設置）	A	三内沢部（4）遺跡に該当。
		安田字近野		その他建物建築計画（鉄塔設置）	A	近野遺跡に該当。
		大野字鳴滝		その他建物建築計画（鉄塔設置）	C	
62	H16.3.25	本町1丁目		物件調査	C	
63	H16.3.31	矢作、中央2丁目		物件調査	C	

第2表 平成16年度前期来課各種開発事業照会一覧（H16.4～H16.12）（回答 A：周知の遺跡内、B：隣接地、C：該当なし）

番号	年月日	対象地	面積	開発行為	回答	備考
1	H16.4.2	浦町		不動産取引	C	
2	H16.4.2	矢田前		不動産取引	C	
3	H16.4.2	石江字平山、石江字江渡		工作物の建築計画（アンテナ）	C	
4	H16.4.6	安田字近野	約1,700㎡	宅地分譲	B	安田近野（2）遺跡隣接地。
5	H16.4.8	ハツ役		不動産鑑定	C	
6	H16.4.9	安田字近野		宅地分譲、建物建築計画	B	安田近野（1）遺跡隣接地。
7	H16.4.9	三内字丸山		建物建築計画	A	三内丸山（6）遺跡に該当。
8	H16.4.12	鶴ヶ坂字山本		土木工事計画（砂利採取）	C	
9	H16.4.14	新町		物件調査	C	
10	H16.4.16	雲谷字山吹		アンテナ設置	C	
11	H16.4.20	幸畑字松元		宅地分譲、資材置場	C	
12	H16.4.22	浜田字豊田	5,500㎡	宅地分譲	C	
13	H16.4.22	羽白字富田	13,000㎡	建物建築計画（温泉施設）	C	
14	H16.4.26	石江字江渡		物件調査	C	
15	H16.4.27	筒井字桜川 他	2,437㎡	住宅建築計画	C	
16	H16.4.27	石江字江渡		宅地分譲	C	開発する前に試掘調査を含めた協議必要。
17	H16.4.27	油川字船岡		物件調査	C	
18	H16.4.30	新城		住宅建築計画	C	
19	H16.5.6	荒川		物件調査	C	
20	H16.5.11	新城字平岡	991㎡	建物建築計画、温泉掘削	B	新城平岡（1）遺跡隣接地。
21	H16.5.13	ハツ役		物件調査	C	
22	H16.5.14	南佃		物件調査	C	
23	H16.5.14	安田字近野	2,593.51㎡	宅地分譲	A	安田（1）遺跡に該当。
24	H16.5.17	戸門字土筆山	530㎡	物件調査、開発許可申請	C	
25	H16.5.18	浜田字玉川	165.28㎡	不動産鑑定	C	

番号	年月日	対象地	面積	開発行為	回答	備考
26	H16.5.19	浪館字志田		建物建築計画	C	
27	H16.5.19	富田4丁目	2,978㎡	宅地分譲	C	
28	H16.5.24	筒井字桜川 他	2,252㎡	宅地分譲	C	
29	H16.5.25	安方、本町		物件調査	C	
30	H16.5.26	新城字山田	26,000㎡	物件調査	C	
31	H16.5.26	桜川8丁目、千刈	80㎡	工作物建築計画（鉄塔）	C	
32	H16.5.26	油川字岡田	165㎡	物件調査	C	
33	H16.5.31	三内字丸山	1,131.25㎡	建物建築計画（アパート）	A	三内丸山（6）遺跡に該当。
34	H16.6.1	三内字丸山		物件調査	A	三内丸山（6）遺跡に該当。
35	H16.6.3	八重田		物件調査	C	
36	H16.6.4	浪館字近野	3,647㎡	宅地分譲	B	浪館（2）遺跡、安田近野（2）遺跡隣接地。
37	H16.6.7	新城字平岡		物件調査、建物建築計画	C	
38	H16.6.7	幸畑		工作物の建築（携帯用アンテナ基地局）	C	
39	H16.6.10	駒込字月見野		宅地分譲	C	周辺に遺跡が所在。
40	H16.6.14	三内		物件調査（解体と建設計画）	A	三内丸山（5）遺跡に該当。
41	H16.6.14	羽白字沢田	約2,900㎡	宅地分譲	C	
42	H16.6.15	新町、安方		物件調査	C	
43	H16.6.18	富田4丁目		宅地分譲	C	
44	H16.6.18	浪打		物件調査	C	
45	H16.6.20	三内字丸山	約331㎡	工作物建築計画（電波塔）	A	三内丸山（6）遺跡に該当。
		戸山字荒井	約331㎡	工作物建築計画（電波塔）	C	
		幸畑字唐崎	約331㎡	工作物建築計画（電波塔）	B	大矢沢野田遺跡隣接地。
46	H16.6.22	新城字平岡		建物建築計画	C	
47	H16.6.23	栄町		物件調査	C	
48	H16.6.23	新城字平岡	1,241.76㎡	共同住宅建築計画	C	
49	H16.6.23	浜館4丁目	1,200㎡	物件調査	C	
50	H16.6.30	油川字岡田	300㎡	建物建築計画（基地局）	C	
51	H16.7.2	石江字江渡		物件調査	C	
52	H16.7.5	本町2丁目	149.94㎡	物件調査	C	
53	H16.7.5	安方2丁目	347.47㎡	物件調査	C	
54	H16.7.5	橋本2丁目	378.95㎡	物件調査	C	
55	H16.7.5	安方2丁目	219.64㎡	物件調査	C	
56	H16.7.5	安方2丁目	427.14㎡	物件調査	C	
57	H16.7.12	駒込字深沢		建物建築計画、土木工事計画	B	梨の木平遺跡、深沢（1）遺跡隣接地。
58	H16.7.20	三内字沢部		建物建築計画（グループホーム）	A	三内沢部（1）遺跡に該当。
59	H16.7.20	三内字沢部		店舗建築計画	B	三内沢部（1）遺跡、三内沢部（3）遺跡隣接地。
60	H16.7.22	原別		住宅建築計画	C	
61	H16.7.22	駒込字深沢		宅地分譲	B	梨の木平牧場遺跡隣接地。
		横内字神田		宅地分譲	B	横内（3）遺跡隣接地。
62	H16.7.22	三内字沢部		集合住宅建築計画	A	三内沢部遺跡（3）に該当
63	H16.7.23	合子沢字松森	11,178㎡	物件調査（資材置場）	B	山口遺跡北端隣接地。
64	H16.7.27	中佃2丁目		物件調査	C	
65	H16.7.27	幸畑字谷脇		物件調査	C	
66	H16.7.28	篠田	330㎡	不動産鑑定	C	
67	H16.7.28	本町2丁目	430.5㎡	不動産鑑定	C	
68	H16.7.30	三内字丸山		物件調査	A	三内丸山（6）遺跡に該当。
69	H16.8.2	横内		その他	C	
70	H16.8.5	沖館3丁目		その他	C	
71	H16.8.6	安田字近野		不動産鑑定	A	安田（2）遺跡に該当。
72	H16.8.6	石江		物件調査	C	
73	H16.8.10	駒込字月見野		不動産鑑定	A	月見野（5）遺跡に該当。
74	H16.8.10	石江字江渡		物件調査	C	
75	H16.8.11	三内字丸山 他		宅地分譲	B	三内丸山（8）遺跡隣接地。
76	H16.8.11	富田4丁目		物件調査	C	
77	H16.8.13	新田		物件調査	B	新田（1）遺跡隣接地。
78	H16.8.16	橋本2丁目		物件調査	C	
79	H16.8.17	大別内字西田		物件調査	C	
80	H16.8.20	富田3丁目		建物建築計画	C	
81	H16.8.20	新田、羽白字沢田		不動産鑑定	C	
82	H16.8.24	浜田字豊田	12,000㎡	宅地分譲	C	
83	H16.9.2	石江字岡部	337㎡	共同住宅建築計画	B	岡部遺跡隣接地。
84	H16.9.3	羽白字沢田、矢作1丁目		物件調査	C	
85	H16.9.6	桜川7丁目	1,432.36㎡	宅地分譲	C	
86	H16.9.7	三内字沢部		不動産鑑定	C	付近に三内沢部（2）遺跡、三内沢部（3）遺跡あり。
87	H16.9.8	荒川字藤戸		不動産鑑定	C	
		安田字稲森		不動産鑑定	B	安田近野（2）遺跡隣接地。
		横内字鏡山		不動産鑑定	A	桜峰（1）遺跡に該当。

番号	年月日	対象地	面積	開発行為	回答	備考
88	H16.9.8	幸畑3丁目		物件調査	A	阿部野(1)遺跡に該当。
89	H16.9.9	新城字平岡	330㎡	電波塔建築計画	B	三内沢部(4)遺跡隣接地。
90	H16.9.13	戸山字赤坂		その他	A	赤坂遺跡に該当。平成16年度に発掘調査実施。
91	H16.9.13	横内字神田	967.4㎡	店舗建築計画	C	
92	H16.9.13	矢作1丁目	2,000㎡	宅地分譲	C	
93	H16.9.13	安田字稲森		不動産鑑定	B	安田近野(2)遺跡隣接地。
		野沢字沢部		不動産鑑定	C	
		荒川字藤戸		不動産鑑定	C	
94	H16.9.16	石江字平山		建物建築計画(携帯電話用鉄塔)	B	三内沢部(4)遺跡隣接地。
95	H16.9.17	浪館字前田		物件調査	B	浪館(2)遺跡隣接地。
		石江字平山		物件調査	C	
96	H16.9.17	大野字山下	451.28㎡	物件調査	C	
97	H16.9.21	沖館4丁目	約960㎡	物件調査、共同住宅建築計画	C	
98	H16.9.21	大野字若宮		物件調査	C	
99	H16.9.22	久須志4丁目	約500㎡	共同住宅建築計画	C	
100	H16.9.24	旭町2丁目		物件調査	C	
		野木		物件調査	B	葛野(1)遺跡隣接地。
		大別内		物件調査	B	葛野(2)遺跡隣接地。
101	H16.9.27	橋本1丁目		物件調査	C	
102	H16.9.29	横内字桜峰		物件調査	A	桜峰(1)遺跡に該当。
103	H16.9.30	合浦2丁目、勝田2丁目		物件調査	C	
104	H16.10.1	橋本1丁目		物件調査	C	
105	H16.10.1	飛鳥字塩越		物件調査	C	
106	H16.10.1	雲谷字山吹		物件調査(不動産取引)	A	雲谷山吹(1)遺跡に該当。
107	H16.10.4	橋本		物件調査	C	
108	H16.10.4	自由ヶ丘2丁目	396㎡	共同住宅建築計画	C	
109	H16.10.7	大別内字西田 他		物件調査	C	
		高田字川瀬		物件調査	B	高田城跡隣接地。
		大別内字萩原		物件調査	B	葛野(1)遺跡隣接地。
110	H16.10.18	新城字山田	180㎡	物件調査	C	
111	H16.10.18	戸山字赤坂	343.58㎡	物件調査	B	戸山遺跡隣接地。
112	H16.10.20	橋本	894.27㎡	共同住宅建築計画	C	
113	H16.10.21	雲谷字山吹		不動産鑑定	C	
114	H16.10.22	柳川2丁目	786.92㎡	共同住宅建築計画	C	
115	H16.10.25	石江字江渡		物件調査	C	
116	H16.10.28	堤町1丁目		物件調査	C	
117	H16.10.29	桑原字稲葉	499.99㎡	土木工事計画(土留、盛土)、店舗・工場建築計画	C	
118	H16.11.1	橋本1丁目		不動産鑑定	C	
119	H16.11.2	沖館4丁目	1,150㎡	建物建築計画	C	
120	H16.11.2	大野字片岡 他	1,853.17㎡	宅地分譲、住宅建築計画	C	
121	H16.11.2	矢作1丁目	2,146㎡	宅地分譲	C	都市計画法32条関係に伴う照会。
122	H16.11.5	雲谷字山吹	930.8㎡	建物建築計画	B	雲谷山吹(1)遺跡隣接地。
123	H16.11.9	沖館5丁目	1,011㎡	建物建築計画	C	
124	H16.11.15	雲谷字山吹	991㎡	建物建築計画(電波塔)	C	
125	H16.11.16	新城字平岡		物件調査	B	三内沢部(4)遺跡隣接地。
126	H16.11.17	青葉3丁目		不動産鑑定	C	
		浜田字玉川		不動産鑑定	C	
		新町野字菅谷		不動産鑑定	C	
		高田字日野		不動産鑑定	C	
		高田字朝日山		不動産鑑定	C	
		荒川字松尾		不動産鑑定	C	
		荒川字品川		不動産鑑定	C	
		野木字野尻		不動産鑑定	B	新町野遺跡隣接地。
上野字篠塚		不動産鑑定	C			
荒川字柴田		不動産鑑定	C			
127	H16.11.17	三内字丸山		物件調査	B	浪館(1)遺跡隣接地。
128	H16.11.19	古川2丁目		物件調査	C	
129	H16.11.24	長島2丁目		不動産鑑定	C	
130	H16.11.25	奥野4丁目	2,461.77㎡	宅地分譲	C	
131	H16.11.26	三内字沢部	970㎡	建物建築計画	C	付近に江渡遺跡、石江遺跡あり。
132	H16.11.29	三内字丸山		物件調査	A	三内丸山(5)遺跡に該当。
133	H16.11.29	浅虫字山下		物件調査	C	
		新田2丁目		物件調査	C	
134	H16.11.30	橋本2丁目		物件調査	C	
135	H16.12.2	橋本2丁目		物件調査	C	
136	H16.12.3	野木字山口		物件調査	A	野木山口遺跡に一部該当。
137	H16.12.3	橋本		物件調査	C	
138	H16.12.3	原別4丁目		不動産鑑定	C	
139	H16.12.15	東大野2丁目		不動産鑑定	C	

番号	年月日	対象地	面積	開発行為	回答	備考
140	H16.12.16	中央四丁目	465㎡	建物建築計画	C	
141	H16.12.16	三内字丸山	1,530㎡	建物建築計画	A	三内丸山（6）遺跡に該当。
142	H16.12.20	中央一丁目		物件調査	C	
143	H16.12.21	駒込字蛭沢		物件調査	C	
		安田字近野		物件調査	A	安田（1）遺跡に該当。
		自由ヶ丘2丁目		物件調査	C	
144	H16.12.22	安田字近野		物件調査	B	安田近野（2）遺跡隣接地。
145	H16.12.22	新田字忍、石江字高間		不動産鑑定	B	新田（1）遺跡隣接地。
146	H16.12.24	田茂木野字阿部野		駐車場の設置	B	阿部野（3）遺跡隣接地。
147	H16.12.27	中佃		物件調査	C	
148	H16.12.27	東大野一丁目		宅地分譲	C	都市計画法32条関係。

第3表 平成15年度後期市内関係開発事業照会一覧（H15.12～H16.3）（意見 A：周知の遺跡内、B：隣接地、C：該当なし）

番号	年月日	場所	面積	開発内容	意見	備考
1	H16.12.25	戸門字山部 他	35,094㎡	岩石採取	C	
2	H16.1.16	新城字福田	822㎡	温泉掘削	C	
3	H16.1.21	安田字近野 他	8,099.66㎡	病院増築事業	C	
4	H16.2.2	横内字若草	5,547㎡	温泉動力装置	C	
5	H16.2.2	鶴ヶ坂字山本	12,379㎡	岩石採取	C	
6	H16.2.16	大別内地区	1,060,000㎡	県営大別内地区排水路施設整備事業	B	葛野（3）遺跡隣接地。
7	H16.2.20	岡町字宮本 他	1,199.7㎡	農業用倉庫建設（青森農業振興地域整備計画の変更）	C	
		細越字栄山 他	14,095㎡	駐車場造成（青森農業振興地域整備計画の変更）	B	細越館遺跡、栄山（3）遺跡近接地。
		荒川字藤戸	447㎡	分家住宅建設（青森農業振興地域整備計画の変更）	C	
		大別内字山吹	1,953㎡	養鶏施設建設（青森農業振興地域整備計画の変更）	B	葛野（1）・（2）遺跡、山吹（4）遺跡隣接地。
		横内字神田	967.4㎡	飲食店建設（青森農業振興地域整備計画の変更）	C	
		築木館字岩瀬	94㎡	通路造成（青森農業振興地域整備計画の変更）	C	
8	H16.3.5	野沢字川部 他	94,033㎡	土地売買等取引	C	
9	H16.3.10	田茂木野字大沢 他		土地売買等取引	C	
10	H16.3.18	小館字桜刈 他	5,102㎡	土地売買等取引	C	近隣住民よりこの付近が遺跡であったという話あり。

第4表 平成16年度前期市内関係開発事業照会一覧（H16.4～12）（意見 A：周知の遺跡内、B：隣接地、C：該当なし）

番号	年月日	場所	面積	開発内容	意見	備考
1	H16.3.4	新城字福田		温泉掘削	C	
2	H16.4.1	安田字近野	1,200㎡	浪館污水管第1区工事（上下水道工事）	B	安田近野（2）遺跡隣接地。
		安田字近野	1,400㎡	浪館污水管第2区工事（上下水道工事）	B	安田近野（2）遺跡隣接地。
		三内字丸山	810㎡	浪館污水管第3区工事（上下水道工事）	B	浪館（1）遺跡隣接地。
3	H16.4.7	羽白字沢田	2,860.15㎡	宅地分譲	C	
4	H16.5.12	浪館字近野～浪館字平岡	320㎡	浪館污水管第4区工事（上下水道工事）	A	浪館（2）遺跡に該当。
		安田字近野	210㎡	浪館污水管第5区工事（上下水道工事）	A	近野遺跡に該当。
		安田字近野	150㎡	浪館污水管第6区工事（上下水道工事）	C	
5	H16.5.12	細越字栄山	201㎡	土地売買取引	C	申請地は周知の遺跡の範囲には含まれないが、全体計画地の一部が細越遺跡、栄山（3）遺跡に該当。
6	H16.5.18	南佃二丁目	1596.96㎡	温泉動力装置設置	C	
7	H16.5.18	羽白字富田	15,267㎡	温泉掘削	C	
8	H16.5.18	新城字平岡	4,246㎡	温泉掘削	C	
9	H16.5.18	瀬戸子字磯田	499.51㎡	住宅建設（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
		安田字稲森	789.12㎡	セルフガソリンスタンド建設（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
		野木字野尻	496.38㎡	分家住宅建設（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
		田茂木野字阿部野	3,857㎡	資材置場造成（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
		桑原字稲葉	499㎡	自動車整備工場建設（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
		桑原字稲葉	1,035㎡	ドライブイン建設（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
		原別字下海原	1,592.1㎡	資材置場造成（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
原別字下海原	2,581㎡	資材置場造成（青森農業振興地域整備計画変更）	C			

番号	年月日	対象地	面積	開発行為	回答	備考
10	H16.5.19	鶴ヶ坂字山本	53,074㎡	岩石採取、砂利採取	C	
11	H16.5.27	橋本2丁目	256.2㎡	差押不動産の公売	C	
12	H16.5.27	戸門字土筆山	64,986㎡	岩石採取	C	
13	H16.6.2	細越字栄山	330㎡	土地売買取引	A	栄山（3）遺跡に該当。
14	H16.6.9	小館字亀山	6,942㎡	土地売買等取引（家庭用菜園）	C	
15	H16.6.29	浜田字豊田及び玉川地内	約18,600㎡	都市計画道路3・2・2号内環状線（浜田）（道路建設）	C	
		奥野一丁目地内	約5,760㎡	都市計画道路3・4・3号蛸貝八重田線（奥野2）（道路建設）	C	
16	H16.7.7	宮田地区		青森市公共下水道事業	A	玉水（1）・（3）・（4）遺跡、宮田館遺跡に該当。
		三内地区		青森市公共下水道事業	A	三内沢部（3）遺跡に該当。
		久栗坂地区		青森市公共下水道事業	A	久栗坂浜田（1）遺跡に該当。
		野内地区		青森市公共下水道事業	A	野内遺跡に該当。
		八重田地区		青森市公共下水道事業	A	沢田遺跡に該当。
		矢作地区		青森市公共下水道事業	A	露草遺跡に該当。
		三内地区		青森市公共下水道事業	A	浪館（1）遺跡、三内丸山遺跡、三内丸山（3）・（8）遺跡に該当。
		浪館地区		青森市公共下水道事業	A	浪館（2）遺跡に該当。
17	H16.7.7	安田地区		青森市公共下水道事業	A	安田近野（1）・（2）遺跡、安田（1）・（2）遺跡、三内丸山（6）遺跡、近野遺跡に該当。
		石江地区		青森市公共下水道事業	A	三内沢部（2）遺跡、江渡遺跡、石江遺跡、三内霊園遺跡に該当。
17	H16.7.7	横内字若草		温泉動力装置設置	C	
18	H16.7.8	大矢沢字野田	1,500㎡	大矢沢墓地造成工事（墓地の収容移転）、（市道筒井幸畑団地線道路改良事業）	A	大矢沢野田（1）遺跡に該当。
19	H16.7.21	細越字内長沢	5,156㎡	土地売買等取引	B	栄山（4）遺跡隣接地。
20	H16.7.22	大野字笹崎 他	7,861㎡	土地売買取引	C	
21	H16.8.4	細越字栄山	1,011㎡	土地売買等取引	A	栄山（3）遺跡に該当。
22	H16.8.6	岩渡字熊沢 他	119,874㎡	砂利採取	C	
23	H16.8.12	野内字浦島 他	229,522㎡	岩石採取	C	
24	H16.8.13	細越字栄山 他	7,861㎡	駐車場造成（青森農業振興地域整備計画変更）	A	栄山（3）遺跡に該当。
25	H16.9.1	鶴ヶ坂字山本 他	40,616㎡	岩石採取	C	
26	H16.9.6	安田字若松	4,456㎡	温泉掘削	C	温泉法。温泉掘削許可。
27	H16.9.7	浜田土地区画整理内	7,610.15㎡	温泉掘削	C	温泉法。温泉掘削許可。
28	H16.9.9	新田三丁目	4,000㎡	土地売買等取引	C	
29	H16.9.10	駒込字深沢 他	29,561㎡	岩石採取	C	
30	H16.10.5	高田字朝日山 他	6,461㎡	土地売買等取引	A	朝日山（7）遺跡に該当。
31	H16.11.1	駒込字深沢	28,586㎡	土地売買等取引	B	深沢（1）遺跡、梨の木平牧場遺跡隣接地。
32	H16.11.5	合子沢字山崎	5,144㎡	土地売買等取引	C	
33	H16.11.5	鶴ヶ坂字山本	58,153㎡	土地売買等取引	C	
34	H16.12.7	野内字浦島 他	84,551㎡	岩石採取	C	
35	H16.12.15	小畑沢字小杉	8,925㎡	土地売買等取引	A	山口遺跡に該当。
36	H16.12.17	西田沢字浜田	900.3㎡	資材置場造成（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
		新城字福田 他	5,017㎡	駐車場造成（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
		新田字忍	1,760.53㎡	資材置場（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
		安田字若松	4,456㎡	公衆浴場建設（青森農業振興地域整備計画変更）	C	
		田茂木野字阿部野 他	7,418.12㎡	駐車場造成（青森農業振興地域整備計画変更）	B	阿部野（3）遺跡隣接地。
		宮田字玉水	331㎡	分家住宅建設（青森農業振興地域整備計画変更）	B	玉水（4）遺跡隣接地。
37	H16.12.20	鶴ヶ坂字田川	11,824㎡	温泉動力装置設置	C	
38	H16.12.20	横内字神田	1,873㎡	温泉動力装置設置	B	横内（3）遺跡隣接地。
39	H16.12.22	諏訪沢字桜川	約841㎡	温泉動力装置設置	C	

第Ⅲ章 新規登録・範囲変更遺跡等

青森市内における周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡）は、平成15年度末の時点で、302ヶ所の遺跡が登録され、本年度に実施された分布調査、試掘調査、発掘調査や過去に調査された遺跡の見直し等を行った結果、新規遺跡5ヶ所、範囲変更8ヶ所、その他1ヶ所の登録・変更があり、平成17年2月28日現在の登録遺跡は307ヶ所となった。

本年度に青森市内で新規登録・範囲変更等が行われた遺跡は、下記のとおりである。

第1節 新規登録遺跡

1. 湯ノ島遺跡

遺跡番号：01-316 所在地：青森市大字浅虫字蛸谷（湯ノ島） 立地：海岸付近 現況：山林

時代：縄文時代、平安時代 遺物：縄文土器片、土師器片（製塩土器含む）登録：平成16年6月25日付け青教文第381号 備考：当委員会および青森県埋蔵文化財調査センター福田友之氏による分布調査で確認（H16.5.26）。

2. 桑原（2）遺跡

遺跡番号：01-317 所在地：青森市大字桑原字山崎 立地：丘陵 現況：畑地 時代：縄文時代前期・後期 遺物：縄文土器片 登録：平成16年10月21日付け青教文第766号 備考：青森県文化財保護指導員の報告を受け当委員会による分布調査で確認（H16.6.3）。

3. 内長沢遺跡

遺跡番号：01-318 所在地：青森市大字細越字内長沢 立地：沢地および丘陵 現況：水田、原野、山林 時代：縄文時代前期・後期 遺物：縄文土器片 登録：平成16年10月21日付け青教文第766号 備考：地元住民の案内により当委員会の分布調査で確認（H16.6.18）。

4. 小牧野（2）遺跡

遺跡番号：01-319 所在地：青森市大字野沢字小牧野 立地：丘陵 現況：山林、原野 時代：縄文時代前期 遺物：縄文土器片 登録：平成16年10月21日付け青教文第766号 備考：当委員会の分布調査で確認（H16.10.1）。

5. 菊川遺跡

遺跡番号：01-320 所在地：青森市大字野内字菊川 立地：海岸段丘 現況：畑地、休耕田 時代：平安時代 遺物：土師器片（製塩土器含む）登録：平成16年12月3日付け青教文第914号 備考：青森県文化財保護課の分布調査で確認（H16.5.6、H16.11.10）。

第2節 範囲変更遺跡

1. 熊沢遺跡

遺跡番号：01-055 所在地：青森市大字岩渡字熊沢 立地：丘陵 現況：牧草地

時代：縄文時代 遺物：縄文土器片 登録：平成16年6月25日付け青教文第381号 備考：平成11年度に実施した当委員会の発掘調査成果を踏まえ範囲変更。

2. 高間（1）遺跡

遺跡番号：01-070 所在地：青森市大字石江字高間 立地：低丘陵 現況：畑地、宅地

時代：縄文時代、平安時代、近世、近代 遺物：縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器片など 登録：平成16年6月25日付け青教文第381号 備考：平成15年度に実施した当委員会の試掘および発掘調査成果を踏まえ範囲変更。

3. 新田（1）遺跡

遺跡番号：01-078 所在地：青森市大字新田字忍 立地：低丘陵 現況：畑地、道路等

時代：縄文時代、平安時代、中世、近世、近代 遺物：縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器片など 登録：平成16年6月25日付け青教文第381号 備考：平成15年度に実施した当委員会の試掘および発掘調査成果を踏まえ範囲変更。

4. 江渡遺跡

遺跡番号：01-163 所在地：青森市大字石江字江渡 立地：低丘陵 現況：畑地

時代：縄文時代、弥生時代、平安時代 遺物：縄文土器、弥生土器、土師器など 登録：平成16年6月25日付け青教文第381号 備考：平成15年度に実施した当委員会の試掘および発掘調査成果を踏まえ範囲変更。

5. 三内丸山（3）遺跡

遺跡番号：01-248 所在地：青森市大字三内字丸山 立地：丘陵 現況：畑地、宅地

時代：平安時代 遺物：土師器片、鉄滓など 登録：平成16年6月25日付け青教文第381号 備考：本年度に実施した当委員会の試掘調査成果を踏まえ範囲変更。

6. 雲谷山吹（1）遺跡

遺跡番号：01-199 所在地：青森市大字雲谷字山吹 立地：山麓斜面 現況：畑地

時代：縄文時代 遺物：縄文土器片 登録：平成16年6月25日付け青教文第381号 備考：地元住民の案内により当委員会の分布調査（H16.5.18）で範囲変更を確認。

7. 野尻野田遺跡

遺跡番号：01-283 所在地：青森市大字野尻字野田 立地：丘陵 現況：畑地

時代：平安時代 遺物：土師器片、登録：平成16年6月25日付け青教文第381号 備考：一部が大矢沢野田遺跡（01-292）と重複していたため範囲変更。

8. 三内丸山（8）遺跡

遺跡番号：01-315 所在地：青森市大字三内字丸山 立地：丘陵 現況：畑地

時代：縄文時代、平安時代 遺物：縄文土器、土師器片など 登録：平成16年10月21日付け青教文第766号 備考：本年度実施した当委員会の分布調査（H16.9.17）および試掘調査（H16.9.22）で範囲変更を確認。

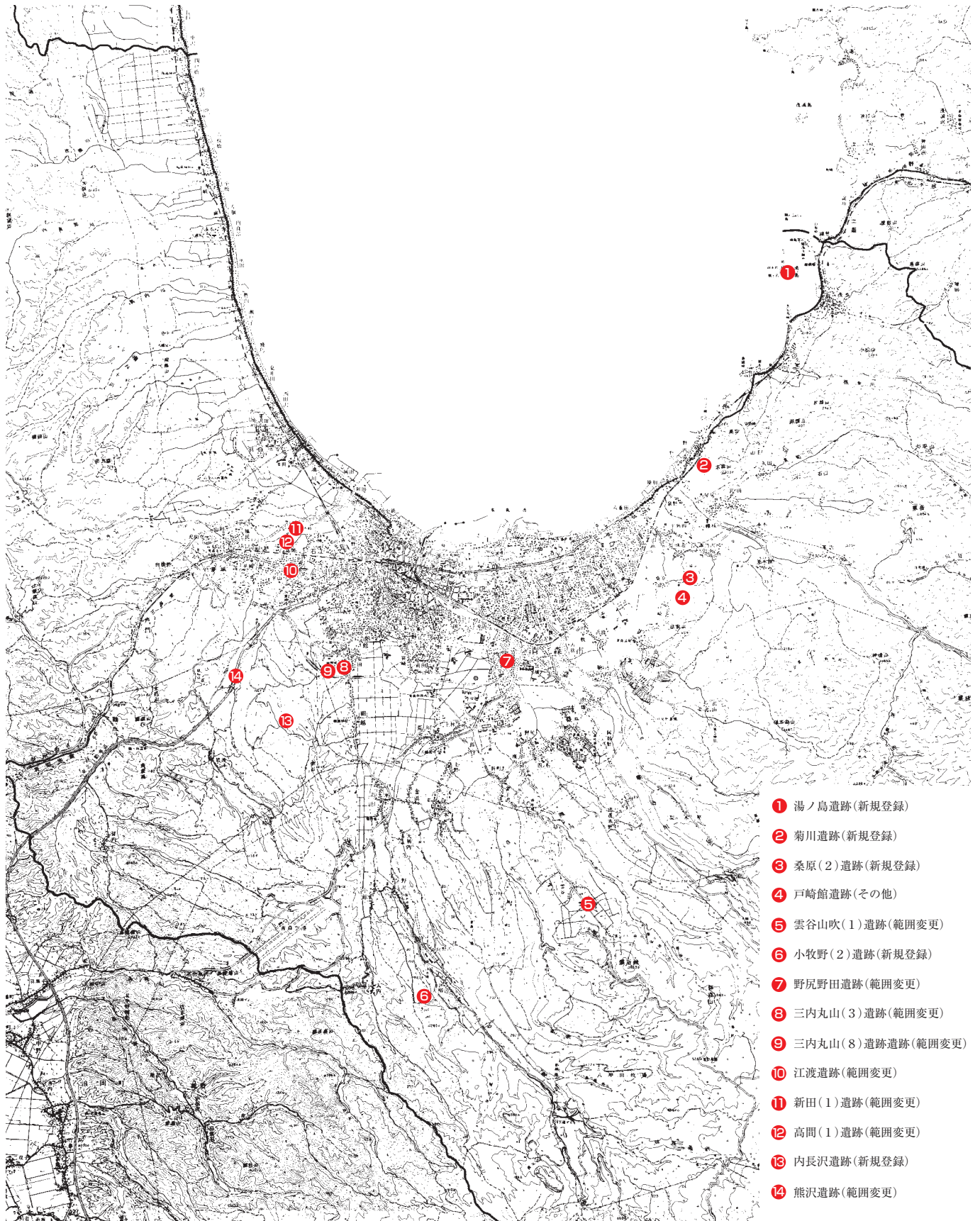
第3節 その他

1. 戸崎館遺跡

遺跡番号：01-022 所在地：青森市大字桑原字山崎、戸崎字宮井、諏訪沢字山辺 立地：丘陵頂部

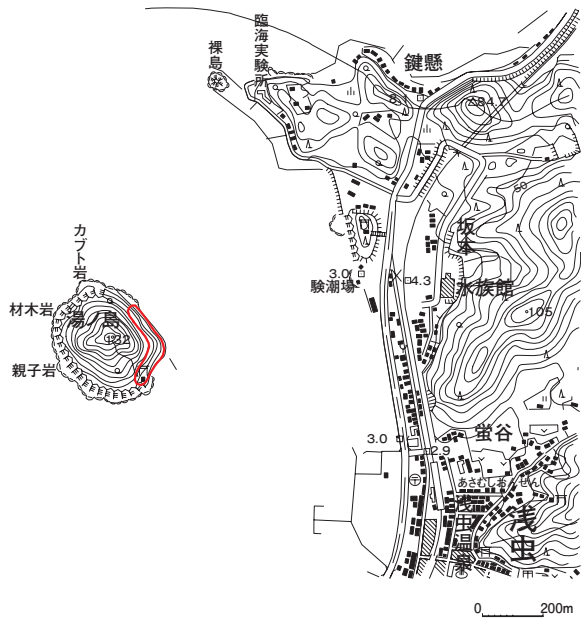
現況：山林 時代：中世 遺物：なし 登録：平成16年12月27日付け青教文第993号 備考：青森県文化財保護課による文化財パトロールにより、当初の遺跡範囲が誤って登録されていることを確認（H16.11.8）。

（児玉大成）

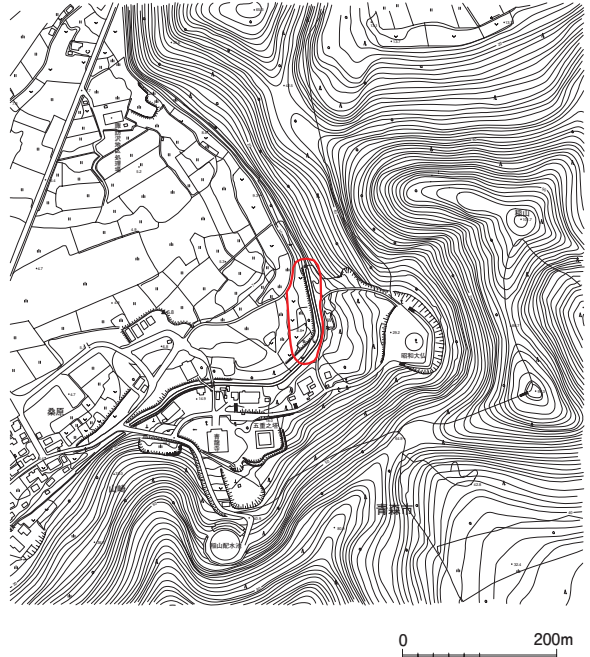


第2図 平成16年度新規登録・範囲変更遺跡の位置

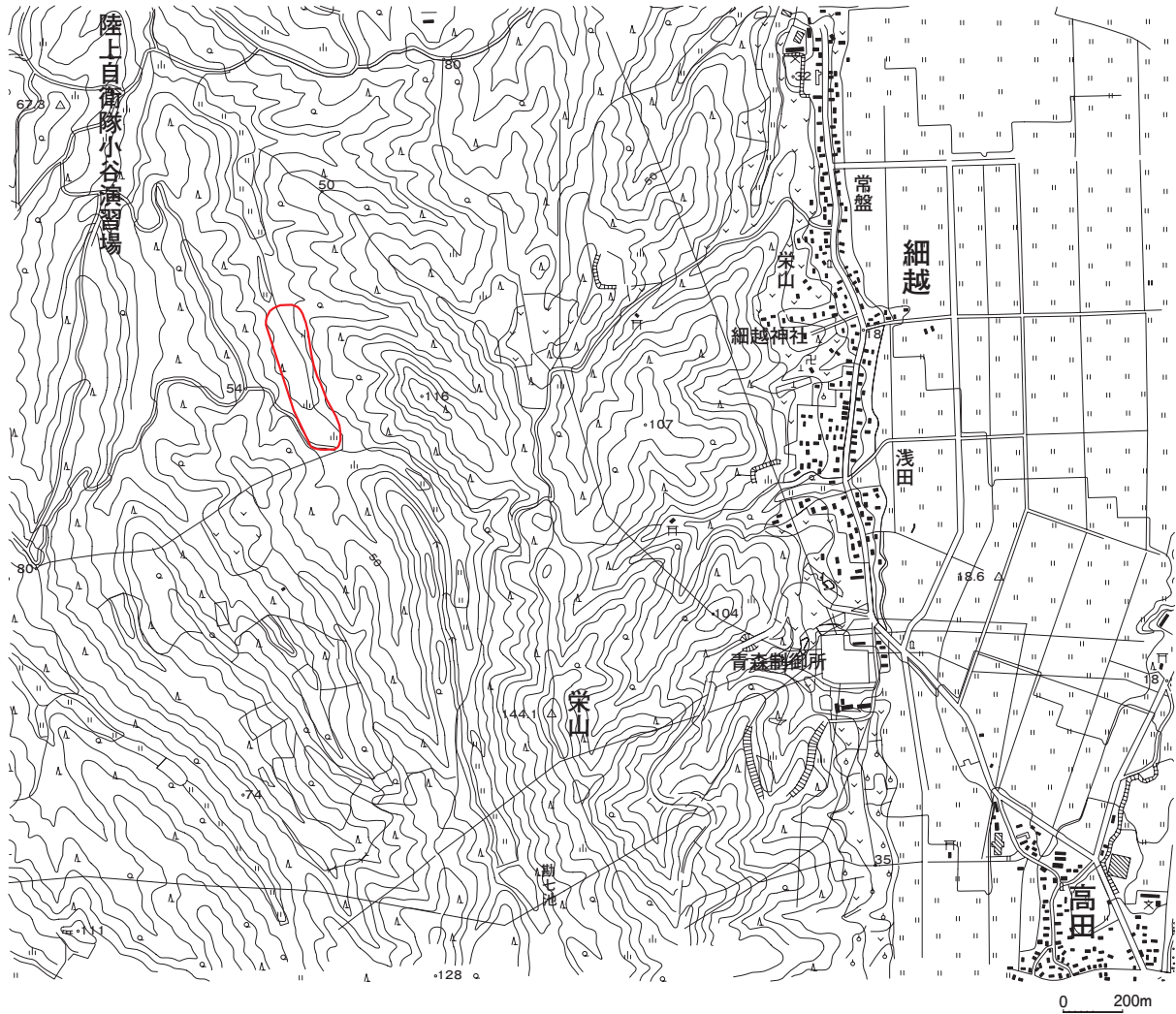
湯ノ島遺跡(新規登録)



桑原(2)遺跡(新規登録)

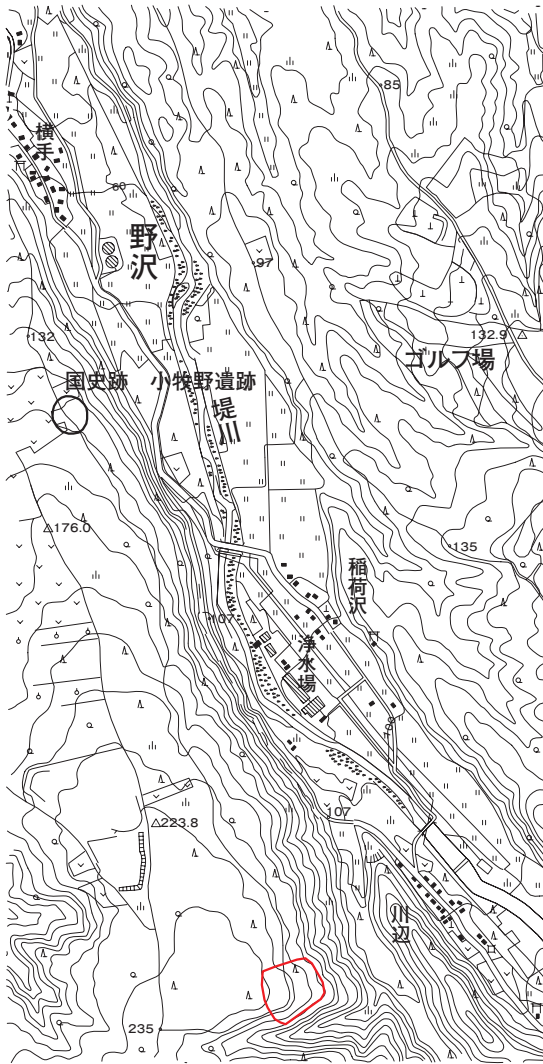


内長沢遺跡(新規登録)



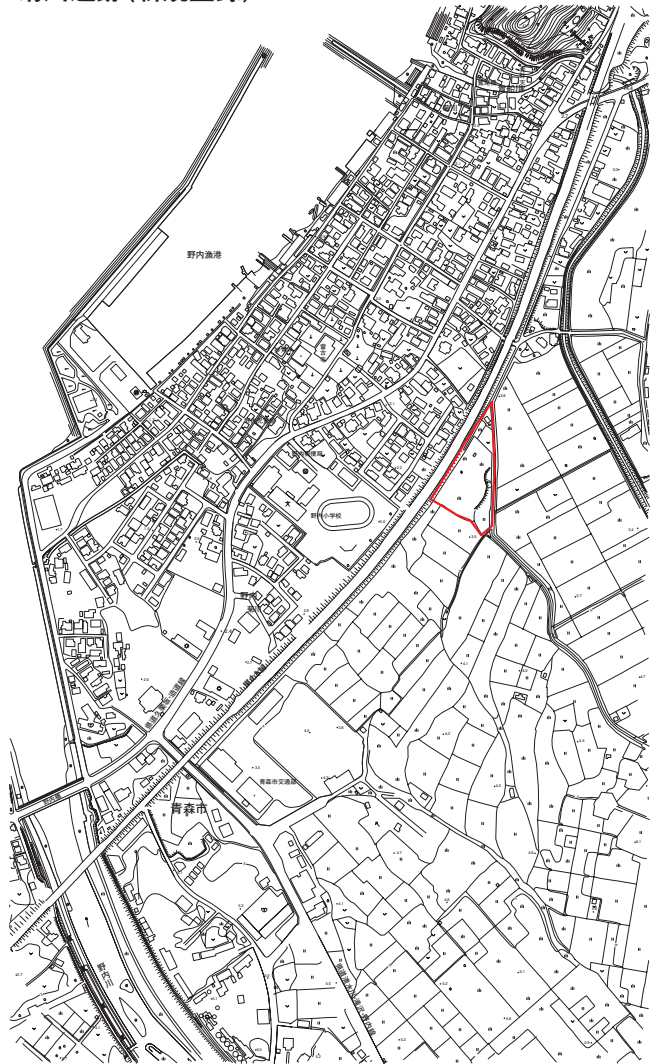
第3図 新規登録・範囲変更遺跡(1)

小牧野(2)遺跡(新規登録)



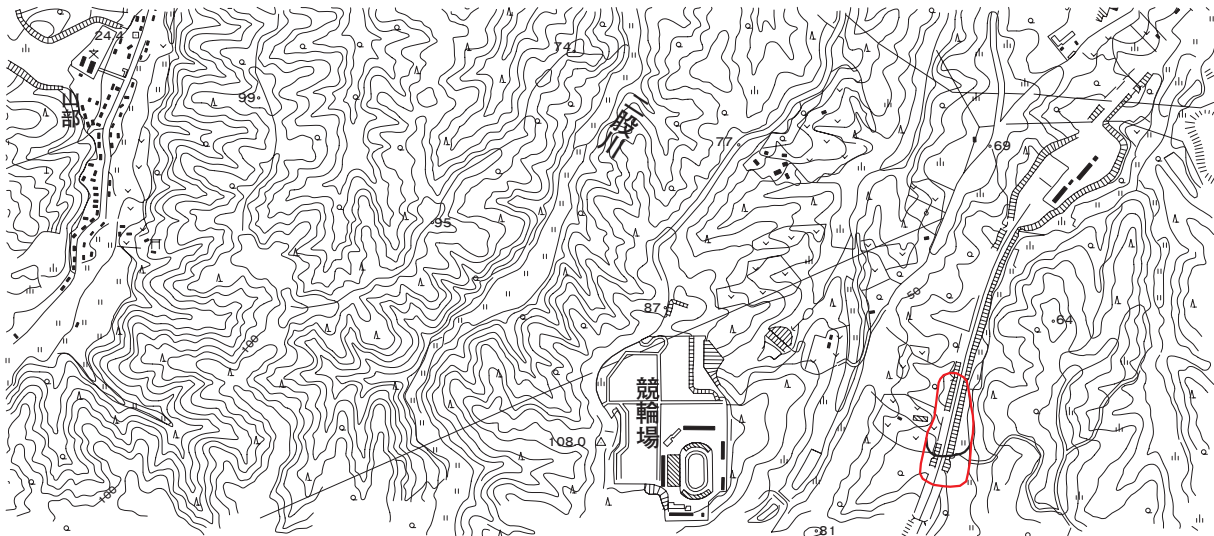
0 200m

菊川遺跡(新規登録)



0 200m

熊沢遺跡(範囲変更) 赤線が変更範囲



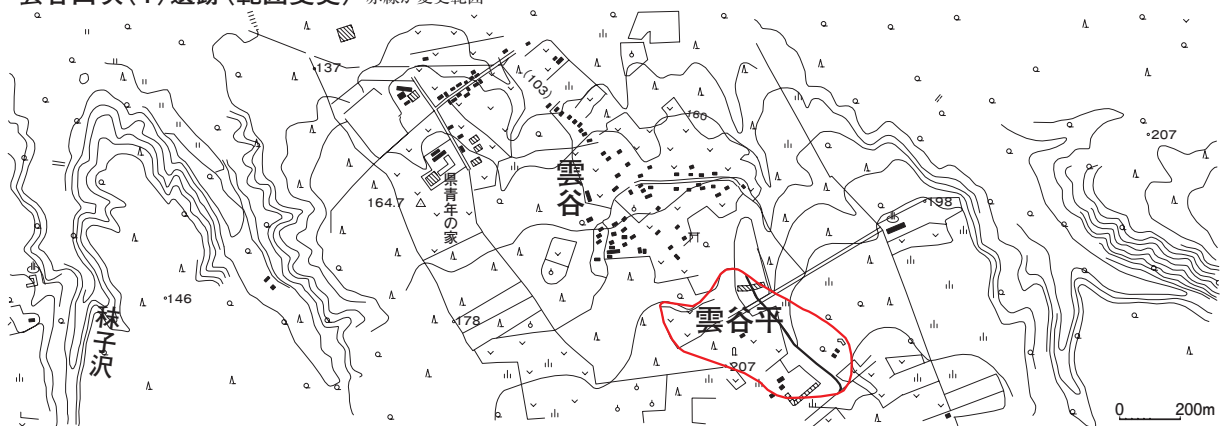
0 200m

第4図 新規登録・範囲変更遺跡(2)

高間(1)遺跡・新田(1)遺跡・江渡遺跡(範囲変更) 赤線が変更範囲

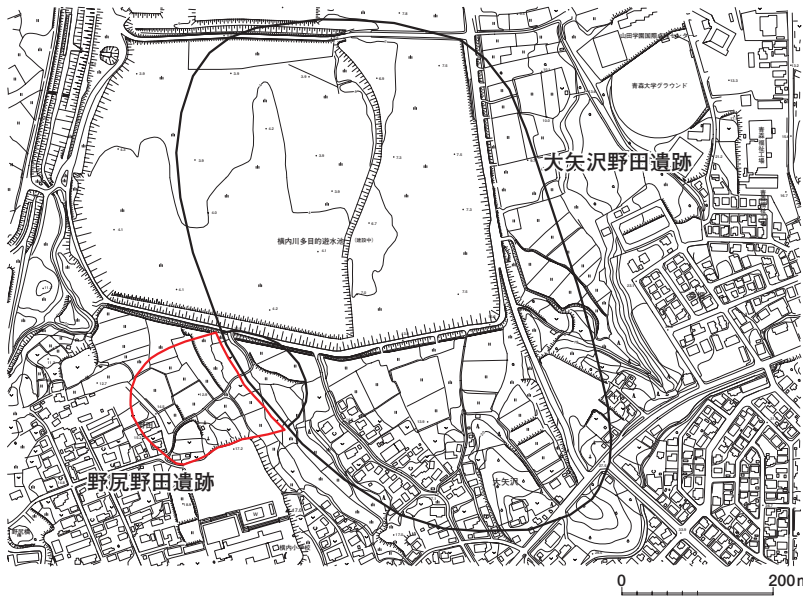


雲谷山吹(1)遺跡(範囲変更) 赤線が変更範囲

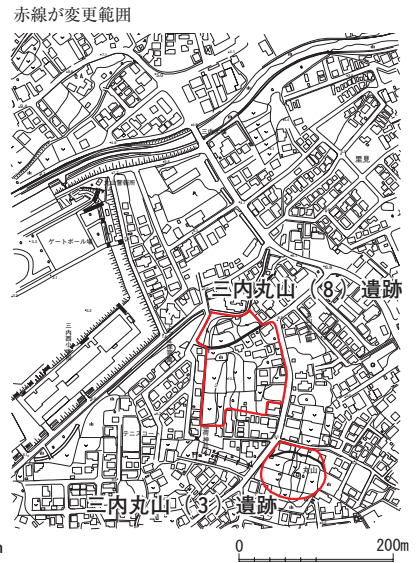


第5図 新規登録・範囲変更遺跡(3)

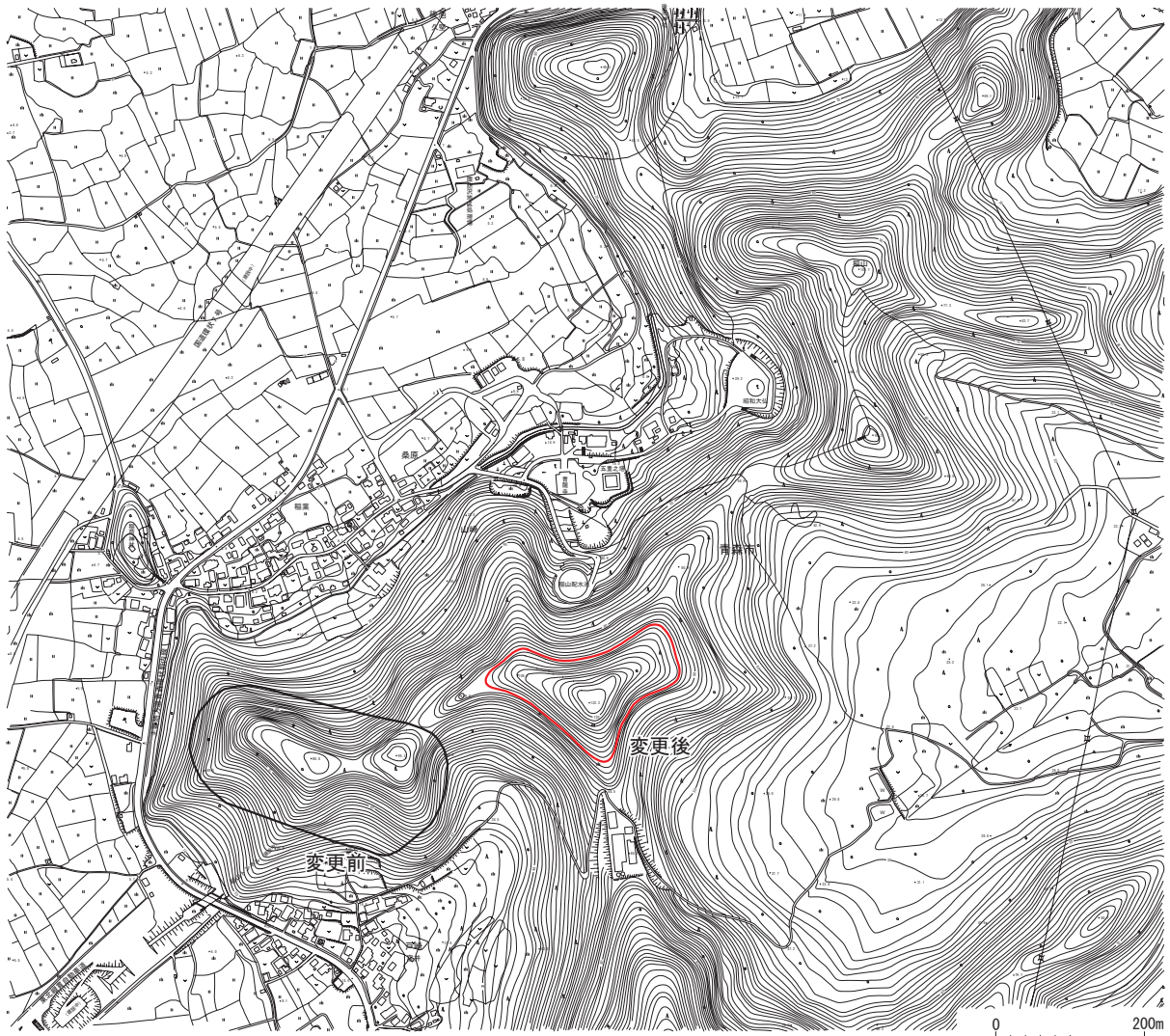
野尻野田遺跡（範囲変更） 赤線が変更範囲



三内丸山（3）遺跡・
三内丸山（8）遺跡（範囲変更）



戸崎館遺跡（その他） 黒線が誤って登録された範囲、赤線が正しい範囲



第6図 新規登録・範囲変更遺跡（4）

第Ⅳ章 分布調査

第1節 雲谷山吹（1）遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字雲谷字山吹 調査期間：平成16年5月18日

2. 調査に至る経緯

青森市大字雲谷字山吹で近隣の小川から土器が出土しているという地元住民の連絡を受けて分布調査を実施した。

3. 調査結果

現地は幅の狭い川で地表面から3mほど深い場所を流れていたが、川より遺物を確認することはできなかった。上方からの流れ込みの可能性も考えられたため、川の東側の平場へ登ってみると、僅かに黒色土が露出したところから縄文時代中期（円筒上層式）や後期（十腰内Ⅰ式）、晩期などの土器片が多くみられた（第7図1～5）。遺跡地図と照合した結果、土器が出土した場所は地形的にも同遺跡の範囲に含まれるものと判断し遺跡範囲を拡張することとした（第Ⅲ章第2節6）。

（設楽 政健）

第2節 湯ノ島遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字浅虫字蛸谷 調査期間：平成16年5月26日

2. 調査に至る経緯

平成16年4月10日に湯ノ島でのカタクリ見学ツアーに参加した福田友之（青森県埋蔵文化財調査センター）は、海岸付近の法面より焼土と土器片数点を発見し、4月19日に青森市教育委員会文化財課に情報を提供した。

当委員会では、湯ノ島の分布調査の実施を目的に、土地所有者の青森市浅虫財産区より湯ノ島への立ち入りと遺物採取の了承を取り付けるため、4月28日に浅虫町民会館で行われた浅虫財産区議会全員協議会に出席し、これまでの経緯、調査の必要性、今後の予定などを説明した。協議の結果、湯ノ島への立ち入りと遺物採取の案件は了承され、遺跡名については小字名による「蛸谷遺跡」よりも、範囲が特定される「湯ノ島遺跡」の方がよいとの提案もなされた。

また、湯ノ島は、県立自然公園の指定地になっており、遺物採取の件について県自然保護課に問い合わせしたところ、特に問題はないとの回答を得た。

その後、当委員会教育長名で5月24日付けで立入調査許可申請書を青森市浅虫財産区管理者である青森市長に提出し、5月26日に福田の案内で分布調査を実施することとなった。

3. 調査結果

浅虫のシンボルとされる湯ノ島（口絵1 ①）は、石英安山岩から成り立っており島の裏側（西側）には、見事な柱状節理が発達し、材木岩、俵岩、甲岩などの名所となっている。

今回の分布調査では、浅虫釣り船組合の船に乗船し島へ渡り、弁財天のある島の表側（東側）一帯の海岸沿いを調査した。

調査の結果、地層が露出する法面より、焼土（口絵1 ②）を2地点確認するとともに縄文後期～晩期の土器片（第7図6・7）や平安時代の土師器片（第7図8～13）、製塩土器（第7図14・15、20～

22)、土製支脚（第7図23）、被熱による土器剥離片（第7図16～19）、剥片石器2点（第8図24・25）、被熱痕のある礫（第8図26）等を採取し、約18,000㎡に及ぶ新規遺跡であることを確認した。

なお、湯ノ島が所在する浅虫地区は、明治時代に浅虫温泉の温泉熱を利用した全国でも珍しい製塩が行われていた地域で、明治42年(1909)9月、政府の塩専売方針により廃止されている(青森市1958,2004)。
(福田 友之、児玉 大成)

第3節 桑原（2）遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字桑原字山崎 調査期間：平成16年6月3日

2. 調査に至る経緯

平成15年度に報告された青森県文化財保護指導員の成田誠治氏の情報をもとに未登録地の分布調査を実施した。

3. 調査結果

局所的ではあるが畑地より縄文前期（円筒下層式）や後～晩期の土器片（第8図27～29）数点を採取し、5,224㎡に及ぶ新規遺跡であることを確認した。
(児玉 大成)

第4節 内長沢遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字細越字内長沢 調査期間：平成16年6月18日

2. 調査に至る経緯

内長沢地域から土器が出土することは、角田猛彦が1891年に発表した「陸奥国東津軽郡石器時代の遺跡」『東京人類学会雑誌』第6巻第64号で知られていたが、現在まで未登録の遺跡であった。平成16年6月18日に栄山（3）遺跡の試掘調査を行っていた際、試掘調査の依頼者である三協運輸株式会社の木村房雄氏の案内で分布調査を実施した。

3. 調査結果

現地に案内されたところ、広範囲にわたり局所的に盗掘痕が確認され、その付近に縄文前期（円筒下層a式の土器片（第8図30～32）が多くみられた。また、山林の道路では黒土が露出する部分より、縄文後期（十腰内I式）の土器片（第8図33～35）も採取した。調査の結果、水田や水路、原野、山林など約58,000㎡に及ぶ新規遺跡であることを確認した。
(児玉 大成)

第5節 三内丸山（8）遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字三内字丸山 調査期間：平成16年9月17日

2. 調査に至る経緯

平成16年8月11日、当委員会に宅地分譲に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が開発者の委託を受けた測量会社より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照合した結果、開発予定地が昨年度登録した三内丸山（8）遺跡に近接していたため、開発者側と協議し9月17日に分布調査を実施した。

3. 調査結果

分布調査の結果、平安時代の土師器細片を主体にビニール袋1袋分を採取し、遺跡範囲が南側へ拡

張することを確認した。その後、開発者側と協議し9月22日に試掘調査を実施し、調査結果は第V章第9節のとおり溝状遺構等を検出した。(児玉 大成)

第6節 小牧野（2）遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字野沢字小牧野 調査期間：平成16年10月1日

2. 調査に至る経緯

平成15年度に実施した小牧野遺跡の史跡整備事業に係る土地境界調査の際に、土器片の散布を確認したため、本年度に分布調査を実施した。

3. 調査結果

分布調査の結果、土取りされた周辺を中心に縄文前期（円筒下層d式）、中期（円筒上層e式）、後期（十腰内I式）の土器片（第8図36～43）を採取し、遺跡範囲が約31,000㎡に及ぶ新規遺跡であることを確認した。(児玉 大成)



雲谷山吹（1）遺跡：遺跡近景



雲谷山吹（1）遺跡：遺物露出状況



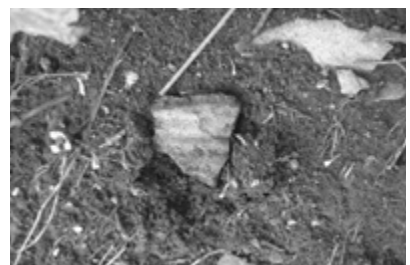
湯ノ島遺跡：遠景（E→）



湯ノ島遺跡：遺跡近景（NW→）



湯ノ島遺跡：遺跡近景（SW→）



湯ノ島遺跡：遺物（土師器）



桑原（2）遺跡：遠景（W→）



桑原（2）遺跡：近景（W→）



内長沢遺跡：近景（盗掘痕）



内長沢遺跡：遺物（縄文前期土器片）



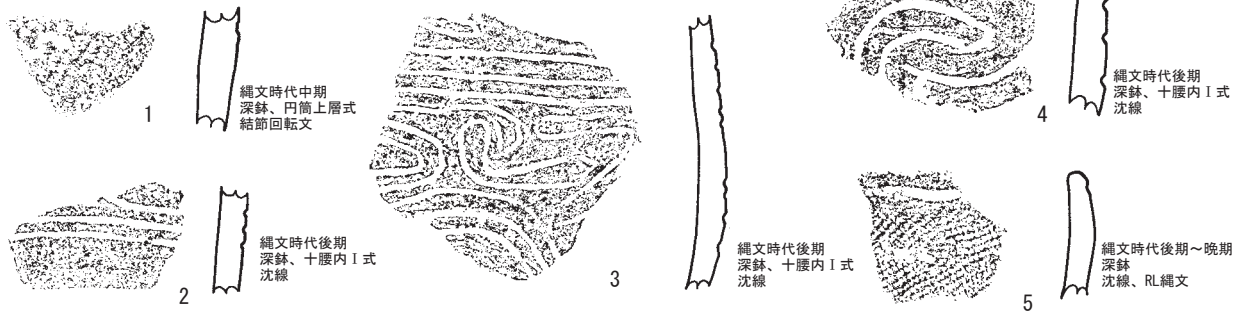
小牧野（2）遺跡：近景（S→）



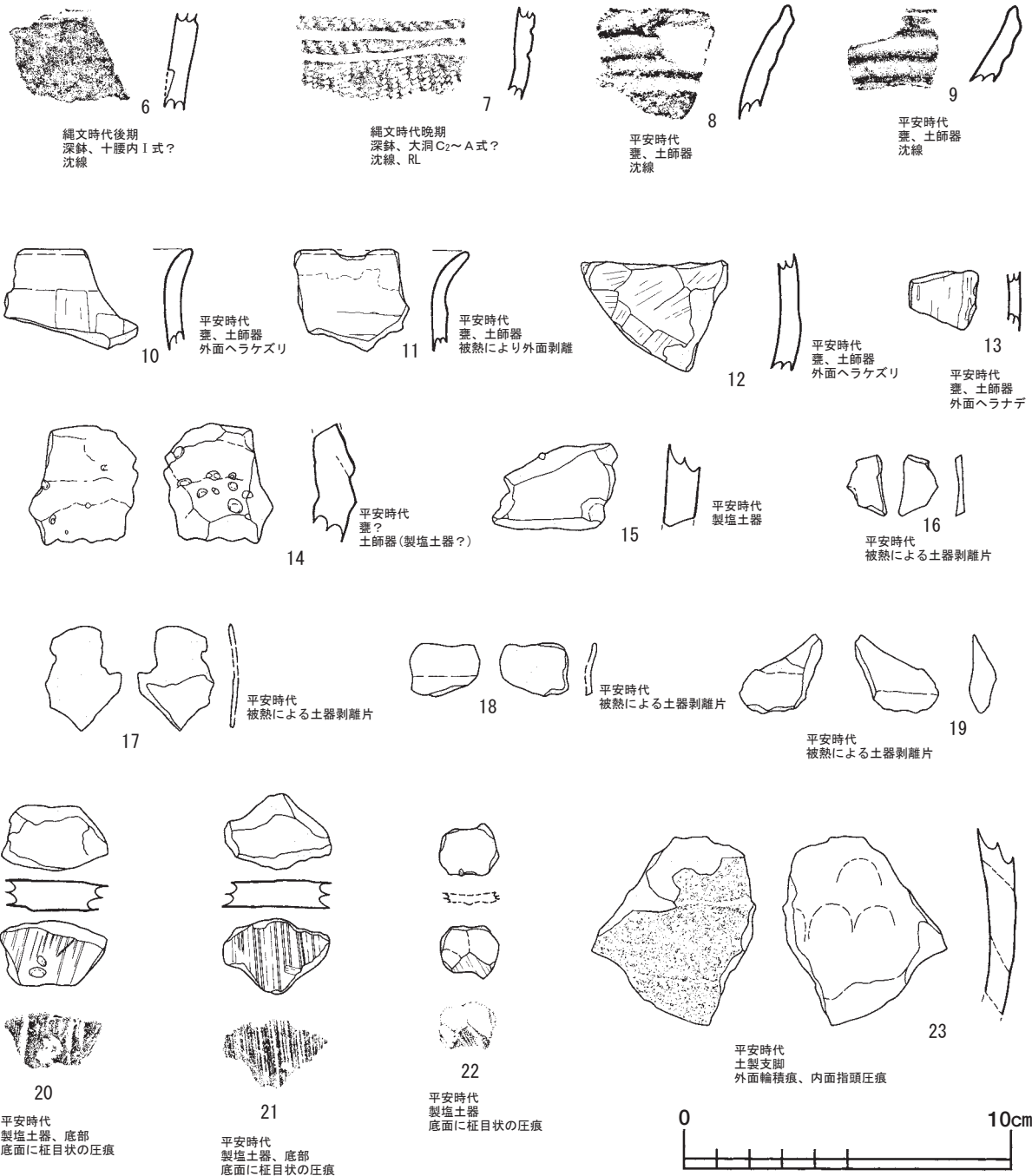
小牧野（2）遺跡：遺物（縄文前期土器片）

写真1 分布調査

雲谷山吹(1)遺跡

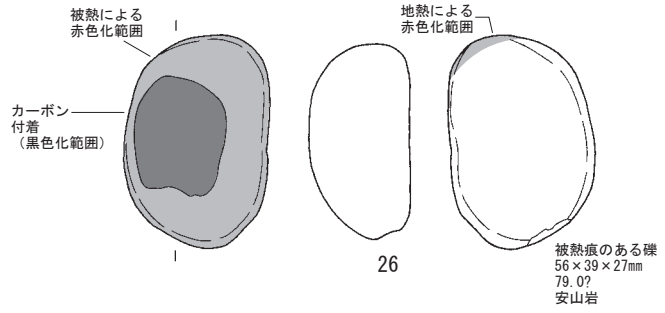
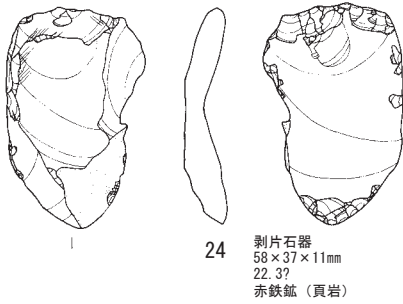


湯ノ島遺跡



第7図 分布調査採集遺物(1)

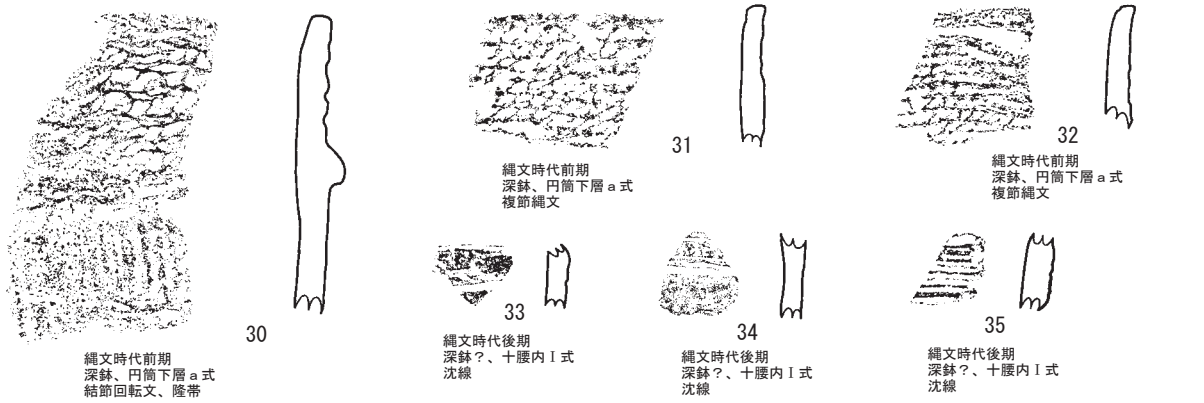
湯ノ島遺跡



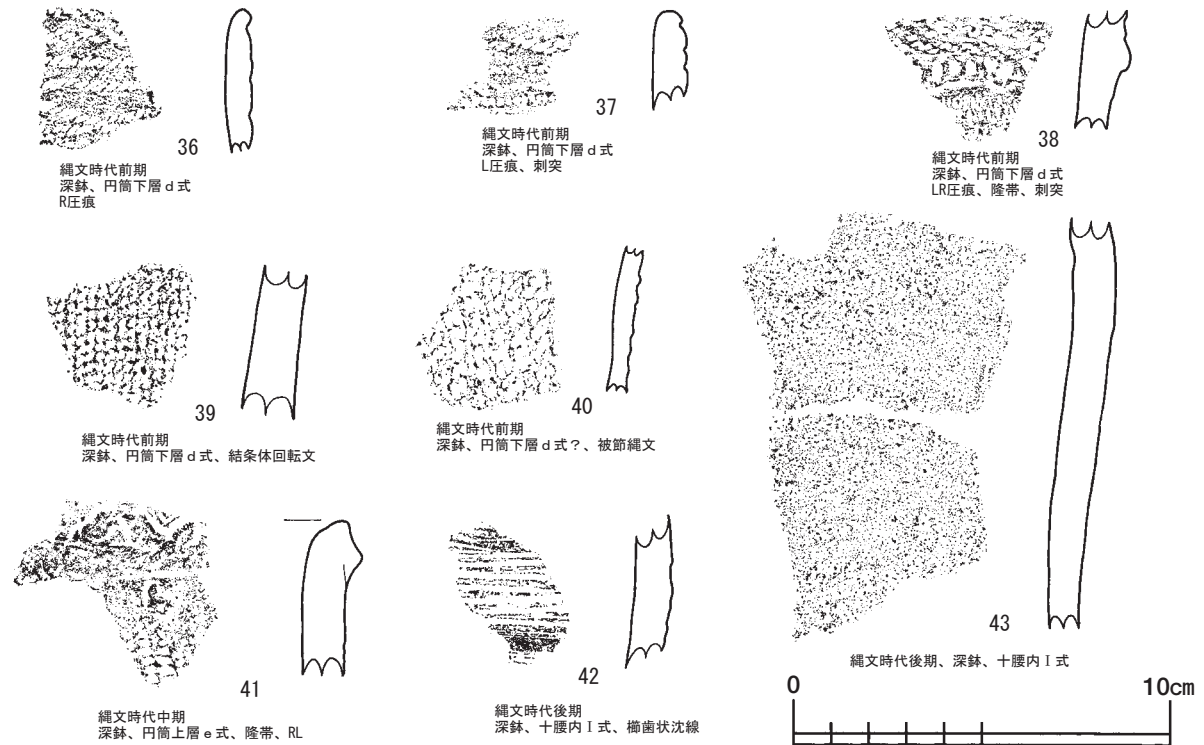
桑原(2)遺跡



内長沢遺跡



小牧野(2)遺跡

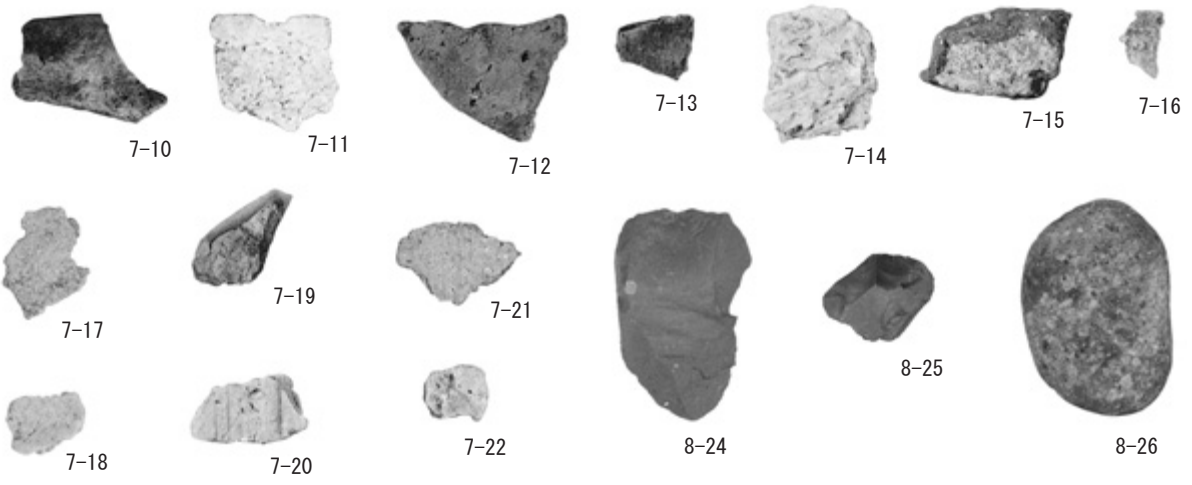
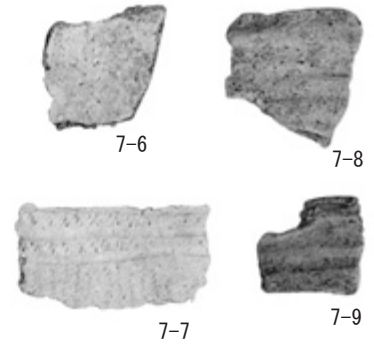


第8図 分布調査採集遺物(2)

雲谷山吹(1)遺跡



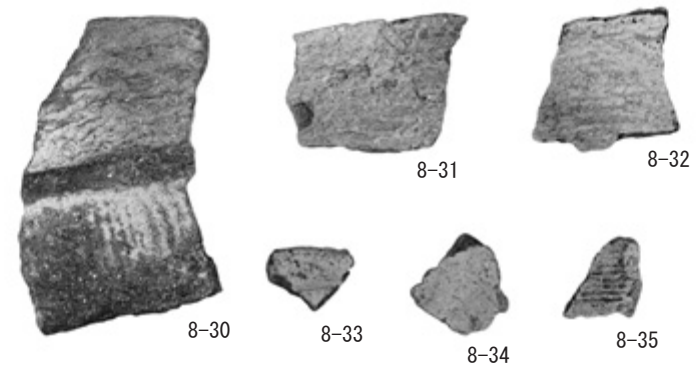
湯ノ島遺跡



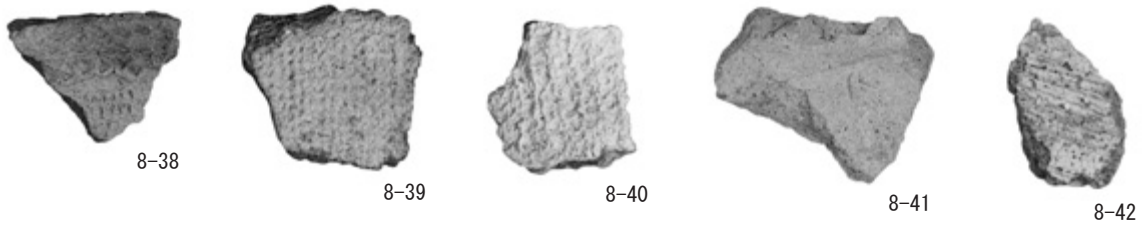
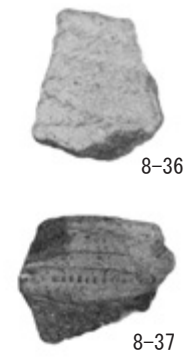
桑原(2)遺跡



内長沢遺跡



小牧野(2)遺跡



※番号は図版番号と合致
(例) 7-1→第7図1

写真2 分布調査採集遺物

第V章 試掘・確認調査

第1節 三内丸山（3）遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字三内字丸山 開発行為：アパート兼住宅建設 調査期間：平成16年5月13日
調査面積：40㎡

2. 調査に至る経緯

平成16年2月23日、青森市教育委員会文化財課に青森市三内字丸山のアパート兼住宅建設に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が開発者の依頼を受けた工事施工業者より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照会した結果、三内丸山（3）遺跡（青森県遺跡台帳番号01-248）に近接していたため、開発者側と協議し発掘調査の可否を目的とした試掘・確認調査（以下、試掘調査）を実施した。

3. 調査結果

調査は遺跡に隣接する開発予定地（89.8㎡）のうち、3ヶ所のトレンチを任意に設定し、人力による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った（第9図上）。

4. 調査結果

調査の結果、遺構は検出されなかったが、各トレンチより平安時代の土師器坏の破片（第15図1～3）などが出土したため、遺跡範囲を拡張することとした（第三章第2節5参照）。また、調査の結果を踏まえ、当委員会では慎重工事が望ましいと判断し、開発者側にその旨を回答した。

（設楽 政健）

第2節 合子沢松森（2）遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字合子沢字松森 開発行為：土地造成 調査期間：平成16年5月18日 調査面積：675㎡

2. 調査に至る経緯

5月上旬、周知の遺跡である合子沢松森（2）遺跡の南側隣接地において、土地造成が行われている状況を確認した。確認した段階で造成作業は既に終了しており、地表面から0.3～2m程度削平されている状況であった。現地を確認したところ削平された面に遺構らしき落ち込みが見られたことから、後日、開発者側と協議し試掘調査を実施した。

3. 調査方法

調査は、削平終了後であったことから、造成地全体（675㎡）を鋤簾がけし遺構の有無を確認した（第9図下）。

4. 調査結果

調査の結果、削平の度合いが薄い地点で4基の土坑を確認した。本調査区は、現時点で埋蔵文化財包蔵地として登録されていないものの、合子沢松森（2）遺跡が拡張することは間違いなく、次年度にこれまでの発掘調査成果等とあわせ遺跡範囲を確認し、範囲拡張を行うこととしている。

（小野 貴之）

第3節 細越館遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字細越字栄山 開発行為：駐車場造成 調査期間：平成16年5月20日 調査面積：40㎡

2. 調査に至る経緯

平成16年3月12日、青森市教育委員会文化財課に青森市細越字栄山の駐車場造成に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が開発者である三協運輸株式会社より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照会した結果、開発予定地が細越館遺跡（青森県遺跡台帳番号066）および栄山（3）遺跡（青森県遺跡台帳番号066）に該当していることが明らかとなり、三協運輸株式会社と協議し、平成16年5月20日に発掘調査の要否を目的とした試掘調査を実施した。

3. 調査方法

調査は、開発予定地（栄山（3）遺跡①と合せ16,377㎡）のうち、試掘可能な区域を対象に重機による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った（第10図上）。

4. 調査結果

調査の結果、計画地は既に削平され、遺構・遺物等は検出されなかった。当委員会ではその結果に基づき慎重工事が望ましいと判断し、三協運輸側にその旨を回答した。

（児玉 大成）

第4節 栄山（3）遺跡①

1. 調査概要

調査地：青森市大字細越字栄山 開発行為：駐車場に伴う雪捨て場造成 調査期間：平成16年5月20日 調査面積：25㎡

2. 調査に至る経緯

前節の細越館遺跡と同様の平成16年3月12日、青森市教育委員会文化財課に青森市細越字栄山の駐車場造成に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が開発者である三協運輸株式会社より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照会した結果、本遺跡に該当していることが明らかとなり、三協運輸株式会社と協議し、細越館遺跡とともに平成16年5月20日に発掘調査の要否を目的とした試掘調査を実施した。

3. 調査方法

調査は、開発予定地（細越館遺跡と合せ16,377㎡）のうち、試掘可能な区域を対象に重機による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った（第10図上）。

4. 調査結果

調査の結果、計画地より遺構・遺物等が検出されなかったため、当委員会ではその結果に基づき工事立会いが望ましいと判断し、三協運輸側にその旨を回答した。

（児玉 大成）

第5節 栄山（3）遺跡②

1. 調査概要

調査地：青森市大字細越字栄山 開発行為：水路付替え工事・進入路造成 調査期間：平成16年6月11・18日 調査面積：209㎡

2. 調査に至る経緯

平成16年5月12日、青森市建築指導課より土地売買届出書に対する意見照会を求められ、埋蔵文化財包蔵地の位置を照会した結果、栄山（3）遺跡（青森県遺跡台帳番号01-213）に該当していることが

明らかとなり、土地所有者および開発者側と協議し発掘調査の可否を目的とした試掘調査を実施した。

3. 調査方法

調査は、開発予定地内（約1,300㎡）に、6ヶ所のトレンチを任意に設定し、重機による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った（第10図上）。

4. 調査結果

調査の結果、大部分が土取りによる削平を受けていたが、1～3T、5T、6Tより平安時代の竪穴住居跡や土坑等を確認した（第10図下）。また、1Tより縄文中期（円筒上層式）の土器片等（第15図4～6）が出土した。

以上の結果を踏まえ、当委員会では開発地全体の発掘調査が必要であると判断し、開発者側にその旨を伝えた。

（児玉 大成）

第6節 安田近野（1）遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字安田字近野 開発行為：宅地分譲 調査期間：平成16年6月17日 調査面積：8㎡

2. 調査に至る経緯

平成16年5月14日、青森市教育委員会文化財課に青森市安田字近野の宅地分譲造成に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が開発者の依頼を受けた測量会社より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照合した結果、安田近野（1）遺跡（青森県遺跡台帳番号01-014）に該当していることが明らかとなり、開発者側と協議し発掘調査の可否を目的とした試掘調査を実施した。

3. 調査方法

調査は、開発予定地（2,594㎡）のうち、試掘可能な部分に2ヶ所のトレンチを任意に設定し、重機による掘削を行った（第13図上）。

4. 調査結果

調査の結果、本計画地全体が既に削平されていることを確認したため、当委員会では慎重工事が望ましいと判断し、開発者側にその旨を回答した。

（児玉 大成）

第7節 三内丸山（6）遺跡①

1. 調査概要

調査地：青森市大字三内字丸山 開発行為：アパート建設 調査期間：平成16年6月10日 調査面積：201㎡

2. 調査に至る経緯

平成16年6月1日、青森市教育委員会文化財課に青森市三内字丸山のアパート建設に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が開発者の依頼を受けた工事施工業者より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照合した結果、三内丸山（6）遺跡（青森県遺跡台帳番号01-282）に該当していることが明らかとなり、開発者側と協議し発掘調査の可否を目的とした試掘調査を実施した。

3. 調査方法

調査は、開発予定地内（1,132㎡）に3ヶ所のトレンチを任意に設定し、重機による掘削及び必要に

応じて鋤簾がけを行った（第11図上）。

4. 調査結果

調査の結果、1Tより近現代の溝跡や小ピット、2Tより平安時代の竪穴住居跡、3Tでは掘削に伴う攪乱層を検出した（第11図下）。また、遺物は2Tの攪乱層より縄文後期前半の土器片（第15図7）、竪穴住居跡のカマドより土師器片（第15図8～12）が出土した。

以上の結果を踏まえ当委員会では、1T・3T付近を立会工事、2T付近を発掘調査が必要であると判断し、開発者側にその旨を回答した。

（児玉 大成）

第8節 三内丸山（6）遺跡②

1. 調査概要

調査地：青森市大字三内字丸山 開発行為：鉄塔建設 調査期間：平成16年7月13日 調査面積：102㎡

2. 調査に至る経緯

平成16年6月22日、青森市教育委員会文化財課に青森市三内字丸山の携帯電話電波塔建設に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が開発者の依頼を受けた設計業者より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照合した結果、三内丸山（6）遺跡（青森県遺跡台帳番号01-282）に該当していることが明らかとなり、開発者側と協議し発掘調査の可否を目的とした試掘調査を実施した。

3. 調査方法

調査は、開発予定地内（330㎡）に2ヶ所のトレンチを任意に設定し、重機による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った（第11図上）。

4. 調査結果

調査の結果、計画地全体が深く削平されており、現状の畑地は削平後に黒土が盛られていることを確認した。このため当委員会では慎重工事が望ましいと判断し、開発者側にその旨を回答した。

（児玉 大成）

第9節 三内丸山（8）遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字三内字丸山 開発行為：宅地分譲 調査期間：平成16年9月22日 調査面積：482㎡

2. 調査に至る経緯

平成16年8月11日、青森市教育委員会文化財課に青森市三内字丸山の宅地分譲に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が開発者（大手建築業者）の依頼を受けた設計業者より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照合した結果、三内丸山（8）遺跡（青森県遺跡台帳番号01-315）に近接していたため、開発者側と協議し発掘調査の可否を目的とした試掘調査を実施した。

3. 調査方法

調査は、開発予定地内（4,300㎡）に6ヶ所のトレンチを任意に設定し、重機による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った（第12図上）。

4. 調査結果

調査の結果、1T～3Tより溝跡、6Tより竪穴住居跡と思われる落ち込みを検出し、3Tの溝跡や

6 Tの住居跡様の落ち込みは出土遺物から平安時代のものと思われる（第12図下）。遺物は、各トレンチより平安時代の土師器が主体を占め甕や坏（第15・16図13～21）、土製支脚（第16図22）、鉄滓（第16図24）、縄文時代中期以降の台付鉢の台部（第16図23）などが出土した。

以上の結果を踏まえ、三内丸山（8）遺跡の範囲が拡張されるとともに、開発地全体の発掘調査が必要であると判断し、開発者側にその旨を伝えた。

（児玉 大成）

第10節 三内沢部（1）遺跡

1. 調査概要

調査地：青森市大字三内字沢部 開発行為：施設建設 調査期間：平成16年12月1～3日 調査面積：40㎡

2. 調査に至る経緯

平成16年7月20日、青森市教育委員会文化財課に青森市三内字沢部のグループホーム建設に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が開発者の不動産業者より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照合した結果、三内沢部（1）遺跡（青森県遺跡台帳番号01-064）に該当していることが明らかとなり、開発者側と協議し発掘調査の要否を目的とした試掘調査を実施した。

3. 調査方法

調査は、開発予定地（1,386㎡）のうち、8ヵ所のトレンチを任意に設定し重機による掘削及び必要に応じて鋤簾がけを行った（第13図下）。

4. 調査結果

調査の結果、一部のトレンチのみ削平され、多くのトレンチにおいてプライマリーな堆積が見られたが、遺構・遺物は確認されなかった。このため当委員会では慎重工事が望ましいと判断し、開発者側にその旨を回答した。

（設楽 政健）

第11節 三内丸山地区

1. 調査概要

調査地：青森市大字三内字丸山 開発行為：電力鉄塔建設 調査期間：平成16年9月21日・10月2日 調査面積：83㎡

2. 調査に至る経緯

平成16年3月8日、青森市教育委員会文化財課に青森市三内字丸山の電力鉄塔建設に係る「埋蔵文化財（遺跡）等協議書」が開発者である東北電力株式会社青森支店より提出された。埋蔵文化財包蔵地の位置関係を照合した結果、特別史跡 三内丸山遺跡の付近に位置していたため、開発者側と協議し発掘調査の要否を目的とした試掘調査を実施した。

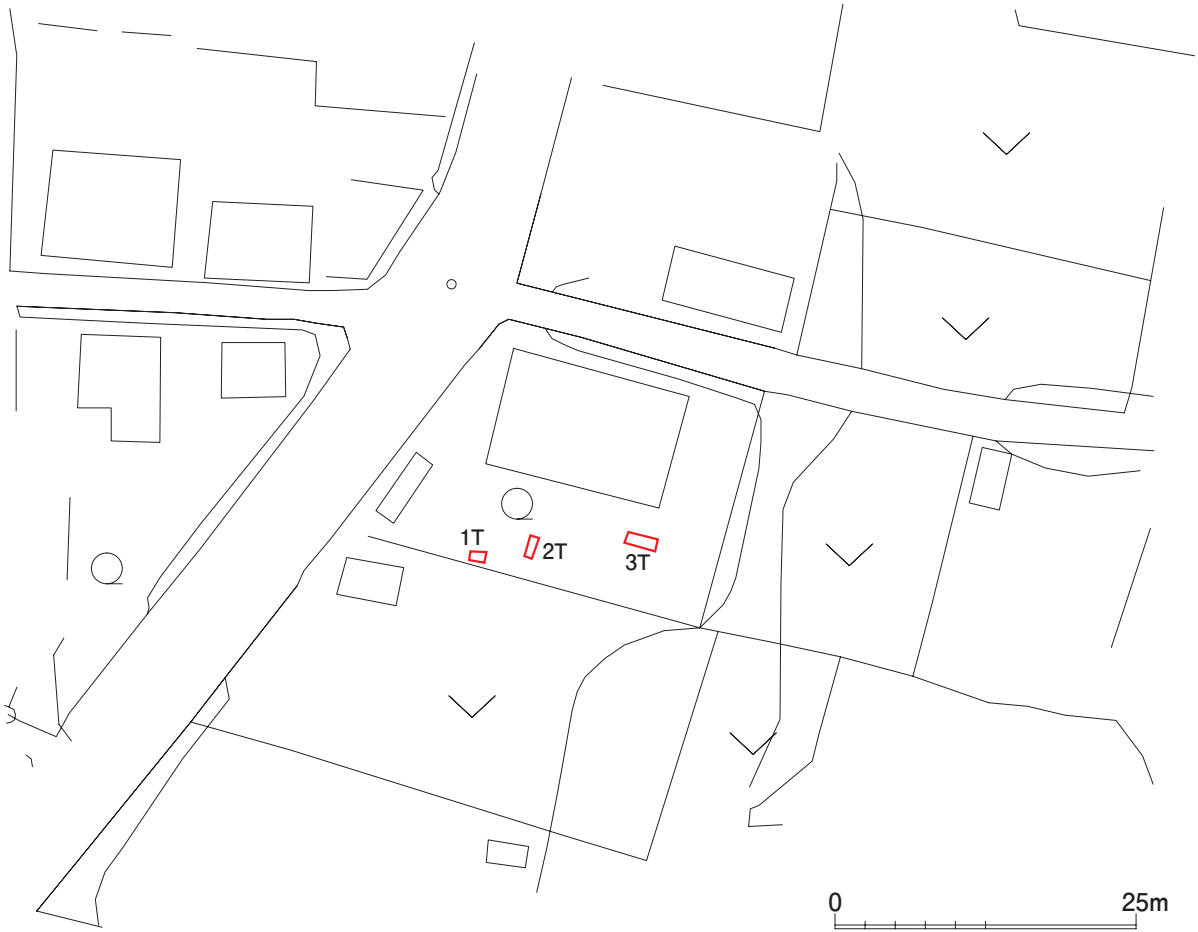
3. 調査方法

鉄塔建設予定地が2地点あり、西側を9月21日、東側を10月2日に試掘調査を実施した。調査は、それぞれの地点に対し3ヶ所のトレンチを任意に設定し、人力による掘削及び鋤簾がけを行った。調査面積は、西側が50㎡、東側が33㎡である。

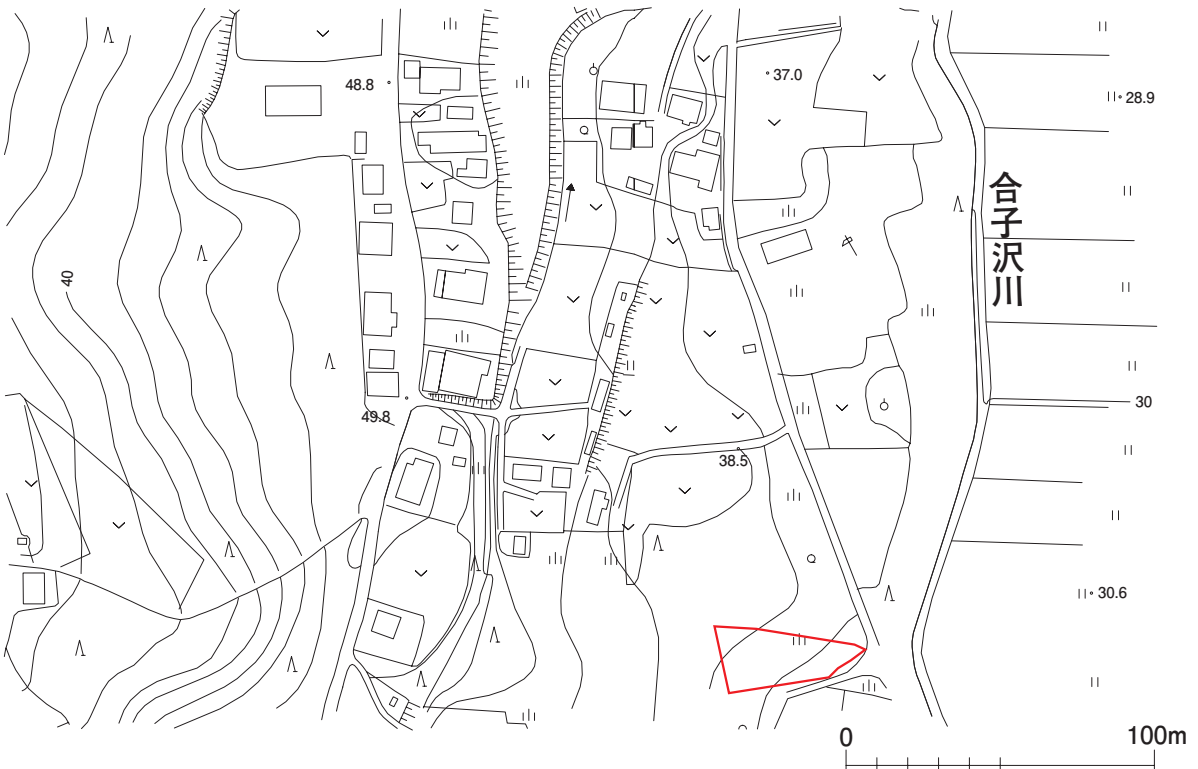
4. 調査結果

調査の結果、両地点より遺構・遺物は検出されなかった。このため当委員会では埋蔵文化財包蔵地の

三内丸山(3)遺跡

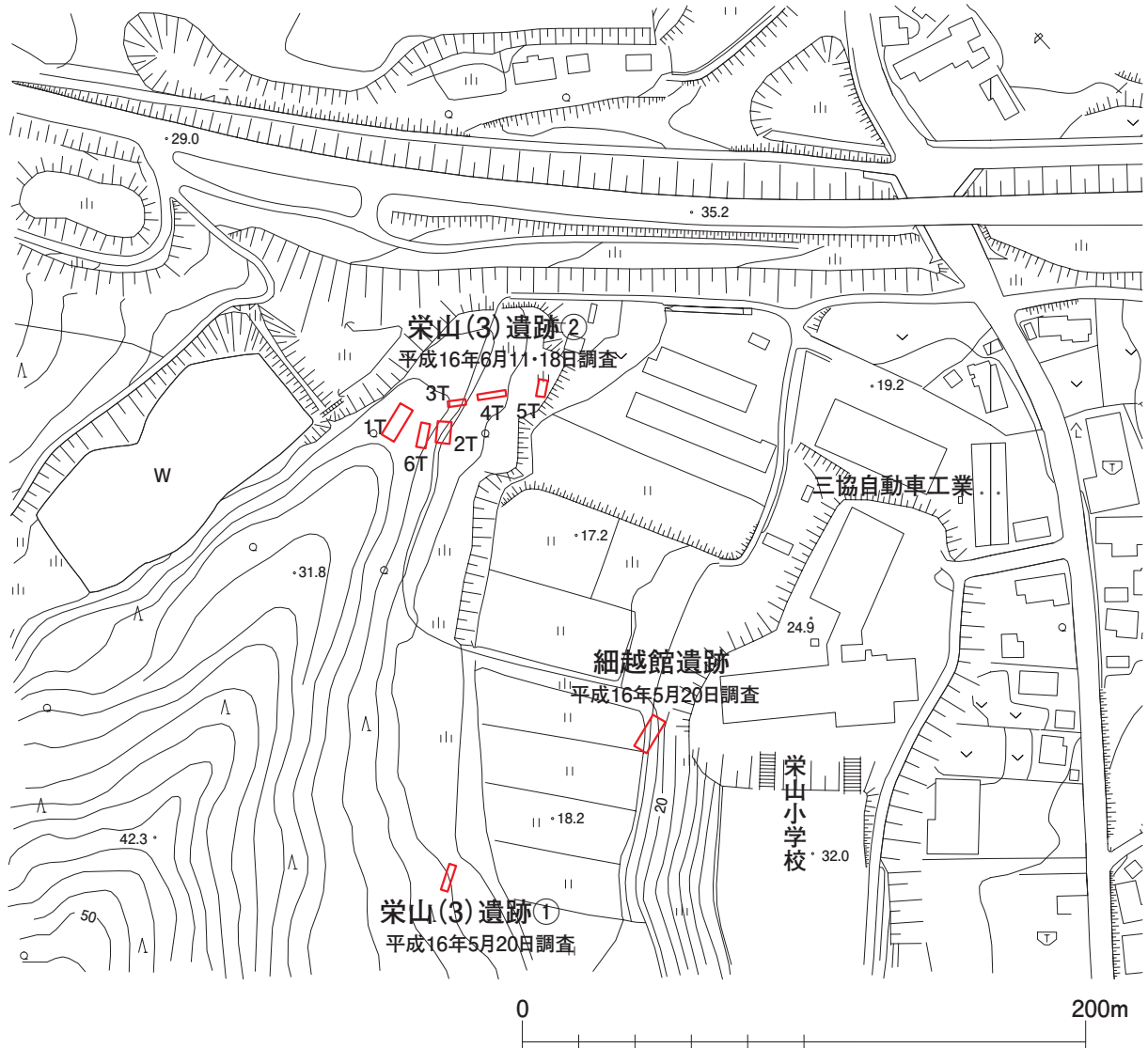


合子沢松森(2)遺跡

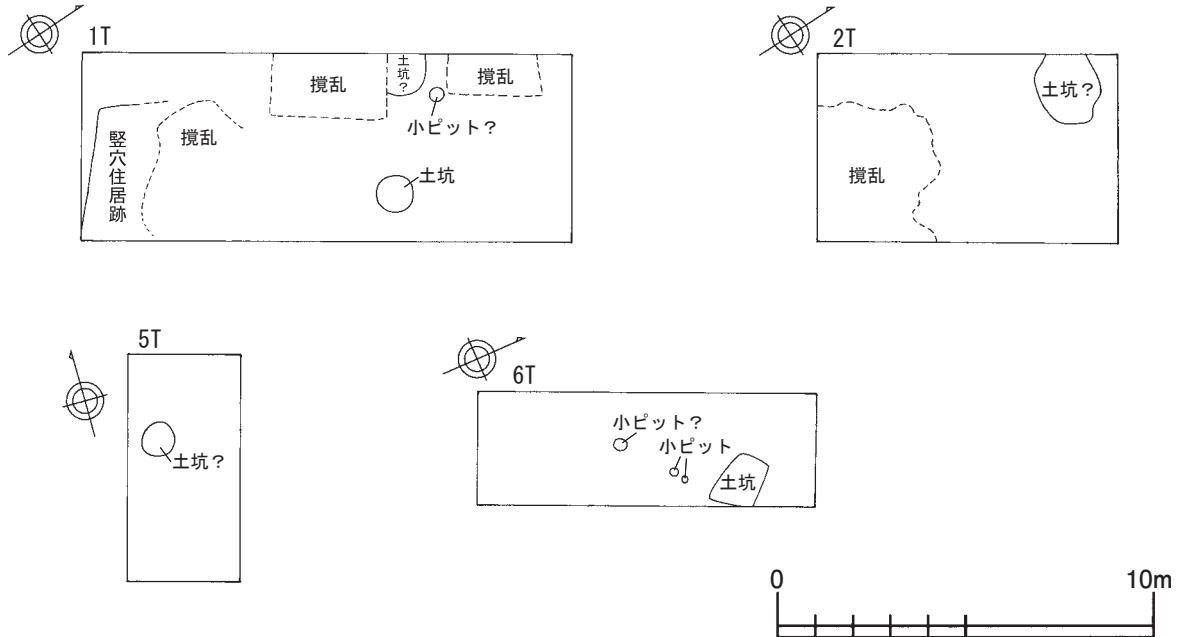


第9図 試掘調査地点(1)

細越館遺跡、栄山(3)遺跡

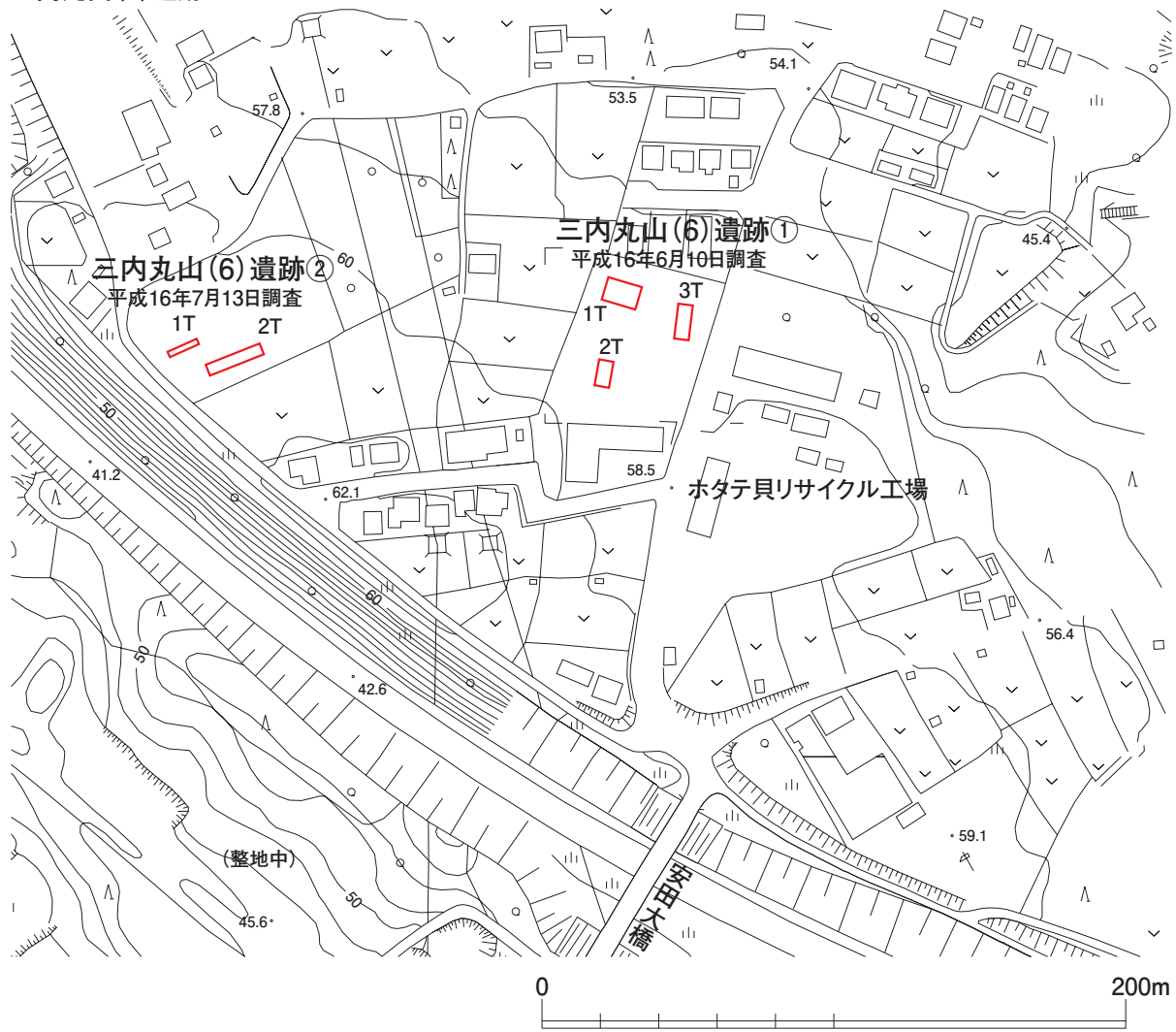


栄山(3)遺跡② 遺構確認状況

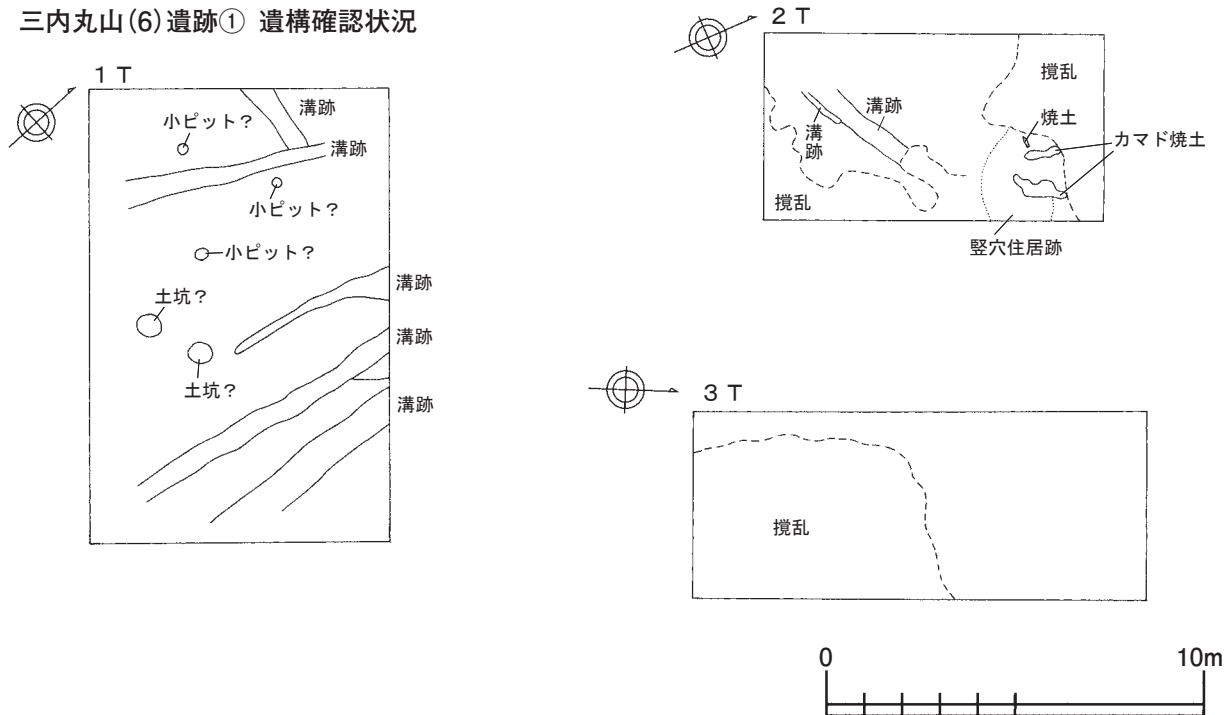


第10図 試掘調査地点 (2)

三内丸山(6)遺跡

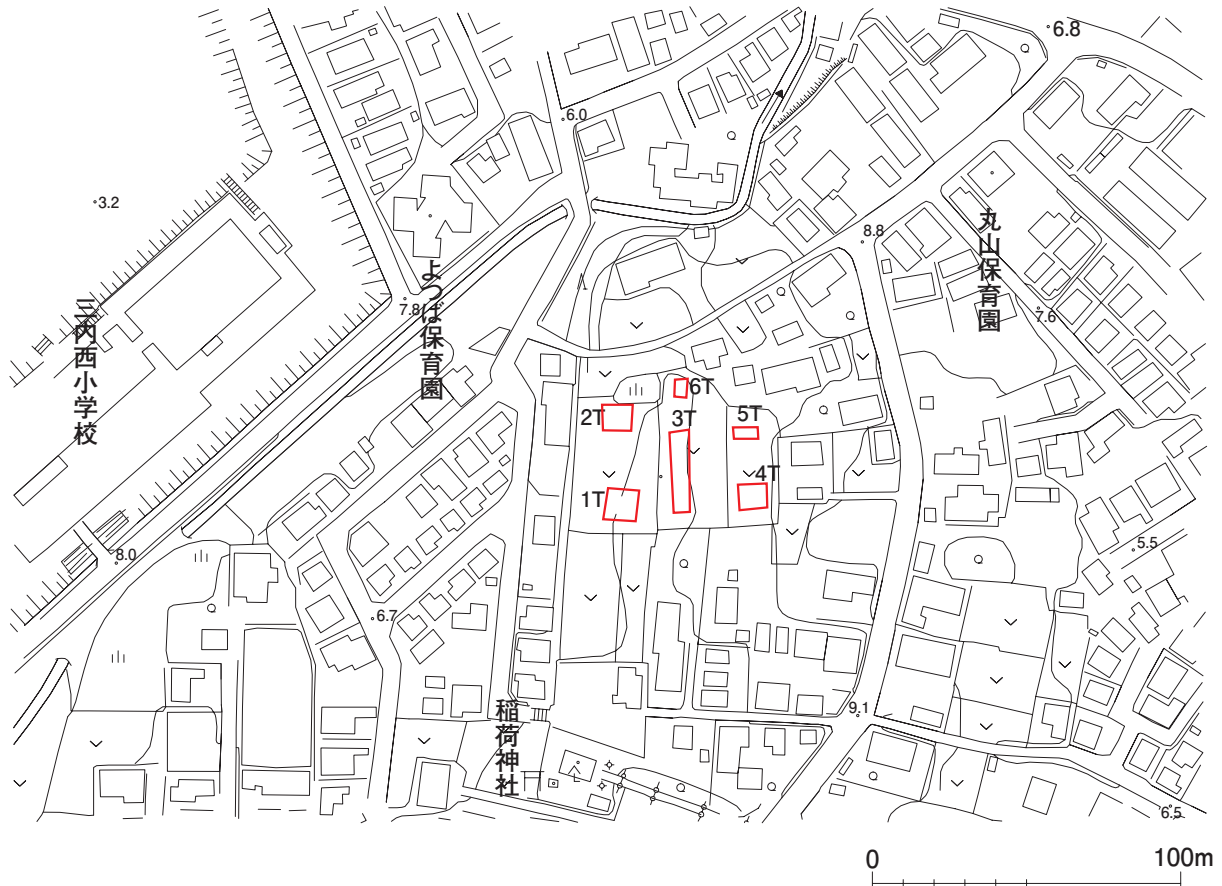


三内丸山(6)遺跡① 遺構確認状況

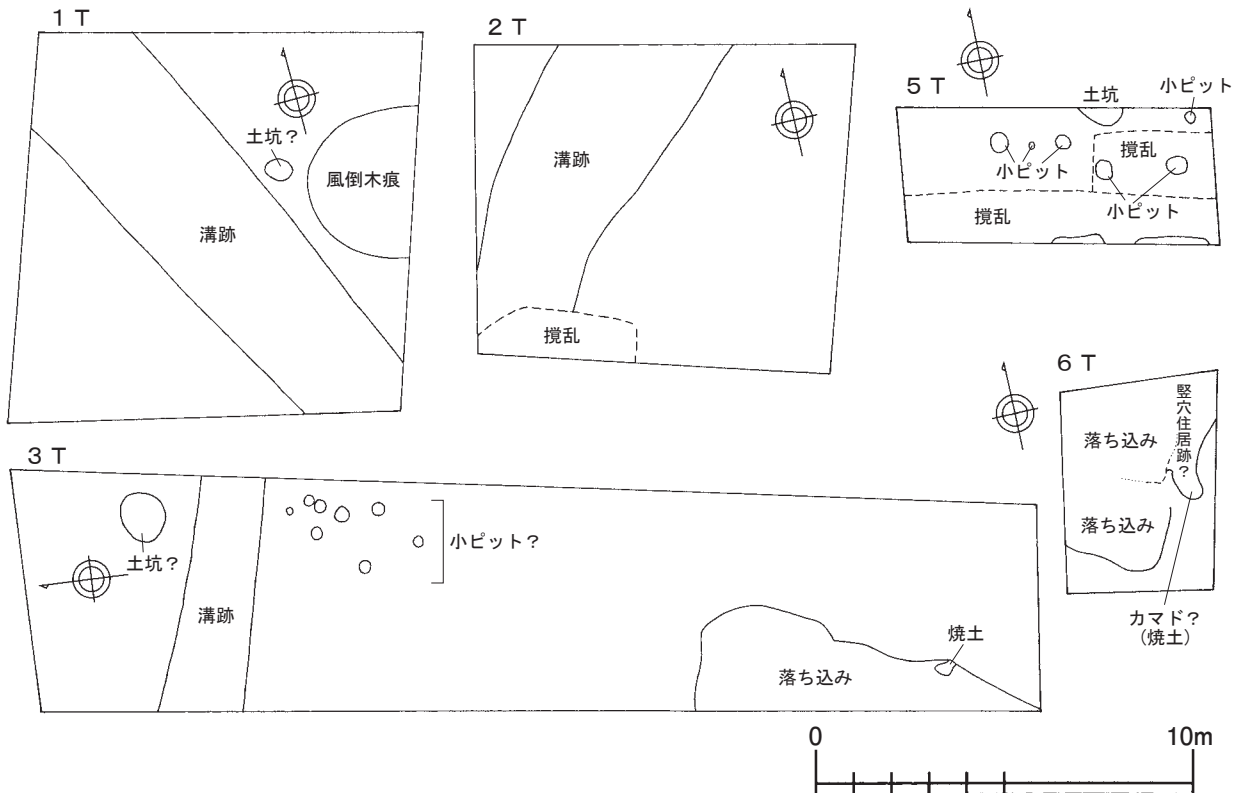


第11図 試掘調査地点(3)

三内丸山(8)遺跡

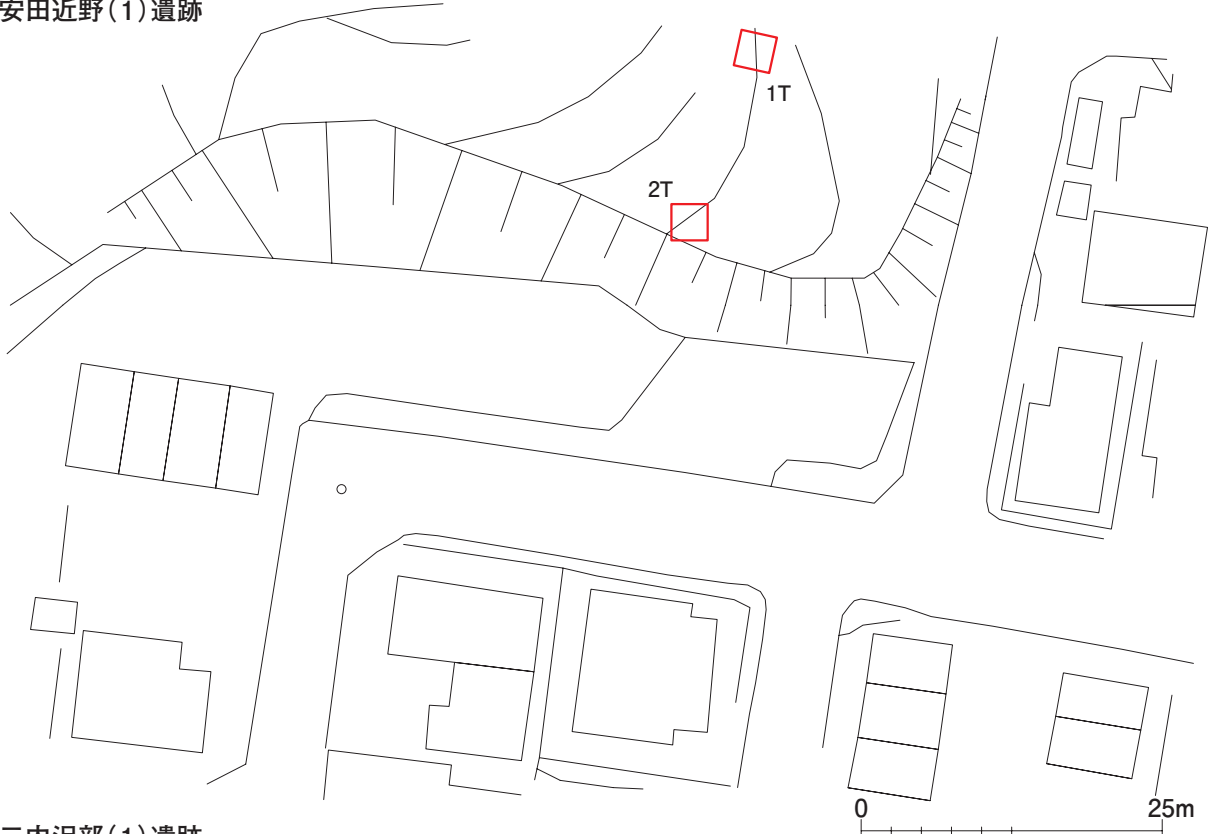


三内丸山(8)遺跡 遺構確認状況

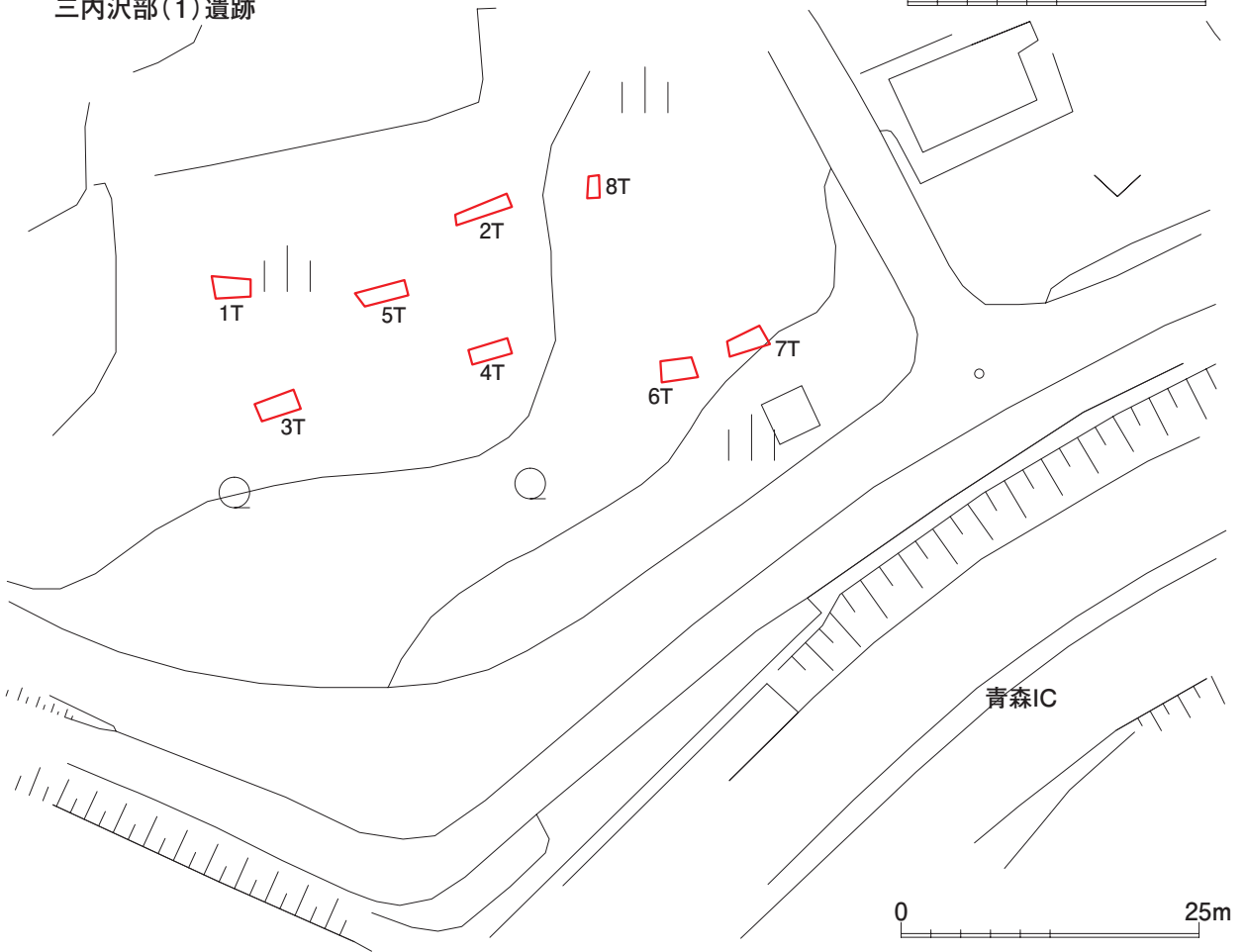


第12図 試掘調査地点(4)

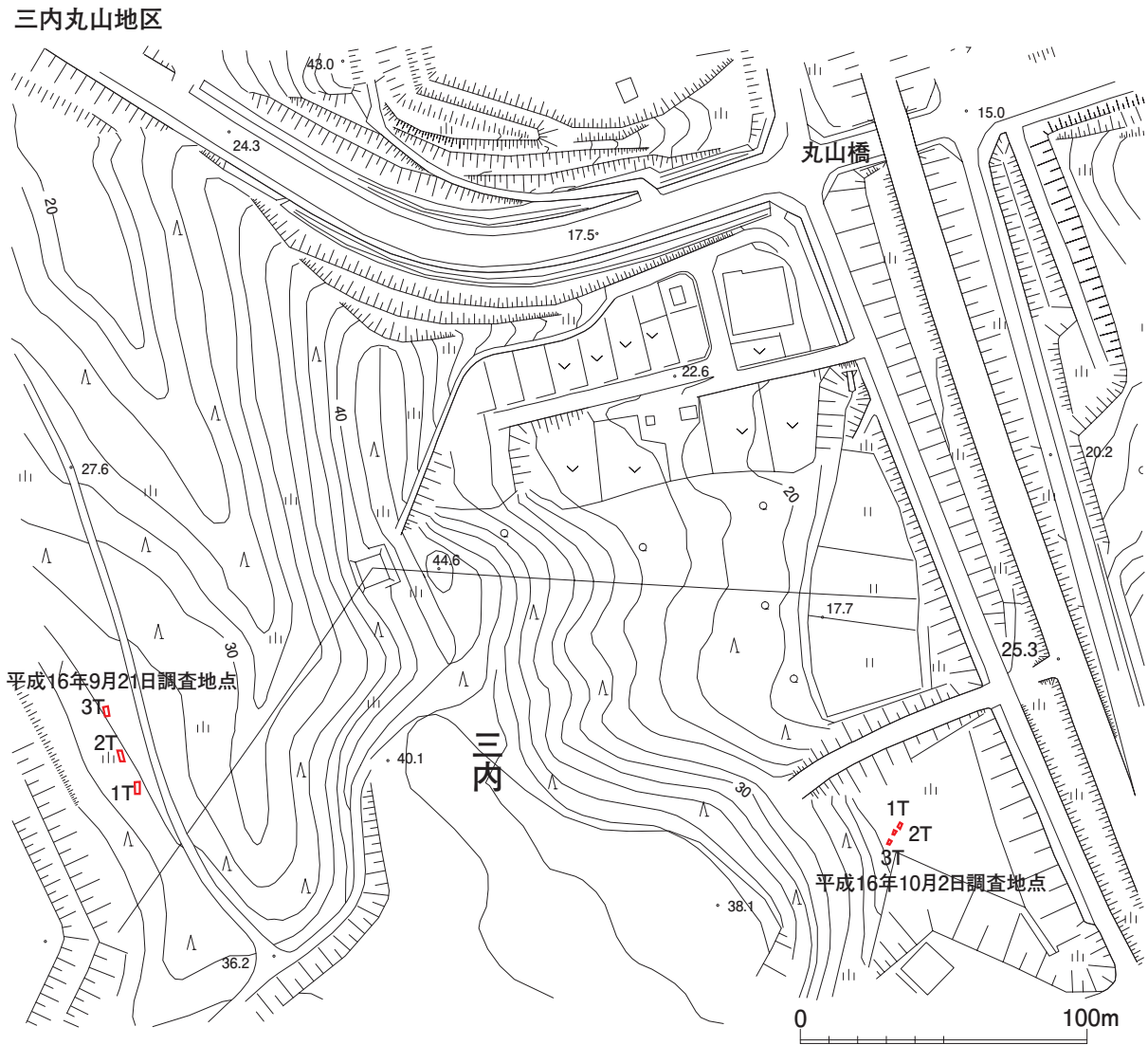
安田近野(1)遺跡



三内沢部(1)遺跡



第13図 試掘調査地点(5)

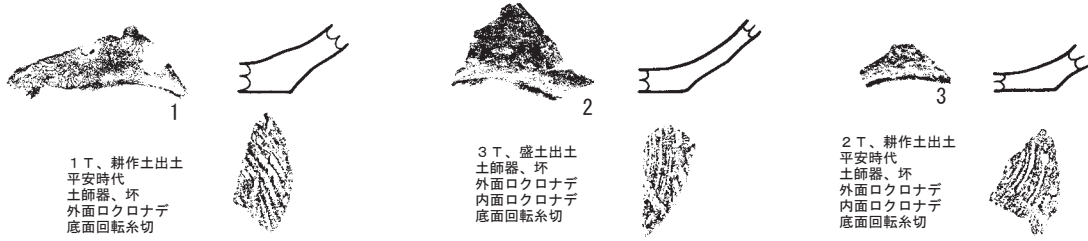


第14図 試掘調査地点（6）

新規登録は不要と判断したものの、念のため開発者側には慎重な工事を実施するように回答した。

（設楽 政健）

三内丸山(3)遺跡

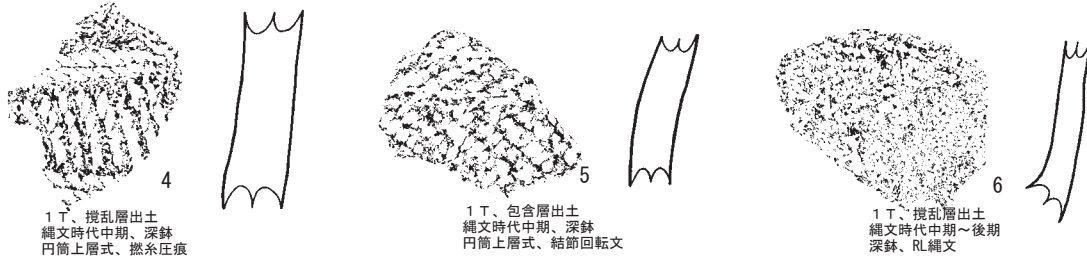


1 T、耕作土出土
平安時代
土師器、坏
外面ロクロナデ
底面回転糸切

3 T、盛土出土
土師器、坏
外面ロクロナデ
内面ロクロナデ
底面回転糸切

2 T、耕作土出土
平安時代
土師器、坏
外面ロクロナデ
内面ロクロナデ
底面回転糸切

栄山(3)遺跡②

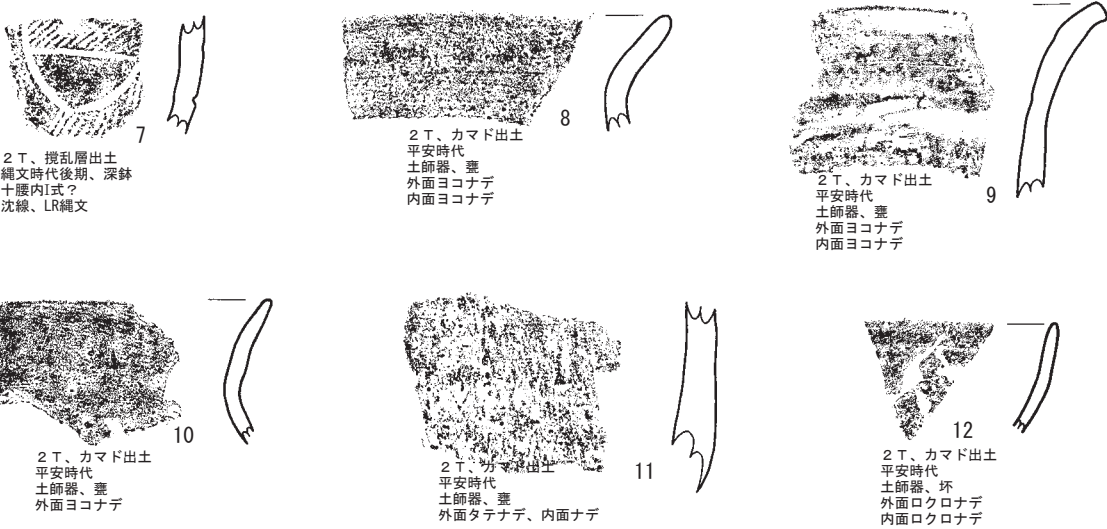


1 T、攪乱層出土
縄文時代中期、深鉢
円筒上層式、燃糸圧痕

1 T、包含層出土
縄文時代中期、深鉢
円筒上層式、結節回転文

1 T、攪乱層出土
縄文時代中期～後期
深鉢、RL縄文

三内丸山(6)遺跡①



2 T、攪乱層出土
縄文時代後期、深鉢
十腰内I式
沈線、LR縄文

2 T、カマド出土
平安時代
土師器、壺
外面ヨコナデ
内面ヨコナデ

2 T、カマド出土
平安時代
土師器、壺
外面ヨコナデ
内面ヨコナデ

2 T、カマド出土
平安時代
土師器、壺
外面ヨコナデ

2 T、カマド出土
平安時代
土師器、壺
外面タテナデ、内面ナデ

2 T、カマド出土
平安時代
土師器、坏
外面ロクロナデ
内面ロクロナデ

三内丸山(8)遺跡



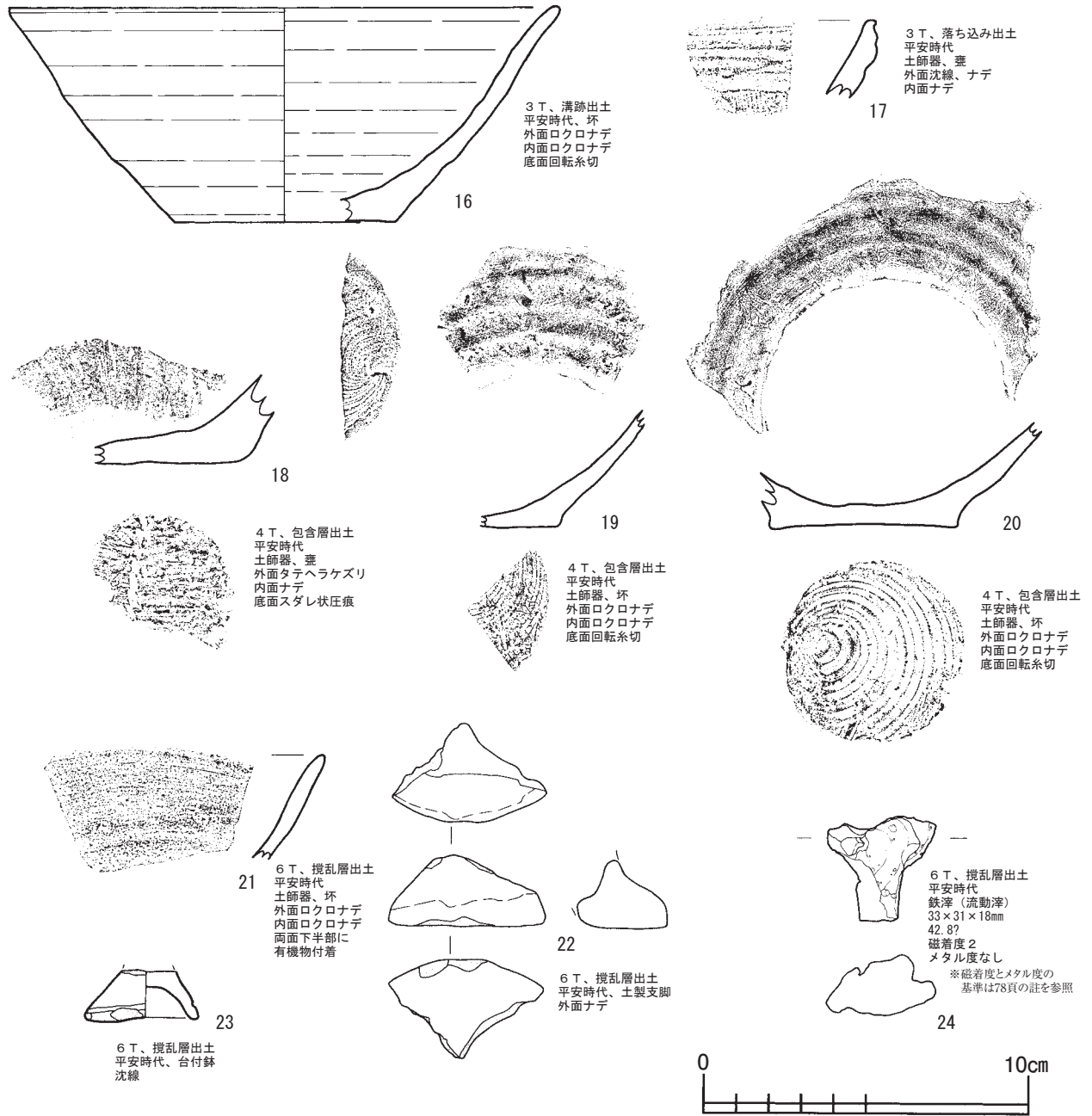
1 T、風倒木痕出土
平安時代、坏
土師器、外面ロクロナデ
内面ロクロナデ、内黒

1 T、風倒木痕出土
平安時代
土師器、壺
外面タテヘラケズリ
内面ナデ

3 T、溝跡出土
平安時代
土師器、壺
外面口線ヨコナデ、胴部ヘラナデ
内面ヨコナデ

第15図 試掘・確認調査出土遺物(1)

三内丸山(8)遺跡



第16図 試掘・確認調査出土遺物(2)



三内丸山(3)遺跡: 1 T完掘状況



三内丸山(3)遺跡: 3 Tセクション



細越館遺跡: 堀跡(参考)



細越館遺跡: 完掘状況



栄山(1)遺跡①: 完掘状況



栄山(1)遺跡②: 調査状況



栄山(3)遺跡②: 1 T完掘状況



栄山(3)遺跡②: 6 T土坑検出状況



安田近野(1)遺跡: 調査状況



三内丸山(6)遺跡①: 1 T完掘状況



三内丸山(6)遺跡①: 2 Tカマド出土土師器



三内丸山(6)遺跡②: 2 T完掘状況



三内丸山(8)遺跡: 2 T溝跡検出状況



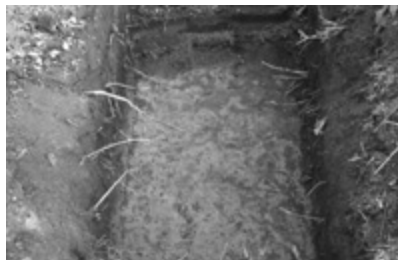
三内丸山(8)遺跡: 3 T溝跡上面出土土師器



三内丸山(8)遺跡: 6 T完掘状況



三内沢部(1)遺跡: 2 T完掘状況



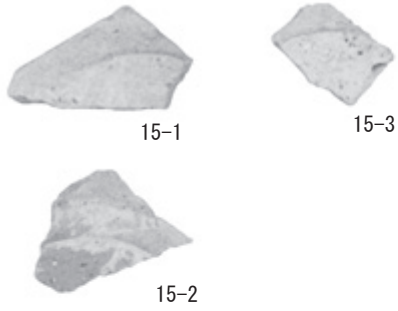
三内沢部(1)遺跡: 7 T完掘状況



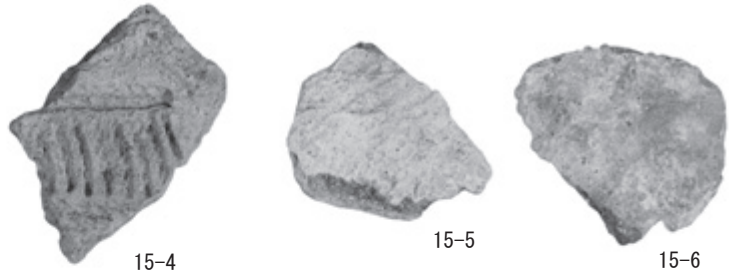
三内丸山地区調査状況

写真3 試掘・確認調査

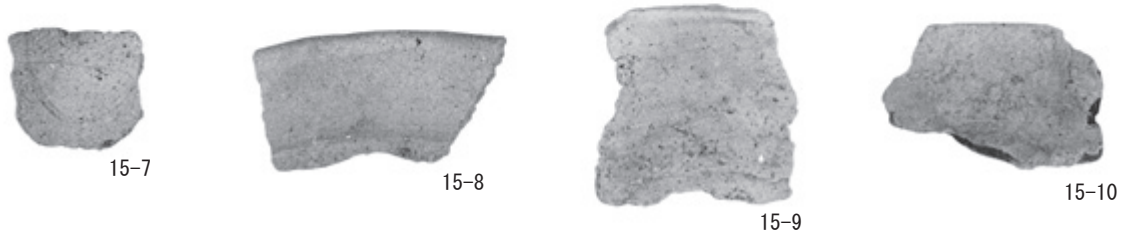
三内丸山(3)遺跡



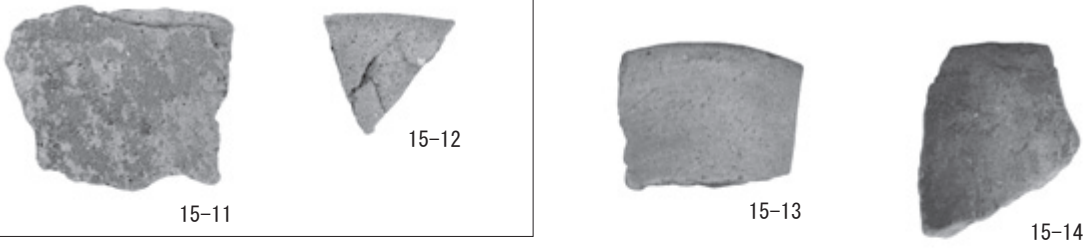
栄山(3)遺跡②



三内丸山(6)遺跡①



三内丸山(8)遺跡



※番号は図版番号と合致
(例) 15-1→第15図1

写真4 試掘・確認調査出土遺物

第Ⅵ章 発掘調査—栄山（3）遺跡—

第1節 調査の概要

1. 調査に至る経緯

平成16年5月12日、青森市大字細越字栄山地内の不動産取引に鑑み、青森市建築指導課より土地売買届出書（国土利用計画法第23条第1項に基づく）に対する意見照会を求められた。埋蔵文化財包蔵地の位置を確認した結果、届出地が栄山（3）遺跡（青森県遺跡台帳番号01-213）に該当していることが明らかとなった。遺跡該当部分の土地は、2つの区画に分筆後、うち一区画を三協運輸株式会社と売買することになっており、三協運輸購入地が駐車場造成に伴う水路付替え工事、残地の個人所有地が進入路造成を行う計画となっていた。このため、土地所有者および三協運輸と開発計画と埋蔵文化財の取り扱いについて協議し、平成16年6月11日・18日に発掘調査の可否を目的とした試掘・確認調査（以下、試掘調査）を実施した。試掘調査の結果、個人進入路造成区域より竪穴住居跡や土坑、三協運輸側の区域より土坑や小ピットなどを確認したため、土地所有者および三協運輸と再度協議し、平成16年7月12日～8月20日の期間で発掘調査を実施することとなった。

発掘調査については、個人進入路造成区域を国庫補助事業区として、三協運輸側の水路付替え工事区域を原因者負担区として対応することとした（第17図）。

本報告では、個人進入路造成に伴う国庫補助事業区の発掘調査成果を対象とし、三協運輸側の原因者負担区については本年度刊行の『栄山（3）遺跡発掘調査報告書』（青森市埋蔵文化財調査報告書第76集）に掲載している。



第17図 調査区位置図（1：2,500）

2. 調査要項

調査目的

個人敷地造成（進入路造成）に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用資する。

なお、本事業は営利目的とした事業でないため、国・県の補助金交付を受け実施するものである。

遺跡名及び所在地 栄山（3）遺跡（青森県遺跡番号 01213）

青森市大字細越字栄山658-2

事業実施期間 平成16年7月12日～平成17年3月31日

発掘調査期間 平成16年7月12日～平成16年8月20日

調査面積 380㎡

調査担当機関 青森市教育委員会事務局文化財課

調査指導機関 文化庁文化財部記念物課

青森県教育庁文化財保護課

調査体制

調査事務局 青森市教育委員会事務局

教 育 長	角田詮二郎	文化財主事	小野 貴之
教 育 部 長	古山 善猛	〃	木村 淳一
教 育 次 長	最上 進	〃	児玉 大成（調整担当）
参事・文化財課長事務取扱	遠藤 正夫	〃	設楽 政健
主 幹	多田 弘仁	主 事	宮本 大輔（庶務担当）
主 査	辻 文子	〃	足澤 愛子（庶務担当）

調査担当者 青森市埋蔵文化財調査員 一町田 工

3. 調査方法

グリッドの設定は、平成11年度に青森県埋蔵文化財調査センターの発掘調査で使用していたグリッドを拡張し、調査区内に4m×4mのメッシュを組んだ（第18図）。グリッド杭の表示は、AA-25（X=88,196.0、Y=10,200.0）を起点とし、北へA、B、C…、南へAB、AC、AD…の順にアルファベットを付し、また東へ24、23、22…、西へ26、27、28…の順に算用数字を付した。各グリッドの名称は、アルファベットと算用数字を組み合わせて示し、南東角のグリッド杭の名称によるものとした。

調査区域での測量原点は、市立栄山小学校敷地内にある水準点（青2K7 H=25.072m）より移動を行い、AA-25のグリッド杭に標高26.503mの原点を設置した。これを基準として調査区全域に対処するため適宜数箇所を設置した。

各遺構は、種類別、確認順に遺構番号を付した。遺構精査にあたっては、原則として4分法、2分法を用いることとし、その他必要に応じ土層観察用ベルトを設置した。遺構の実測図作成においては、平面図、断面図を主体に作成した。実測にあたっては、基本的に簡易遣り方測量で行い、縮尺については、原則として20分の1とし、その他必要に応じ10分の1とした。

写真撮影については、土層断面、完掘状況を主体に撮影し、必要に応じ遺物出土状況を撮影した。フ

イルムは、モノクロームとカラーリバーサルを併用した。

出土遺物の取り上げに関して遺構内出土遺物は、基本的に堆積土の層位毎に一括して取り上げた。遺構外出土遺物は、原則的にグリッド単位で層位毎に一括して取り上げた。

4. 調査経過

発掘調査は、平成16年7月12日に着手し、重機による表土除去を行い、公共座標に関連付けたグリッド杭を打設した。また、栄山小学校敷地内の水準点より原点移動を行い調査区内に測量原点を設置した。その後、発掘調査区を鋤簾がけし、遺構確認面の精査を行った。

8月上旬には、堅穴住居跡（S I -01）より基石と思われる白黒の自然石が出土し、8月11日付の新聞記事（東奥日報）に紹介された。

遺構確認および精査は、調査終了日の8月20日まで行い、同日中にすべての作業を終了した。

5. 遺跡の環境

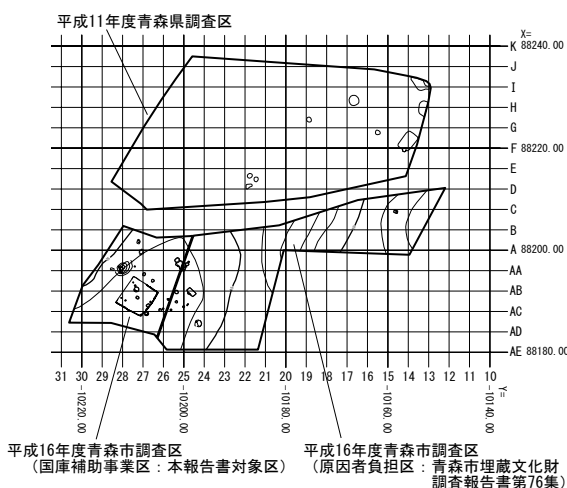
本遺跡が所在する青森市は、北の陸奥湾に面する青森平野とこれを取り囲む、東部の山地、南部に広がる火山性台地、西部の丘陵地からなる。本遺跡は、市内西部の丘陵地の北東端付近に位置し、南北に伸びる遺跡の北端を、青森県埋蔵文化財調査センターが平成11年度に東北縦貫自動車建設に伴う発掘調査を実施している。

調査前の現状は、かつて行われた黒土の土取り痕が表土上及び試掘調査の段階で広範囲にわたって認められた。

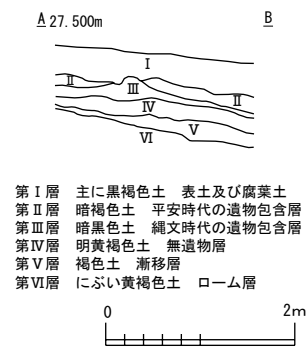
遺構内の土層（第19図）は、基本的に6分される層序となっており、第II層が平安時代、第III層が縄文時代に相当し、第IV層以下は無遺物層となっている。

このような基本層序は、市内丘陵地に立地する遺跡では概ね同様の状況で確認されている。

（児玉 大成）

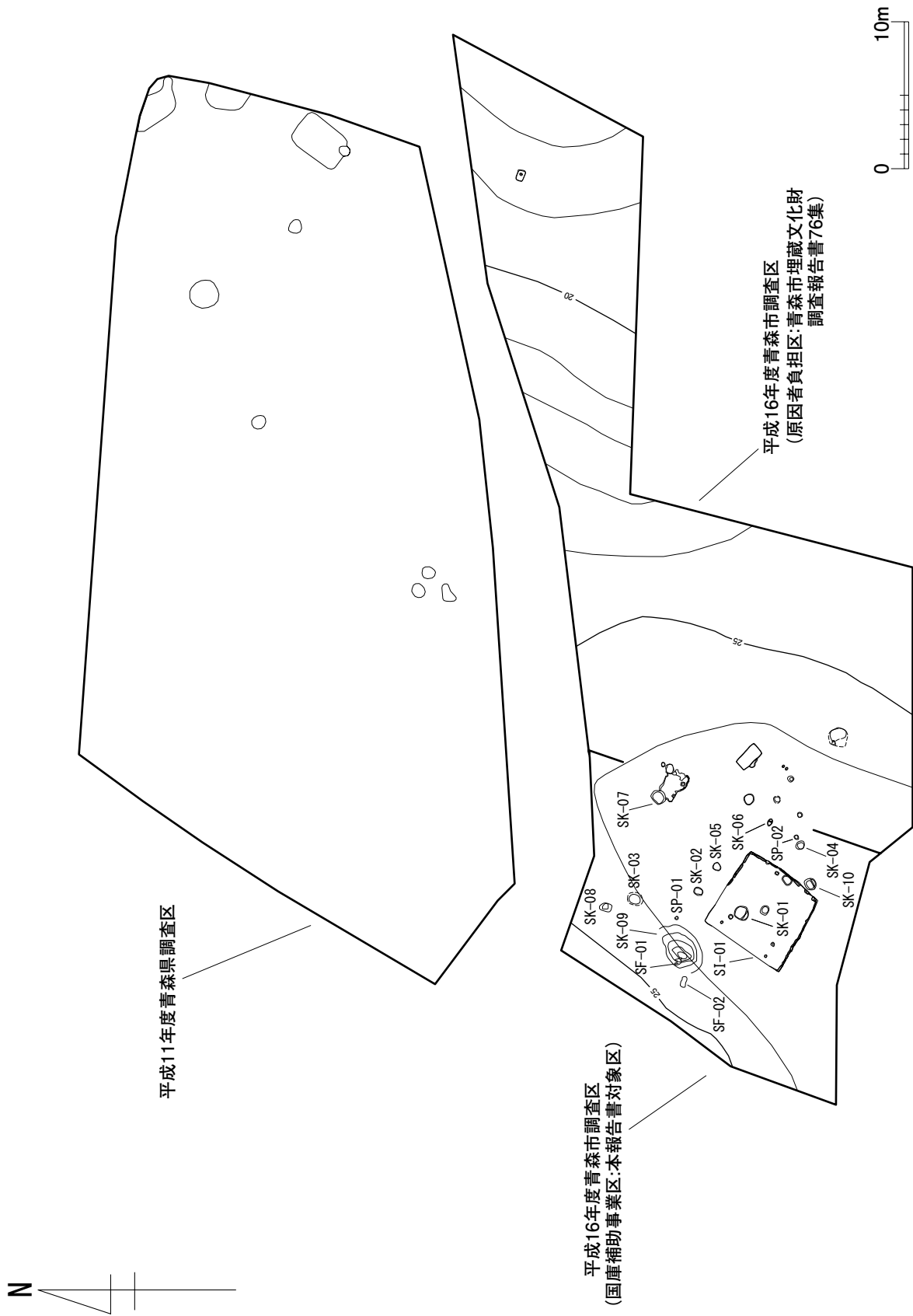


第18図 グリッド配置図 (1:2,500)



第19図 基本層序

- 第I層 主に黒褐色土 表土及び腐葉土
- 第II層 暗褐色土 平安時代の遺物包含層
- 第III層 暗黒色土 縄文時代の遺物包含層
- 第IV層 明黄褐色土 無遺物層
- 第V層 褐色土 漸移層
- 第VI層 にぶい黄褐色土 ローム層



第20図 遺構配置図

第2節 検出遺構

本調査区より検出した遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑10基、小ピット2基、焼土遺構2基である。

1. 竪穴住居跡（S I - 0 1）

本調査区より1軒検出した（第21～25図）。

[位置] AB・AC-26～28、AD-26・27グリッドで検出した。本遺構は基本層序第V層上面、標高26.9mの地点からにぶい黄褐色土の落ち込みを確認した。

[重複] SK-01土坑と重複しているが、本遺構の方が古いものである。

[平面・規模] 削平のため全体形は確認できないが、ほぼ方形を呈するものと思われる。計測可能な範囲内での規模は、南東壁辺5.7m、南西壁辺5.5m、北東壁辺5.6m、北西壁辺6.1mを計り、確認面から床面までの深さは最深部で20cm、床面積は35.4㎡であった。

[壁] 残存する南東壁と南西壁は、ほぼ垂直に立ち上がっている。

[床] ほぼ平坦で堅緻である。北東から北西側の床面は辛うじて残存し、重機による削平の際のキヤタピラー痕が部分的にみられる。

[壁溝] 南東壁側、南西壁側及び北東壁側で確認した。

[小ピット] 柱穴と思われる小ピットを壁際に3基、床面に5基の計8基を確認した。北西側に支柱穴と考えられるpit 7・8が確認されたが、対応する柱穴痕が確認できないため明確な支柱配置は不明である。壁際のpit 2、4、5（深さ15～73cm）は壁柱穴と考えられる。出土遺物はpit 4、5、6からそれぞれ土師器甕片1点が出土している。個々の小ピットの規模等については第5表の属性表に示す。

[堆積土] 壁溝も含め14層に分層されるが、一部人為堆積土や攪乱によるものも含まれる。

[カマド] なし。

[焼土範囲] 住居跡の南隅側に3m前後に広がる不整形の焼土範囲を確認した。焼土範囲の堅さ、焼土粒や炭化粒の混入の程度から4層に分層され、その範囲は次第に狭まっており、最上にある焼土範囲を焼土範囲1と呼称し、以下、層位順に焼土範囲2、3、4とした。焼土範囲1（第21図上）は本住居跡の南東に広がる長軸310cm、短軸260cmの不整形を呈し、焼土粒及び焼土ブロックを含む褐色土層である。焼土範囲2（第21図下）は、焼土範囲1の下層に位置し長軸238cm、短軸218cmの不整形を呈し、焼土範囲1より粘土状で焼土粒の混入の多い褐色土層である。焼土範囲3（第22図上）は、焼土範囲2の下層に範囲を狭めながら広がっており、長軸180cm、短軸125cmの不整形を呈し、焼土範囲2よりもさらに多くの焼土粒及び炭化物粒を含む層である。焼土範囲4（第23図上）は、焼土範囲3の東側下層に位置し、長軸73cm、短軸68cmの不整形を呈し、全体が焼土により形成されている。

[炉跡状遺構] 炉跡状遺構（第22図）は、本住居跡の南隅寄りに確認され、長軸61cm、短軸33cm、厚さ7cmの不整形を呈する。炉跡状遺構の焼土層は2層に分層され、1層は粘土を約1cm程貼り付けたような状態で焼けて堅くしまっている。2層は明赤褐色の強い焼土である。1・2層とも強い熱変化を受け赤色化している。

[その他の付属施設] 本遺構に付属する施設として土坑2基（sk 01・sk 02）が認められる。

sk 01（第21、24図）は、住居跡のほぼ中央で確認され長軸66cm、短軸52cm、深さ13cmの円形を呈する。堆積土は3層に分層され、1、2層は焼土粒、焼土ブロック、炭化粒を含み、3層は炭化粒を微量

に含んでいる。遺物は土師器片3点出土している。

s k 0 2 (第21、24図)は、南東壁際で確認され、長軸74cm、短軸54cm、深さ52cmのほぼ楕円形を呈する。底面は若干凹凸があり、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。堆積土は5層に分層され、各層とも炭化粒を含み、2、3層は焼土粒も含んでいる。遺物は、土師器4点、土製品3点のほか自然石5点出土している。

[出土遺物] (第25図)

本住居跡北側の一部が削平されているため、遺物は南隅から東側の壁溝に沿った範囲に分布している(第25図上)。遺物は土師器片が最も多く、須恵器片や縄文土器片、土製品等も出土している。

①縄文土器：縄文土器は覆土からの出土が多く縄文前期の表館式や円筒土層a式、縄文中期末葉の土器が出土している(第26図1～26)。

②土師器：土師器は覆土や床面などから出土し、特徴的な出土状態としては、炉跡状遺構周辺や焼土範囲3などから復元可能なものを伏せたような状況で出土した土器がみられる。これらの土器のまとまりは3ヶ所認められ、それぞれを土器ブロック1、2、3と呼称した。

土器ブロック1(第25図)では、土師器甕片など74点を数える。復元した土師器甕(第27図32)は、小甕胴部で口縁部の幅が狭く外反し、頸部から上はロクロ成形されている。口唇部はつまみ出され外面に段を有し、頸部から胴部にかけてはケズリ、胴部から下はナデ調整が施されている。

土器ブロック2(第25図)では、土師器甕片など23点を数える。復元した土師器甕(第27図39)は、外面に縦位のケズリ、内面に横位のナデ調整が施されており、被熱のため表面がざらざらしている。

土器ブロック3(第22、25図)では、焼土範囲3の中から口縁径33×31cm、高さ7～10cmの口縁部～胴部にかけての土器(第27図40)が逆さに伏せたような状態で出土した。おそらく土器を伏せて置いた後に、焼土範囲3の中に埋もれたのではないかと考えられる。この土器は、土師器甕で、全体が輪積みにより形づくられており、乾燥が不十分なのか口縁が外反しているもののカーブが緩やかな部分ときつい部分があり、また、くびれが狭い部分と広い部分とがあるなど全般に口縁が波うっており、いびつである。口唇部は全体的に短くつまみ出されている。外側口縁部はナデ、胴部にかけては斜めにケズリ調整、内面はナデ調整が施されている。内外面ともに被熱を受け表面がざらざらし、煤状のものが付着している。焼土範囲2から出土した破片と接合するものもある。

また、住居跡に付属する土坑(SK01)からは、短くつまみ出された口縁部を有する土師器片など3点(口縁部1点第27図41)出土した。s k 02からは土師器4点出土し、土師器1点(第27図43)はロクロ成形による坏である。内面は黒色処理され、胴部から底部にかけて放射状のミガキ、口縁部は横位のナデ調整が施されているが、被熱を受け表面が剥落しているため詳細は不明である。底面は菰編圧痕と思われる。他に口縁部～胴部にかけてやや大きめの土師器甕片(第27図42)は、口縁部が外反しつまみ出されており、頸部上半から口唇部にかけてロクロ成形、頸部から胴部は輪積み成形後に内外面にナデ調整が施され、口縁部は横位に、胴部は縦位に調整されている。部分的に煤が付着している。

③須恵器：須恵器は住居跡覆土や床直から破片4点出土した。甕肩部片1点は内面に当て具痕を有し、外面には叩きの痕跡がある。長頸壺胴部片1点及び壺頸部片1点はナデ調整が施されている(第27図28、34～36)。

④石器：石器は住居跡覆土から不定形石器、s k 0 2からは砥石1点と磨石2点出土した(第28図1～3)。

⑤土製品：土製品ではs k 0 2から埴状土製品と称したものが出土し、粘土を盤状に固めたもので、片

面にむしろ状の圧痕を残し、もう一方の面には凹凸面を有する。厚さは長軸方向の一辺が薄く、もう一辺は厚くなっている（第28図4）。また、焼土範囲1の上面から盤状土製品としたものが1点（第28図5）出土した。前記の埴状土製品とは異なり、表裏面に凹凸を有するものの、鉄滓細片や石英を含み堅くしまった盤状片で、人為的に模られた部分も見られるものである。

⑥石製品：石製品は基石と考えられる小自然石（第29図1～13、口絵2-②）が南東の壁際の床直上からまとまって出土した。13点を数え、大きさは1.2～2.0cm、重さ2～4gを計り、個々の計測値、色調、石質等については第11表に示す。

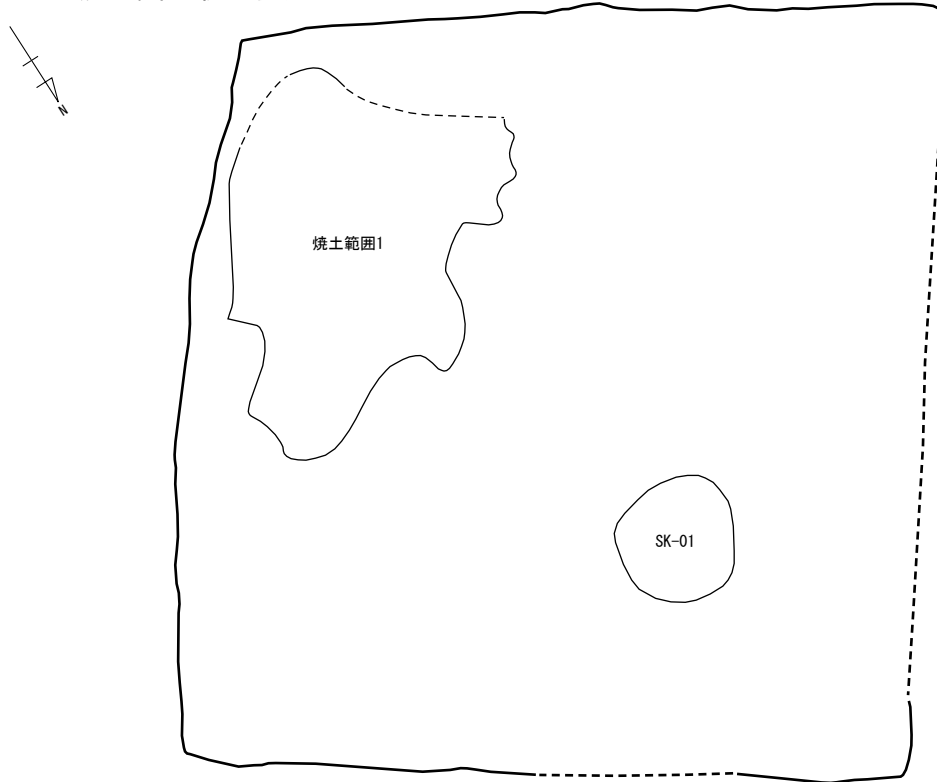
⑦鉄関連遺物：8点（第29図14～21）出土し、南西焼土範囲及びその付近の覆土から炉内滓3点、炉壁1点、椀形鍛冶滓1点、羽口1点と、南西壁近くの床面直上からは棒状鉄製品2点出土している。なお遺構外からの関連遺物を含めると14点あり、うち3点については化学組成分析をおこなっており分析結果を本章第4節に記載している。

[時期] 本遺構及びその他の付属施設から出土している土師器の製作技法の特徴から10世紀後半のものと思われる。

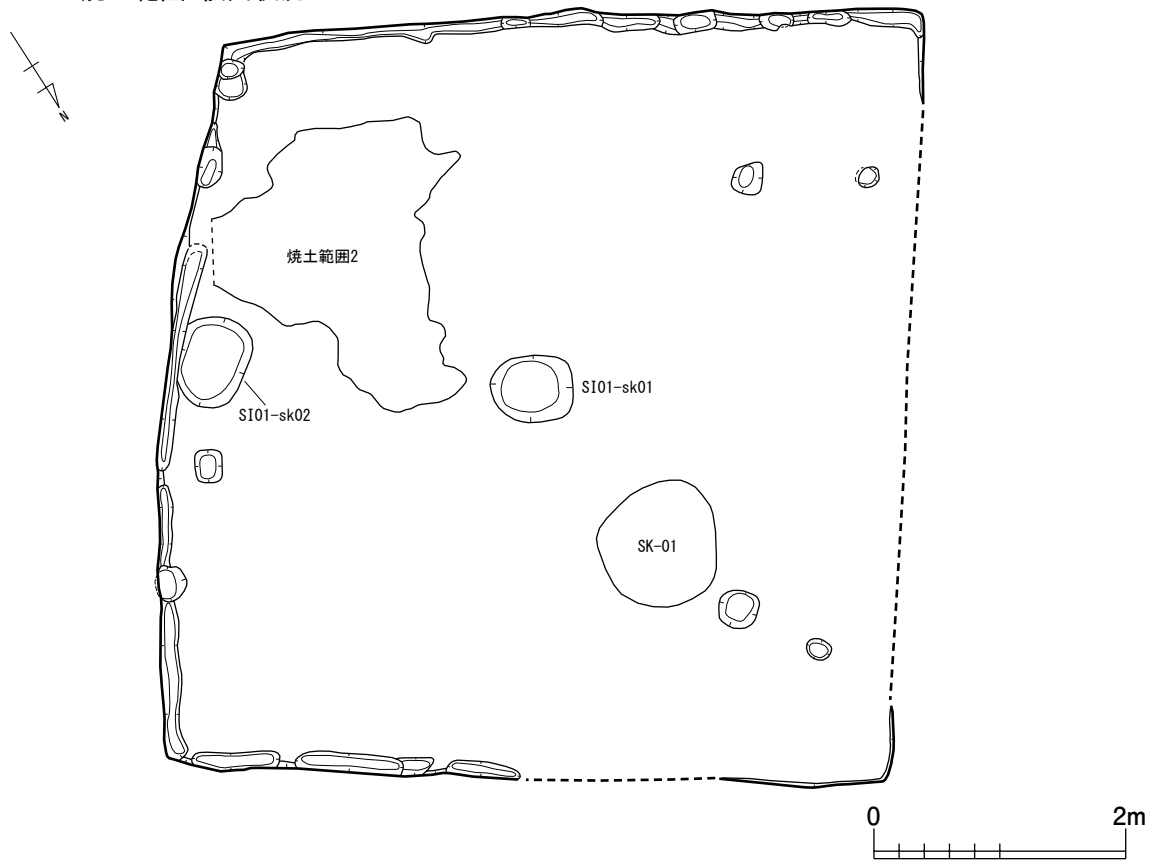
第5表 竪穴住居跡（SI-01）属性表

遺構番号	位置	重複	規模(cm)			深さ ()は厚さ	平面形	断面形	備考
			長軸	短軸					
住居跡本体 SI-01	AB-26・27・28 AC-26・27・28 AD-26・27	SI-01 > SK-01	616	(580)		20	方形	ほぼ垂直	面積 35.4 m ² 、堆積土を14層に分層、小ピット（柱穴）8基、付属土坑2基（SI01-sk01・02）、構築時期が新しい土坑1基（SK-01）と重複、出土遺物（P-1～P-74、S-1～4、C-1、F-1～5）
住居内土坑	SI01-sk01	なし	66	52		13	円形	緩やかに立ち上がる	
	SI01-sk02	なし	74	54		52	楕円形	挿鉢状	出土遺物（P-1～4、S-1～5）
住居内小ピット	SI01-pit1	なし	20	17		13	円形	筒形	
	SI01-pit2	なし	19	16		15	円形	鍋底	
	SI01-pit3	なし	27	22		35	楕円形	筒形	
	SI01-pit4	なし	33	19		60	楕円形	杭形	土師器・甕片1点
	SI01-pit5	なし	30	(25)		73	楕円形	筒形	土師器・甕片1点
	SI01-pit6	なし	20	(19)		24	円形	筒形	土師器・甕片1点
	SI01-pit7	なし	26	24		52	円形	筒形	
	SI01-pit8	なし	32	31		76	円形	筒形	
住居内焼土等	焼土範囲1	なし	310	260		—	不整形	—	
	焼土範囲2	なし	238	218		(7)	不整形	—	出土遺物（P1～23）
	焼土範囲3	なし	180	125		(7)	不整形	—	
	焼土範囲4	なし	73	68		(21)	不整形円形	—	
	炉跡状遺構	なし	61	33		(7)	不整形楕円形	—	
壁溝	SI01-北壁溝	なし	70	14		8	—	逆台形	

SI-01 焼土範囲1検出状況

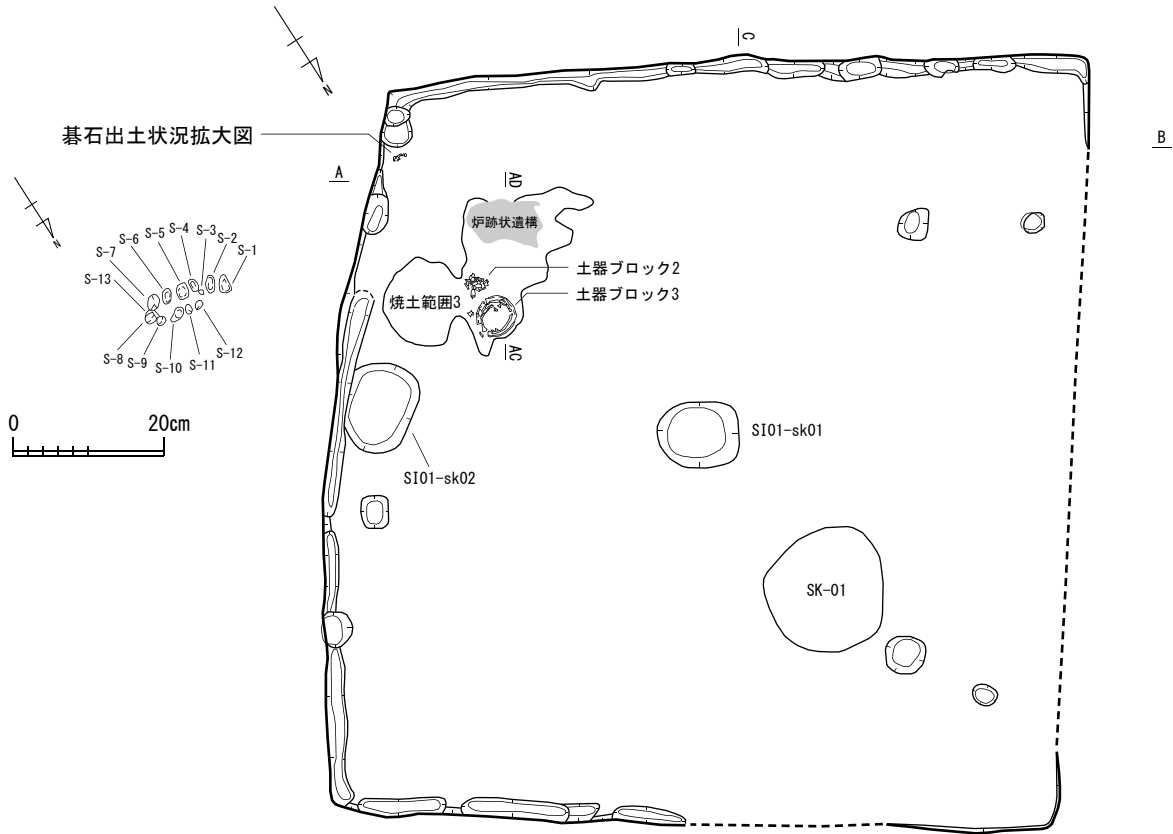


SI-01 焼土範囲2検出状況

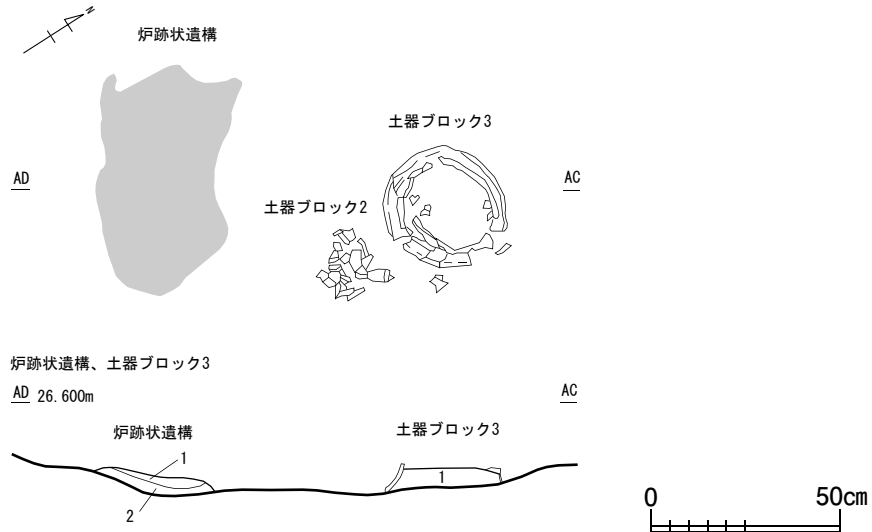


第21図 SI-01 (1)

SI-01 焼土範囲3検出状況及び基石、土器ブロック2・3出土状況



炉跡状遺構、土器ブロック2・3出土状況



炉跡状遺構

第1層 7.5YR4/4 褐色土 ローム粒(φ0.1~0.5mm)微量、炭化粒(φ0.1~0.5mm)微量
 焼土まじりの粘土のような土が焼けて固くなっている状態

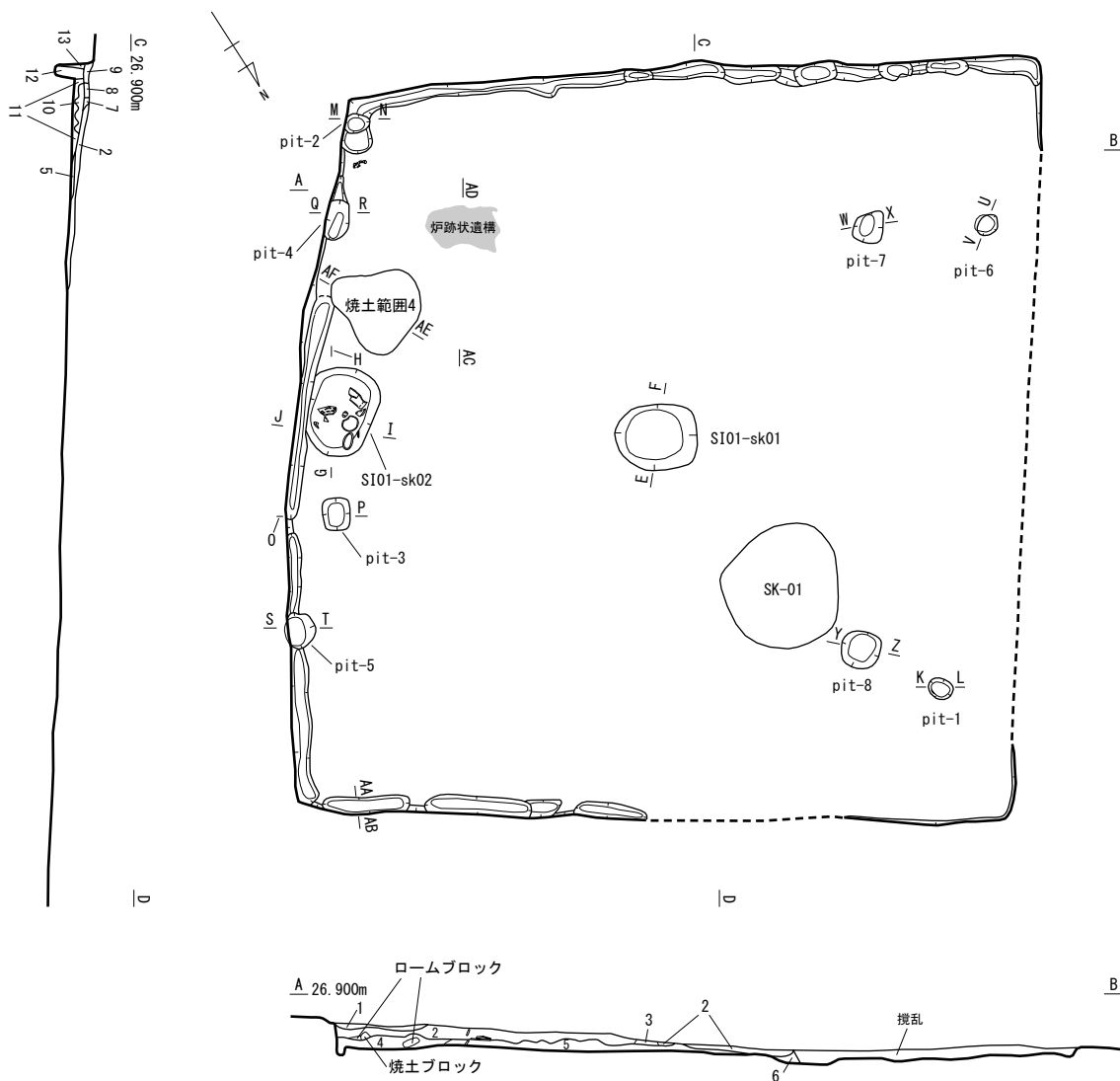
第2層 5YR5/6 明赤褐色土 ローム粒(φ0.1~1mm)少量、炭化粒(φ0.1~0.3mm)微量
 焼土 1層よりしまりがない

土器ブロック3

第1層 10YR2/3 ローム粒(φ0.1~1mm)多量、焼土粒(φ0.1~1.5mm)少量、炭化粒(φ0.1~0.5mm)少量

第22図 SI-01 (2)

SI01 焼土範囲4・土坑、小ピット検出状況



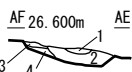
SI-01

第1層	10YR4/2	灰黄褐色土 炭化粒少量、焼土粒微量、ローム粒少量、しまりあり、粘・湿性なし
第2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土 炭化粒中量、ロームブロック(φ0.5~1cm)少量、焼土粒微量、しまりかなりあり、粘・湿性なし
第3層	10YR5/6	黄褐色土 炭化粒微量、しまりあり、粘・湿性なし
第4層	10YR4/4	褐色土 焼土ブロック(φ0.5~2cm)少量、炭化粒(φ3~5mm)少量、ロームブロック(φ1~2cm)少量、しまりあり、粘・湿性なし
第5層	10YR3/2	黒褐色土 炭化粒(φ3~5mm)中量、炭化粒少量、ロームブロック(φ1~1.5cm)中量、ローム粒少量、しまりあり、粘・湿性なし
第6層	10YR4/6	褐色土 ロームブロック(φ5cm程)中量、炭化粒微量、しまりあり、粘・湿性なし
第7層	7.5YR4/6	褐色土 (焼土の層)炭化粒微量、しまりあり、粘・湿性なし
第8層	10YR5/6	黄褐色土 炭化粒(φ5~6mm)中量、焼土粒中量、しまりあり、粘・湿性なし
第9層	10YR4/3	にぶい黄褐色土 炭化粒(φ5~6mm)少量、炭化粒少量、ローム粒少量、しまりあり、粘・湿性なし
第10層	5YR5/6	明赤褐色土 炭化粒少量、しまりあり、粘・湿性なし
第11層	10YR3/3	暗褐色土 炭化粒中量、焼土粒中量、ローム粒少量、しまりあり、粘・湿性なし

壁溝

第12層	10YR4/3	にぶい黄褐色土 炭化粒少量、ローム粒少量、しまりあまりなし、粘・湿性なし
第13層	10YR5/6	黄褐色土 炭化粒少量、しまりかなりあり、粘・湿性なし
第14層	10YR3/3	暗褐色土 焼土(5YR3/4明褐色土、φ1~2mm)多量、炭化粒少量、ローム粒少量、しまりあり、粘・湿性なし

SI-01内焼土4セクション



SI-01内焼土4

第1層	5YR5/8	明赤褐色土 焼土、炭化粒(φ0.1~0.5mm)微量、固くしまりあり
第2層	2.5YR4/6	赤褐色土 焼土、ローム粒(φ0.1~0.5mm)微量、炭化粒(φ0.1~0.5mm)微量
第3層	10YR3/3	暗褐色土 ローム粒(φ0.1~1mm)微量、焼土粒(φ0.1~0.5mm)少量、炭化粒(φ0.1~0.5mm)微量
第4層	10YR4/6	褐色土 ローム粒(φ0.1~1mm)少量、焼土粒(φ0.1~0.5mm)少量、炭化粒(φ0.1~0.5mm)微量

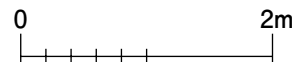
北壁溝セクション

AA AB 26.600m



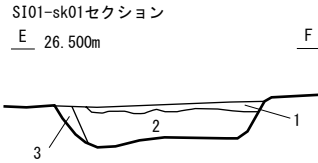
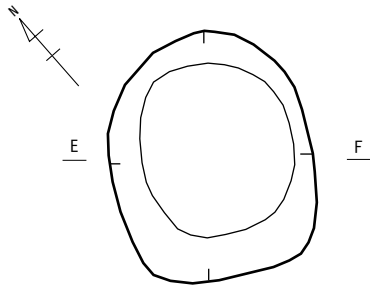
北壁溝

第1層	10YR4/4	褐色土 炭化粒少量、ローム粒少量、しまりあり、粘・湿性なし
-----	---------	-------------------------------



第23図 SI-01 (3)

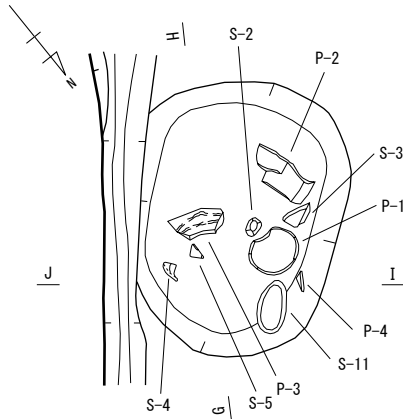
SI01-sk01



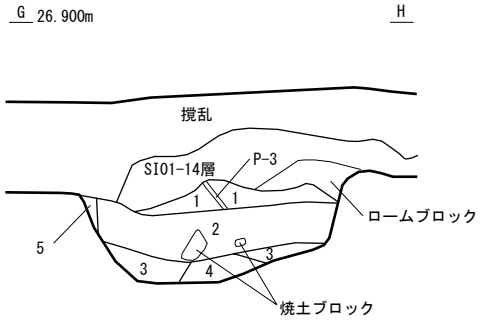
SI01-sk01

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒少量、炭化粒少量、ローム粒少量、しまりかなりあり、粘・湿性なし
- 第2層 10YR3/4 暗褐色土 焼土ブロック(φ5~6mm)少量、炭化粒中量、ローム粒少量、しまりかなりあり、粘・湿性なし
- 第3層 5YR3/3 赤褐色土 炭化粒微量、しまりかなりあり、粘・湿性なし

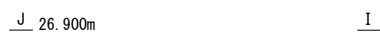
SI01-sk02



SI01-sk02セクション①

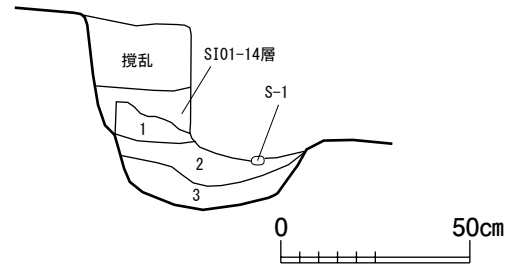


SI01-sk02セクション②



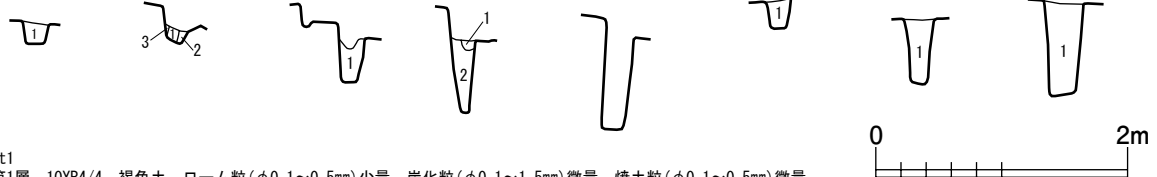
SI01-sk02

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化粒中量、ローム粒少量、しまりややあり、粘・湿性あり
- 第2層 10YR3/1 黒褐色土 焼土ブロック(φ1~3cm)中量、炭化粒(φ0.5~1mm)中量、炭化粒・焼土粒各々中量、ローム粒少量、しまりややあり、粘・湿性なし
- 第3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒少量、炭化粒中量、焼土粒微量、しまりややあり、粘・湿性あり
- 第4層 10YR3/4 暗褐色土 炭化粒少量、しまりあり、粘・湿性あり
- 第5層 10YR4/4 褐色土 炭化粒少量、しまりあり、粘・湿性あり
- SI01-14層 10YR3/3 暗褐色土 焼土(5YR3/4明褐色土、φ1~2mm)多量、炭化粒少量、ローム粒少量、しまりあり、粘・湿性なし



SI01-pit

pit1セクション	pit2セクション	pit3セクション	pit4セクション	pit5エレベーション	pit6セクション	pit7セクション	pit8セクション
26.500m	26.900m	26.900m	26.900m	26.900m	26.500m	26.500m	26.500m
K L	M N	O P	Q R	S I	U V	W X	Y Z



pit1

- 第1層 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ0.1~0.5mm)少量、炭化粒(φ0.1~1.5mm)微量、焼土粒(φ0.1~0.5mm)微量

pit2

- 第1層 10YR4/6 褐色土 炭化粒微量、ローム粒少量、しまりなし、粘・湿性あり
- 第2層 10YR5/6 黄褐色土 炭化粒微量、しまりあり、粘・湿性あり
- 第3層 10YR4/4 褐色土 炭化粒微量、ローム粒中量、しまりなし、粘・湿性あり

pit3

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒多量、炭化粒中量、焼土粒少量、しまりなし、粘・湿性ややあり

pit4

- 第1層 10YR4/6 褐色土 焼土粒微量、炭化粒少量、しまりなし、粘・湿性あり
- 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 炭化粒中量、ローム粒中量、しまりなし、粘・湿性あり

pit6

- 第1層 10YR4/4 褐色土 炭化粒(φ4~5mm)少量、焼土粒微量、ロームブロック(φ5~10cm)少量、ローム粒少量、しまりあり、粘・湿性なし

pit7

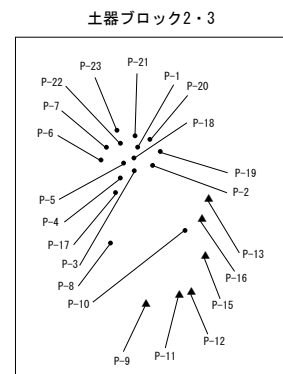
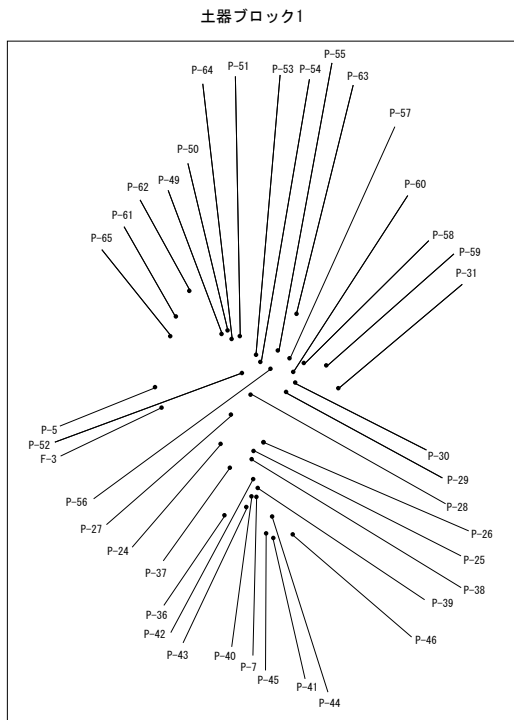
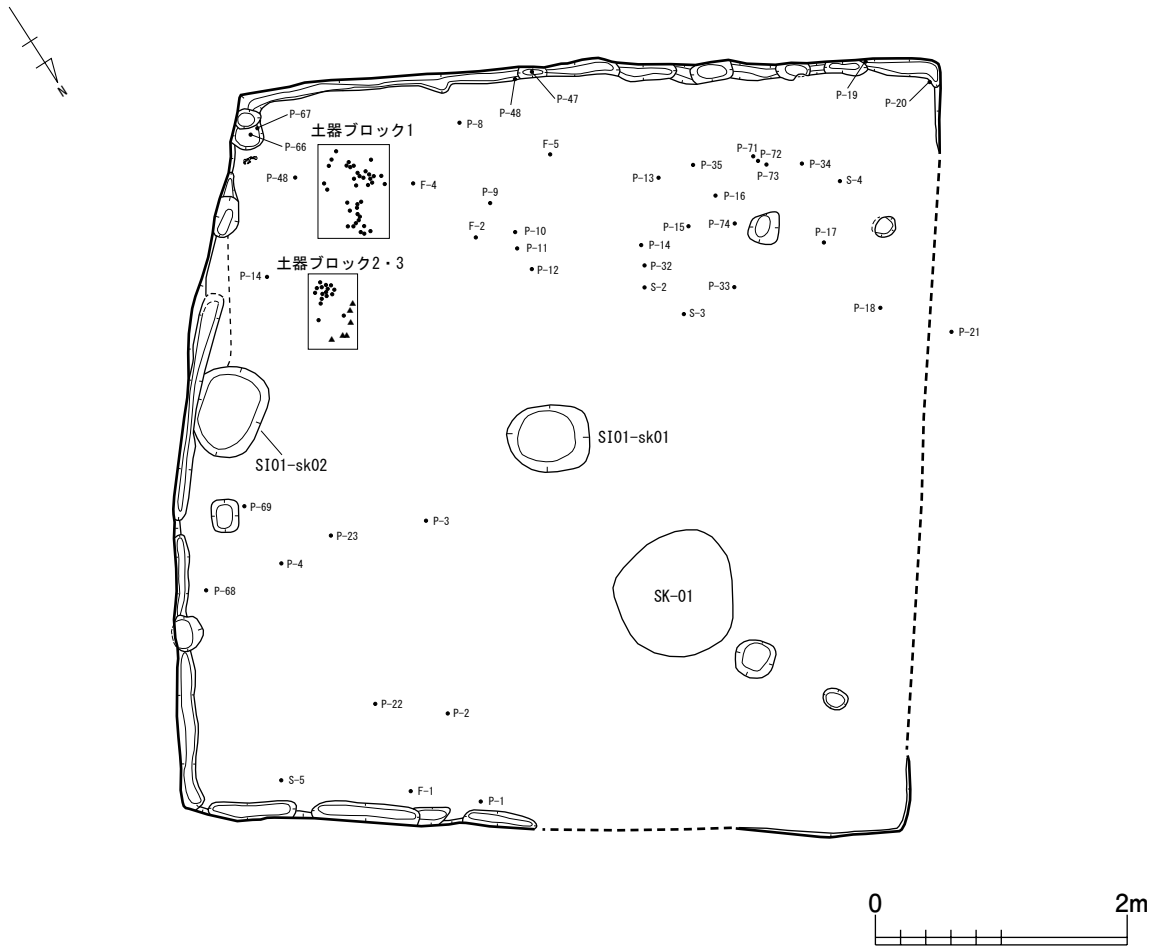
- 第1層 10YR4/4 褐色土 炭化粒少量、ローム粒少量、しまりあり、粘・湿性あり

pit8

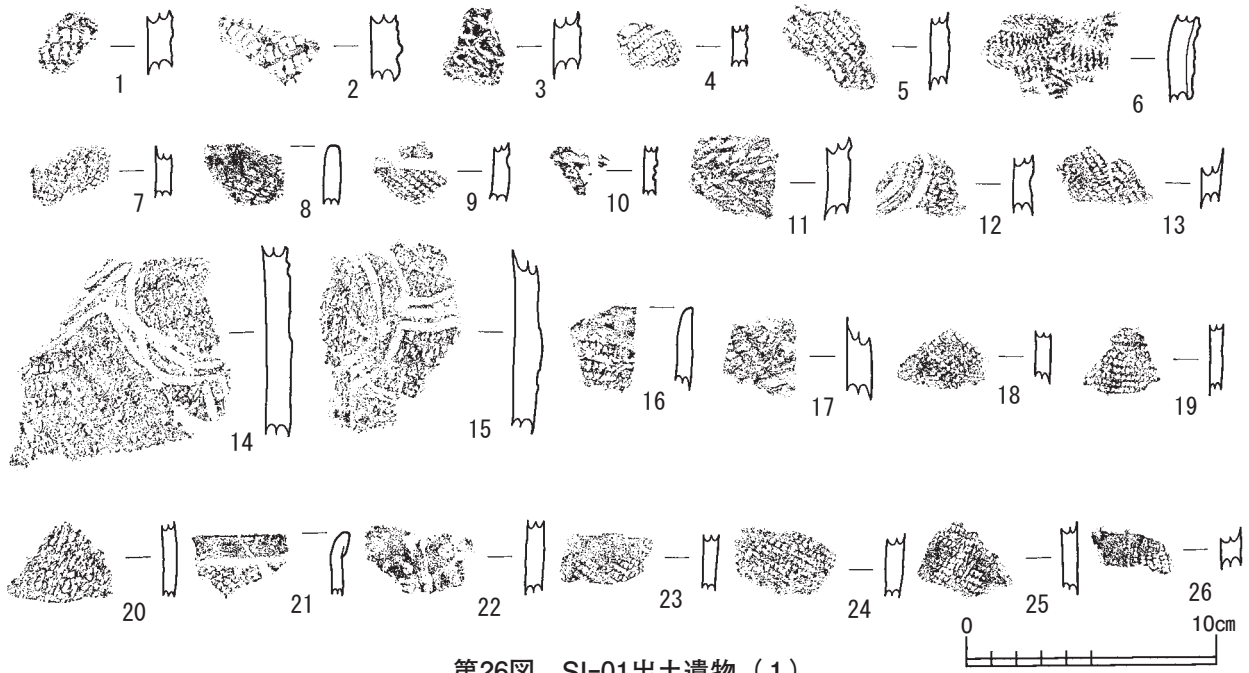
- 第1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ0.1~1mm)少量、炭化粒(φ0.1~1.5mm)多量

第24図 SI-01 (4)

SI-01遺物出土状況 (土器ブロック1~3含む)



第25図 SI-01 (5)



第26図 SI-01出土遺物 (1)

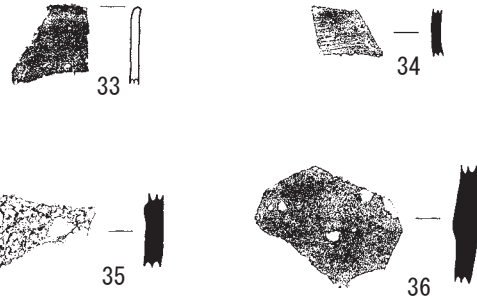
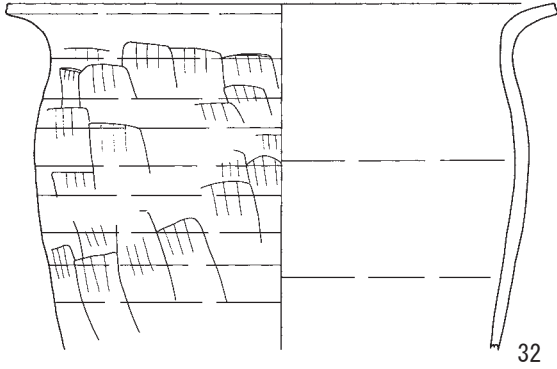
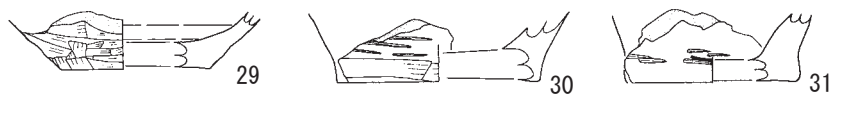
第6表 SI-01 出土土器属性表 (1)

図版番号	整理番号	出土位置	遺物番号	層位	種別	器種・部位	文様又は外面調整	内面調整	焼成	備考
第26図1	SI01-p1	SI01-土器 ブロック1	P-8	覆土	縄文土器	深鉢・頸部	篋状工具による文様	?	良	表館式
第26図2	SI01-p2	SI-01		〃	縄文土器	深鉢・胴部	刺突、半竹管	ナデ	良	表館式
第26図3	SI01-p3	SI01-土器 ブロック1	P-19	〃	縄文土器	深鉢・胴部	縄端回転文		良	表館式
第26図4	SI01-p4	〃	P-18	〃	縄文土器	深鉢・胴部	O段多条文		良	表館式
第26図5	SI01-p5	SI-01		〃	縄文土器	深鉢・胴部	RL		良	表館式
第26図6	SI01-p6	SI01-土器 ブロック1	P-32	〃	縄文土器	深鉢・口頸部	太い粘土紐の貼付 口縁部平行撚糸圧痕	ナデ	良	円筒上層a式
第26図7	SI01-p7	〃	P-11	〃	縄文土器	深鉢・胴部	LR		良	縄文時代中期末
第26図8	SI01-p8	〃	P-12	〃	縄文土器	深鉢・胴部	LR		やや良	縄文時代中期末
第26図9	SI01-p9	〃	P-13	〃	縄文土器	深鉢・胴部	沈線・RL		良	縄文時代中期末
第26図10	SI01-p10	〃	P-21	〃	縄文土器	深鉢・胴部	刺突		良	縄文時代中期末
第26図11	SI01-p11	〃	P-33	〃	縄文土器	深鉢・胴部	LR・RL	ナデ	良	縄文時代中期末
第26図12	SI01-p12	〃	P-35	覆土	縄文土器	深鉢・胴部	沈線・RL	ナデ	良	縄文時代中期末
第26図13	SI01-p13	〃	P-68	〃	縄文土器	深鉢・胴部	RL	ナデ	やや良	縄文時代中期末
第26図14	SI01-p14	〃	P-71、72	掘り方	縄文土器	深鉢・胴部			やや良	縄文時代中期末
第26図15	SI01-p15	SI01-土器 ブロック1	P-73	床直	縄文土器	深鉢・胴部			良	縄文時代中期末
第26図16	SI01-p16	〃	P-74	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文・沈線		良	縄文時代中期末
第26図17	SI01-p17	SI-01		攪乱	縄文土器	深鉢・胴部	磨消縄文・沈線	ナデ	良	縄文時代中期末
第26図18	SI01-p18	〃		床直	縄文土器	深鉢・胴部	磨消縄文・沈線	ナデ	良	縄文時代中期末
第26図19	SI01-p19	〃		覆土	縄文土器	深鉢・胴部	LR		良	縄文時代中期末
第26図20	SI01-p20	〃		〃	縄文土器	深鉢・胴部			良	縄文時代中期末
第26図21	SI01-p21	SI01-土器 ブロック1	P-34	床直	縄文土器	深鉢・口縁部	折り返し	ナデ	良	縄文時代中期末
第26図22	SI01-p22	SI-01		攪乱	縄文土器	深鉢・胴部			良	縄文時代中期末
第26図23	SI01-p23	〃		覆土	縄文土器	深鉢・胴部	RL	ナデ	やや良	縄文時代中期末
第26図24	SI01-p24	〃		〃	縄文土器	深鉢・胴部	RL	ナデ	やや良	縄文時代中期末
第26図25	SI01-p25	〃		〃	縄文土器	深鉢・胴部	RL	ナデ	良	縄文時代中期末
第26図26	SI01-p26	〃		〃	縄文土器	深鉢・胴部	RL	ナデ	良	縄文時代中期末
第27図27	SI01-p27	〃		覆土	土師器	甕・口縁部	ロクロナデ	ナデ	良	
第27図28	SI01-p28	〃		〃	須恵器	甕・胴部	タタキ	当て具痕	良	
第27図29	SI01-p29	SI01-土器 ブロック1	P-23	〃	土師器	甕・底部	ナデ	ナデ	良	底部遺存6分の1
第27図30	SI01-p30	〃	P-16	〃	土師器	甕・底部	ナデ	ナデ	良	底部遺存6分の1
第27図31	SI01-p31	〃	P-15	〃	土師器	甕・底部	ナデ	ナデ	良	底部遺存5分の1

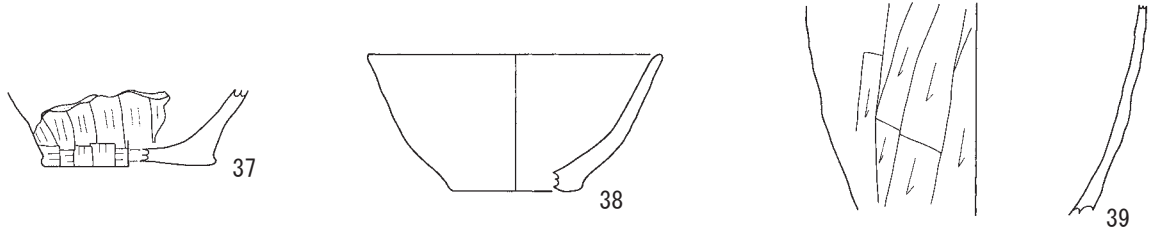
SI-01覆土



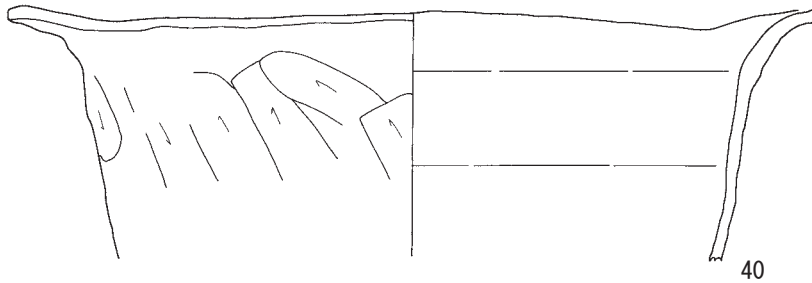
SI-01土器ブロック1



SI-01土器ブロック2



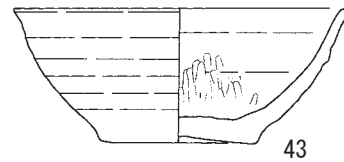
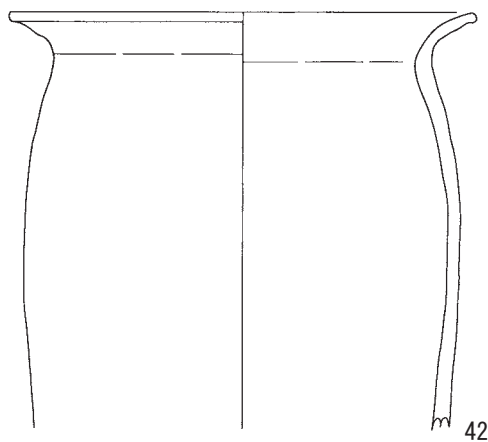
SI-01土器ブロック3



SI01-SK01



SI01-SK02



SI01-Pit5



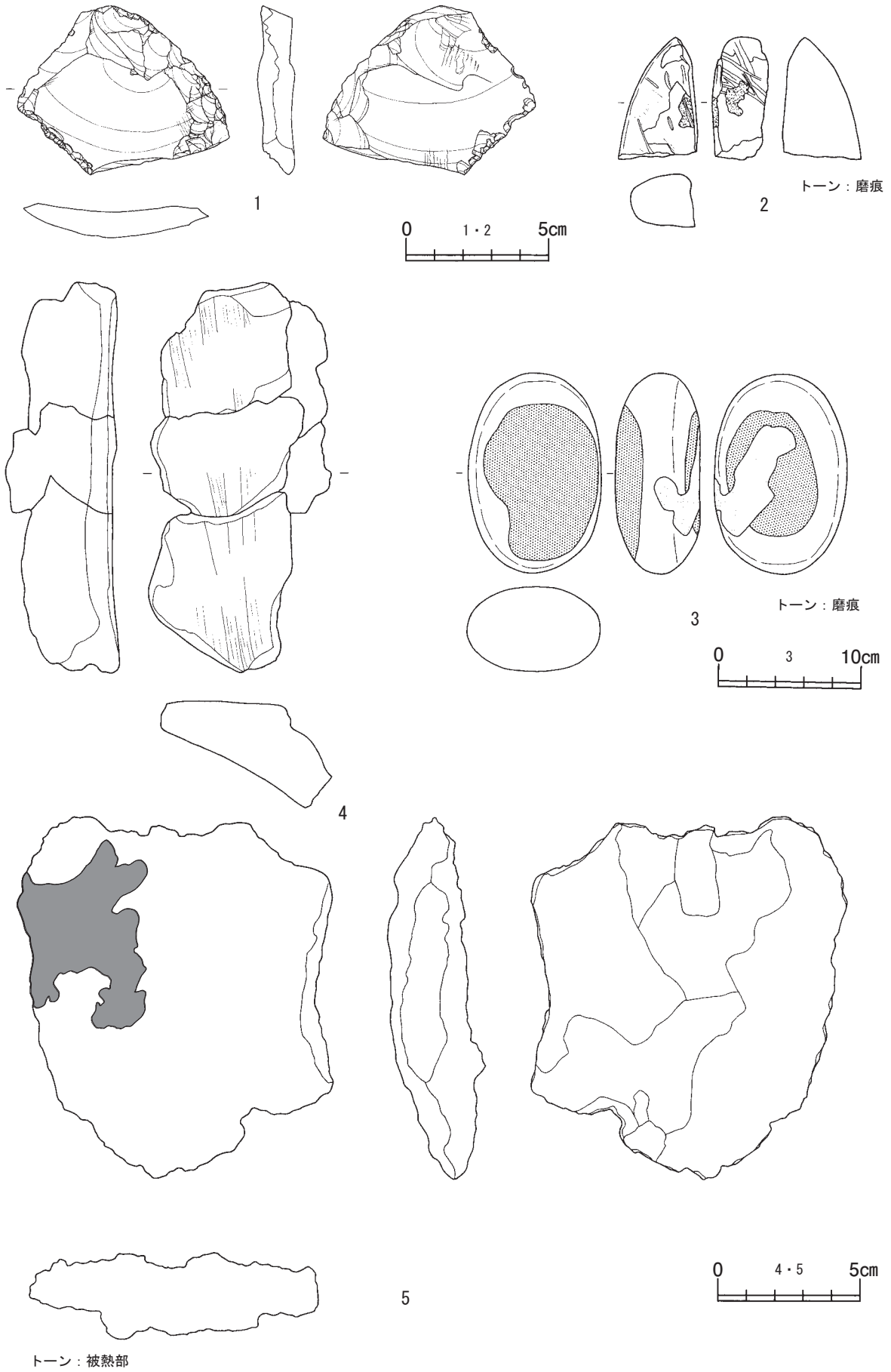
第27図 SI-01出土遺物(2)

第7表 SI-01 出土土器属性表(2)

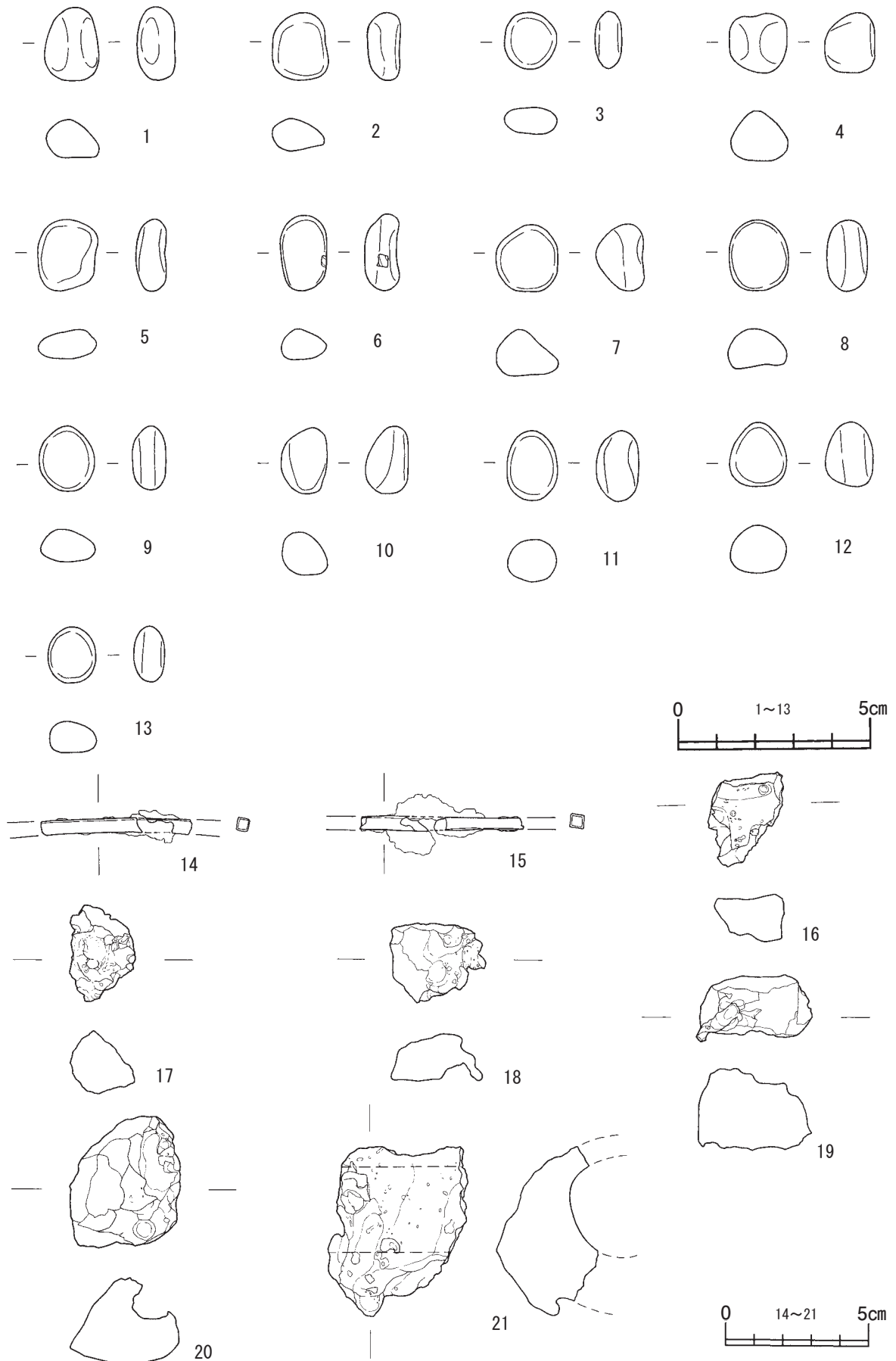
図版番号	整理番号	出土位置	遺物番号	層位	種別	器種・部位	文様又は外面調整	内面調整	焼成	備考
第27図32	SI01-p32	SI01-土器 ブロック1	P-26、30、 38、39、44 ~46、57~ 60、63	覆土・ 5	土師器	甕・ 口縁部~ 胴部	ナデ 一部ケズリ	ナデ	良	
第27図33	SI01-p33	〃	P-48	5	土師器	甕・口縁部	ナデ	ナデ	良	
第27図34	SI01-p34	〃	P-2	覆土	須恵器	壺・頸部	ロクロナデ	ロクロナ デ	良	
第27図35	SI01-p35	〃	P-22	床直	須恵器	甕・肩部	タタキ	当て具痕	良	
第27図36	SI01-p36	〃	P-70	覆土	須恵器	長頸壺・胴部	ナデ	ナデ	良	
第27図37	SI01-p37	SI01-土器 ブロック2	P-4	床直	土師器	甕・底部	ケズリ	ナデ	良	底部張り出し、 上げ底
第27図38	SI01-p38	〃	P-14	〃	土師器	坏・口縁部~ 底部	ロクロナデ	ナデ	良	遺存率6分の1程 度
第27図39	SI01-p39	〃	P-1、2、P-7、10、 18、19、21~23	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
第27図40	SI01-p40	SI01-土器 ブロック3	—	〃	土師器	甕・口縁部~ 頸部	口縁部ナデ 胴部ケ ズリ	ナデ	良	口縁部から胴部にかけて の遺存率は100%。ブロッ ク2範囲のP-9、P-11、 P-12、P-16と接合
第27図41	SI01-p41	SI01-s k 01	—	覆土	土師器	甕・口縁部	ケズリ	ナデ	良	
第27図42	SI01-p42	SI01-s k 02	P-2	〃	土師器	甕・口縁部~ 胴部	ナデ	ナデ	良	炭化物付着
第27図43	SI01-p43	〃	P-1	〃	土師器	完形	ロクロナデ	ミガキ	良	内黒
第27図44	SI01-p44	SI01-pit5	—	覆土	土師器	甕・口縁部	ロクロナデ	ナデ	良	
—	SI01-p45 ~ p47	SI-01	—	5	土師器	甕・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	3点
—	SI01-p48	〃	—	〃	土師器	坏・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
—	SI01-p49 SI01-p50	〃	—	覆土	土師器	甕・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	2点
—	SI01-p51	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p52	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p53	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p54	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p55	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p56	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p57	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p58	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p59	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p60	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p61	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p62	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p63	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p64	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p65	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p66	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p67	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p68	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p69	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p70	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p71	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	炭化物付着
—	SI01-p72	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p73	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p74	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p75	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p76	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p77	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p78	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p79	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p80	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p81	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p82	〃	—	〃	土師器	坏・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
—	SI01-p83	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p84	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	

第8表 SI-01 出土土器属性表(3)

図版番号	整理番号	出土位置	遺物番号	層位	種別	器種・部位	文様又は外面調整	内面調整	焼成	備考
—	SI01-p85	SI-01	—	表土	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p86	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p87	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p88	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p89	〃	—	〃	土師器	坏・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
—	SI01-p90	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p91	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p92	〃	—	〃	土師器	甕・底部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p93	〃	—	〃	土師器	甕・底部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p94	SI01-土器 ブロック1	P-3	床直	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p95	〃	P-4	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p96	〃	P-5	覆土	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p97	〃	P-6	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p98	〃	P-9	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p99	〃	P-10	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p100	〃	P-14	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p101	〃	P-17	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p102	〃	P-20	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p103	〃	P-24	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p104	〃	P-25	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p105	〃	P-27	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p106 ~109	〃	P-28	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	P-43、P-50など と接合
—	SI01-p110	〃	P-29	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p111	〃	P-31	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p112-113	〃	P-36	5	土師器	甕・胴部?		ナデ	良	底部遺存12分の1
—	SI01-p114	〃	P-37	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p115	〃	P-40	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p116	〃	P-41	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p117	〃	P-42	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p118	〃	P-43	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p119	〃	P-47	床直	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p120	〃	P-49	5	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p121	〃	P-50	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p122	〃	P-51	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p123	〃	P-52	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p124	〃	P-53	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p125	〃	P-54	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p126	〃	P-55	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p127	〃	P-56	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p128	〃	P-61	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p129	〃	P-62	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p130	〃	P-64	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p131	〃	P-65	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p132	〃	P-66	床直	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p133	〃	P-67	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p134	〃	P-69	覆土	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p135	SI01-土器 ブロック2	P-3	床直	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p136	〃	P-5	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p137	〃	P-6	〃	土師器	甕・底部	ナデ	ナデ	良	底部張り出し、 上げ底
—	SI01-p138	〃	P-8	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p139	〃	P-15	〃	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p140	〃	P-17	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p141	〃	P-20	〃	土師器	坏・口縁部	ナデ	ナデ	良	
—	SI01-p142	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p143	SI01-sk01	—	覆土	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p144	〃	—	〃	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p145	SI01-sk02	P-4	〃	土師器	胴部	ケズリ	ナデ	良	
—	SI01-p146	SI01-pit4	—	2	土師器	甕・胴部	ナデ	ナデ	やや良	巻上げ成形
—	SI01-p147	SI01-pit7	—	覆土	土師器	甕・底部	ナデ	ナデ	良	



第28図 SI-01出土遺物 (3)



第29図 SI-01出土遺物(4)

第9表 SI-01 出土石器属性表

図版番号	整理番号	出土位置	遺物番号	層位	器種	計測値				石質	備考
						長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)		
第28図1	SI01-s1	SI-01	S-5	覆土	不定形	59	74	13	43.3	珪質頁岩	
第28図2	SI01-s2	SI01-sk02	S-3	3	砥石	(86)	(55)	(39)	196.4	石英安山岩	
第28図3	SI01-s3	〃	S-1	2	磨石	140	93	59	1144.0	石英安山岩	
—	SI01-s4	〃	S-2	3	磨石	56	62	50	219.5	安山岩	

第10表 SI-01出土土製品属性表

図版番号	整理番号	出土位置	遺物番号	層位	種別	計測値				焼成	備考
						長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)		
第28図4	SI01-p148	SI01-sk02	P-3	1	埴状土製品	138	64	40	173.6	良	実測図あり
第28図5	SI01-p149	SI01-焼土範囲1	—	上面	盤状土製品	130	109	32	267.4	良	表裏面は凹凸があり鉄滓細片、石英を含む
—	SI01-p150	SI01-土器プロック1範囲内	P-1	覆土	埴状土製品	36	48	28	38.8	やや良	
—	SI01-p151	〃	P-7	覆土	埴状土製品	44	29	36	43.6	やや良	

第11表 SI-01出土石製品属性表

図版番号	整理番号	出土位置	遺物番号	層位	種別	計測値				石質	備考
						長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)		
第29図1	SI01-s5	SI-01	S-1	4	碁石	19	14	10	4.0	石英	黒
第29図2	SI01-s6	〃	S-2	4	碁石	13	15	8	3.1	石英	黒
第29図3	SI01-s7	〃	S-3	4	碁石	15	13	7	2.2	石英	白黒混合(黒優勢)
第29図4	SI01-s8	〃	S-4	4	碁石	15	15	13	4.1	石英	白
第29図5	SI01-s9	〃	S-5	4	碁石	18	16	8	3.4	石英	黒
第29図6	SI01-s10	〃	S-6	4	碁石	20	12	9	3.0	石英	白黒混合(黒優勢)
第29図7	SI01-s11	〃	S-7	4	碁石	17	16	12	4.4	石英	白黒混合(白優勢)
第29図8	SI01-s12	〃	S-8	4	碁石	18	15	10	4.5	石英	白黒混合(白優勢)
第29図9	SI01-s13	〃	S-9	4	碁石	17	14	8	2.8	石英	白黒混合(黒優勢)
第29図10	SI01-s14	〃	S-10	4	碁石	17	12	11	3.2	石英	白黒混合(白優勢)
第29図11	SI01-s15	〃	S-11	4	碁石	18	13	11	3.8	石英	白黒混合(黒優勢)
第29図12	SI01-s16	〃	S-12	4	碁石	17	15	12	4.2	石英	白黒混合(黒優勢)
第29図13	SI01-s17	〃	S-13	4	碁石	14	12	8	2.0	石英	白

第12表 SI-01出土鉄関連遺物属性表

図版番号	整理番号	出土位置	遺物番号	層位	種別	計測値				磁着度 [*]	メタル度 [*]	備考
						長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)			
第29図14	SI01-f1	SI-01	F-5	床直	棒状鉄製品	53	12	4	2.0	—	—	
第29図15	SI01-f2	〃	F-5	〃	棒状鉄製品	58	21	5	4.2	—	—	
第29図16	SI01-f3	〃	F-1	〃	炉壁	32.5	26	18	8.4	1		
第29図17	SI01-f4	〃	F-2	〃	炉内滓	33.5	23	21	9.6	3	(△) 錆化	
第29図18	SI01-f5	〃	F-3	覆土	炉内滓	28	33.5	16	16.0	2	(△) 錆化	
第29図19	SI01-f6	〃	—	〃	炉内滓	22	40.5	28	33.0	4	(△) 錆化	82~88頁 SKE-2(鍛冶滓に分類)
第29図20	SI01-f7	〃	—	〃	椀形鍛冶滓	45	39	30	55.1	4	—	82~88頁 SKE-1
第29図21	SI01-f8	〃	F-4	〃	羽口	49	59	39	69.5	3	—	

※磁着度とメタル度の基準は78頁の註を参照

2. 土坑 (SK-01~10)

本調査区では10基の土坑を検出した。

SK-01 (第30図)

[位置] AB・AC-27グリッドで確認した。確認面の標高は26.4mである。

[平面] ほぼ円形で、(堅穴住居跡) SI-01と重複しており、本遺構の方が新しいものである。

[断面] 底面は比較的平坦で、壁面は直立気味に立ち上がっている。

[規模] 長軸105cm、短軸95cm、深さ22cmを計る。

- [堆積土] 1・2層は炭化粒を少量、3層にはローム粒が混入している。
 [出土遺物] 縄文土器1点(第33図1)、土師器片1点を覆土から出土した。
 [時期] 不明である。

SK-02 (第30図)

- [位置] AB-26・27グリッドで確認した。確認面の標高は26.3mである。
 [平面] ほぼ円形であり重複はない。
 [断面] 底面は比較的平坦で、壁面は緩やかに外傾して立ち上がっている。
 [規模] 長軸65cm、短軸57cm、深さ19cmを計る。
 [堆積土] 3層に分層され、各層に炭化粒が微量に混入している。
 [出土遺物] 縄文土器片1点(第33図2)で覆土から出土している。
 [時期] 不明である。

SK-03 (第30図)

- [位置] A・A-A-26・27グリッドで確認した。確認面の標高は26.0mである。
 [平面] ほぼ楕円形であり重複はない。
 [断面] 底面は比較的平坦で、壁面は袋状に立ち上がっている。
 [規模] 開口部は長軸80cm、短軸63cm、坑底部は長軸110cm、短軸73cm、深さ33cmを計る。
 [堆積土] 2層に分層され、各層にローム粒及び炭化粒が微量に混入している。
 [出土遺物] なし。
 [時期] 不明である。

SK-04 (第30図)

- [位置] AC-26グリッドで確認した。確認面の標高は26.8mである。
 [平面] ほぼ円形であり重複はない。
 [断面] 底面は比較的平坦で、直立気味に立ち上がっている。
 [規模] 長軸65cm、短軸55cm、深さ44cmを計る。
 [堆積土] 4層に分層され、1層には焼土粒・炭化粒が微量に混入し、2層から4層にはローム粒及び炭化粒が混入している。底面の一部と壁面の東側に炭化材が張り付いていた。
 [出土遺物] 土師器甕胴部片3点、炭化材3点、剥片1点が出土した。
 [時期] 不明である。

SK-05 (第30図)

- [位置] AB-26グリッドで確認した。確認面の標高は26.3mである。
 [平面] 確認面は一部攪乱し、削平を受けているが円形であり重複はない。
 [断面] 底面は比較的平坦で、壁面は直立気味に立ち上がっている。
 [規模] 径52cm、深さ9cmを計る。
 [堆積土] 4層に分層され、各層にローム粒及び炭化粒が微量に混入している。

[出土遺物] 縄文土器底部片1点が出土した。

[時期] 不明である。

SK-06 (第30図)

[位置] AC-25グリッドで確認した。確認面の標高は26.7mである。

[平面] 確認面は楕円形であり重複はない。

[断面] 底面は起伏があり、壁は東側が段状に、西側は直立気味に立ち上がっている。

[規模] 長軸53cm、短軸32cm、深さ17cmを計る。

[堆積土] 3層に分層され、各層に炭化粒が微量に混入している。

[出土遺物] 縄文土器口縁部片1点(第33図3)が出土した。

[時期] 不明である。

SK-07 (第31図)

[位置] AA-25グリッドで確認した。確認面の標高は26.3mである。

[平面] 円形を呈する。原因者負担区のSF-01と重複し、SK-07が新しい。

[断面] 底面は若干起伏があり、壁面は緩やかに外傾して立ち上がっている。

[規模] 径100cm、深さ23cmを計る。

[堆積土] 暗褐色土1層には、焼土粒、ローム粒及び炭化物粒が混入している。

[出土遺物] 土師器坏1点(第33図9)が出土し、1層上層出土のP-1と接合している。ロクロを使用した水挽き成形によるもので、ナデ調整が施されている。焼成は弱く、底面には菰編圧痕があり、また内外面にはタール状の付着がみられる。このほか土師器坏の口縁部片4点(第33図5～8)や、内面に煤が付着し灯明用として使用された可能性のある胴部片、土坑底面から上げ底気味の甕底部片(P-3)、縄文土器片1点(第33図4)などが出土した。

[時期] 本遺構は10世紀後半に構築されものと思われる。

SK-08 (第31図)

[位置] A-27グリッドで確認した。確認面の標高は25.7mである。

[平面] 確認面は不整楕円形であり重複はない。

[断面] 底面は緩やかに湾曲があり、壁面は直立気味に立ち上がっている。

[規模] 長軸84cm、短軸57cm、深さ45cmを計る。

[堆積土] 3層に分層され、各層にローム粒及び炭化物粒が混入している。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

SK-09 (第31・32図)

[位置] AA・AB-27・28グリッドで確認した。確認面の標高は27.0mである。

[平面] 確認面は不整楕円形であり重複はない。

[断面] 底面は平坦面がほとんどなく、播鉢状に最深部から外傾しながら徐々に立ち上がっている。

[規模] 長軸378cm、短軸238cm、深さ47cmを計る。

[堆積土] 7層に分層され、各層にローム粒及び炭化粒が混入している。

[出土遺物] 表館式土器の破片(第34図10～14)や円筒上層e式土器の完形品2点(第34図15・16)などが出土した。表館式土器は、ループ文及び爪形文が施されている。円筒上層e式の第34図16は、口縁部に撚紐の圧痕があり、粘土を貼り付けた4箇所突起をもつ深鉢形土器で、胴部文様に結節斜縄文、9段の綾絡文が施されている。第34図15は口縁部に棒で刻目をつけた4箇所に突起をもつ深鉢形土器で、胴部に0段多条の斜縄文が施され、太さの異なる撚糸が用いられている。さらに突起部のボタン状貼り付け部から懸垂文の上下に左右から弧状の沈線が施されている。このほか円筒上層e式土器と類似する特徴を有するもの(第34図17～24)等もみられる。

石器は、磨痕のみられる台石1点(第34図25)や、礫2点、剥片1点などが出土した。

[時期] 表館式土器が覆土から出土しているが、円筒上層e式土器の出土状況から縄文時代中期後半に構築されたものと思われる。

SK-10 (第32図)

[位置] AD-26グリッドで確認した。確認面の標高は27.0mである。

[平面] 確認面は楕円形であり重複はない。

[断面] 底面は比較的平坦で段があり、壁面は西側が直立気味に、東側は段状に立ち上がっている。

[規模] 長軸84cm、短軸77cm、深さ44cmを計る。

[堆積土] 5層に分層され、各層にローム粒及び炭化物粒が混入している。

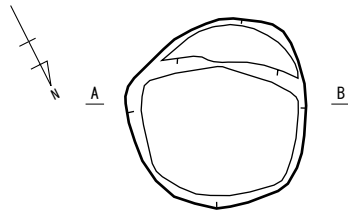
[出土遺物] 土師器片1点、剥片1点が覆土から出土した。

[時期] 不明である。

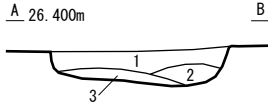
第13表 土坑属性表

遺跡番号	位置	重複	規模 (cm)、() は坑底部			平面形	断面形	備考
			長軸	短軸	深さ			
SK-01	AB-27 AC-27	SI-01 > SK-01	105	95	22	円形	直立気味に立ち上がる	覆土から土師器片1点
SK-02	AB-26 AC-27	なし	65	57	19	円形	緩やかに立ち上がる	覆土から縄文土器片1点
SK-03	A-26・27 AA-26・27	なし	80 (110)	63 (73)	33	楕円形	袋状に立ち上がる	
SK-04	AC-26	なし	65	55	44	円形	直立気味に立ち上がる	炭化材3点、剥片1点、土師器片3点
SK-05	AB-26	なし	(57)	52	9	円形	直立気味に立ち上がる	縄文土器片1点、時期不明
SK-06	AC-25	なし	53	32	17	楕円形		縄文土器片1点
SK-07	AA-25	原因者負担区 SF-01 > SK-07	100	—	23	円形	緩やかに立ち上がる	覆土から土師器片4点 石核1点
SK-08	A-27	なし	84	57	45	不整楕円形	直立気味	
SK-09	AA・AB-27・ 28	なし	378	238	47	不整楕円形	緩やかに立ち上がる	土器13点(縄文土器中期復元土器2点)、剥片1点、礫3点
SK-10	AD-26	なし	84	77	44	楕円形	緩やかに立ち上がる	

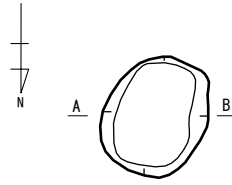
SK-01



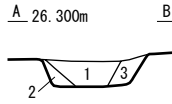
SK-01セクション



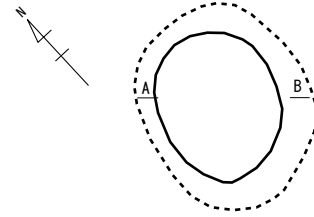
SK-02



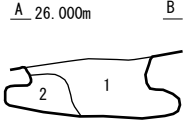
SK-02セクション



SK-03



SK-03セクション



SK-01

- 第1層 10YR4/6 褐色土 炭化粒(φ1~3mm)少量、ロームブロック(φ5~6cm)微量、パミス粒(φ2~3mm)少量、しまりかなりあり、粘・湿性なし
- 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少量、炭化粒少量、しまりややあり、粘・湿性あり
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 炭化粒(φ2~5mm)少量、ローム粒中量、しまりかなりあり、粘・湿性なし

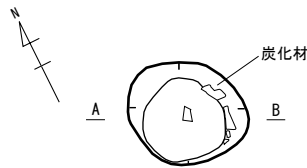
SK-02

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒少量、炭化粒少量、パミス粒(φ2~3mm)微量、しまりあり、粘・湿性あり
- 第2層 10YR3/4 暗黄褐色土 炭化粒微量、ローム粒中量、しまりあり、粘・湿性あり
- 第3層 10YR4/4 褐色土 炭化粒微量、しまりあり、粘・湿性あり

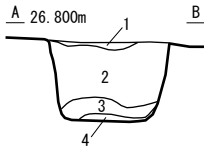
SK-03

- 第1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化粒(φ3mm)微量、ローム粒(φ2~5mm)少量、しまりややあり、粘・湿性ややあり
- 第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化粒(φ2~5mm)微量、ローム粒(φ3mm)斑状に中量、しまりあり、粘・湿性ややあり

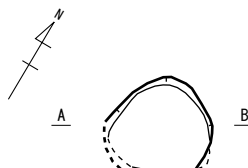
SK-04



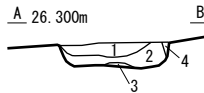
SK-04セクション



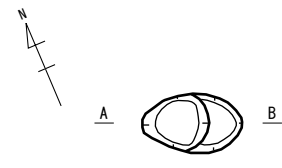
SK-05



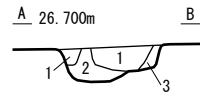
SK-05セクション



SK-06



SK-06セクション



SK-04

- 第1層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ1~3cm)多量、炭化粒微量、焼土粒微量、しまりかなりあり、粘・湿性ややあり
- 第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 炭化粒(φ4~5mm)少量、ローム粒中量、パミス粒(φ2~3mm)微量、しまりあり、粘・湿性ややあり
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒中量、炭化粒少量、しまりあり、粘・湿性ややあり
- 第4層 10YR4/4 褐色土 炭化粒(φ2~5mm)少量、しまりあり、粘・湿性ややあり

SK-05

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ3~4cm)中量、炭化粒少量、しまりかなりあり、粘・湿性なし
- 第2層 10YR4/4 褐色土 炭化粒(φ4~5mm)微量、ローム粒少量、しまりかなりあり、粘・湿性なし
- 第3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒少量、しまりかなりあり、粘・湿性なし
- 第4層 10YR6/6 明黄褐色土 炭化粒微量、しまりかなりあり、粘・湿性なし

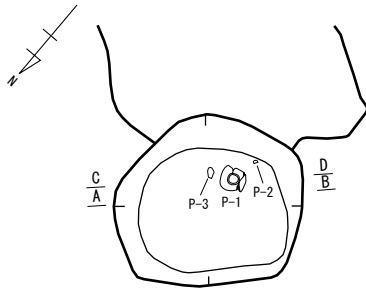
SK-06

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 炭化粒微量、ローム粒少量、しまりかなりあり、粘・湿性なし
- 第2層 10YR4/4 褐色土 炭化粒微量、パミス粒(φ4~5mm)微量、しまりかなりあり、粘・湿性あり
- 第3層 10YR4/6 褐色土 ローム粒少量、炭化粒微量、しまりかなりあり、粘・湿性なし

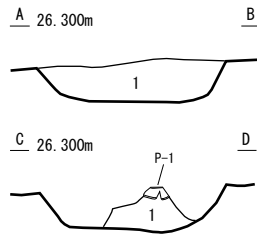


第30図 SK-01~06

SK-07



SK-07セクション



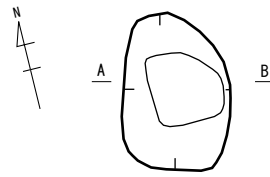
SK-07
第1層 10YR3/4 暗褐色土 炭化粒(φ3~10mm)中量、ロームブロック(φ3~15cm)中量、ローム粒少量、焼土粒微量、しまりあり、粘・湿性あり

SK-08
第1層 10YR3/2 黒褐色土 炭化粒中量、ローム粒少量、暗褐色土(10YR3/3暗褐色土が所々に中量混入)しまりやや弱、粘・湿性あり

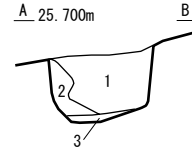
第2層 10YR3/3 暗褐色土 炭化粒微量、ローム粒少量、しまりやや弱、粘・湿性あり

第3層 10YR2/3 黒褐色土 炭化粒少量、ローム粒中量、しまりかなりあり、粘・湿性なし

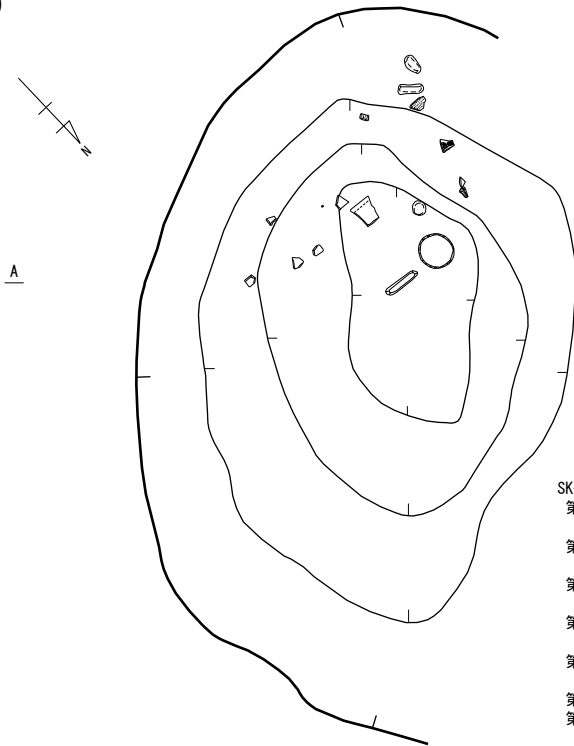
SK-08



SK-08セクション



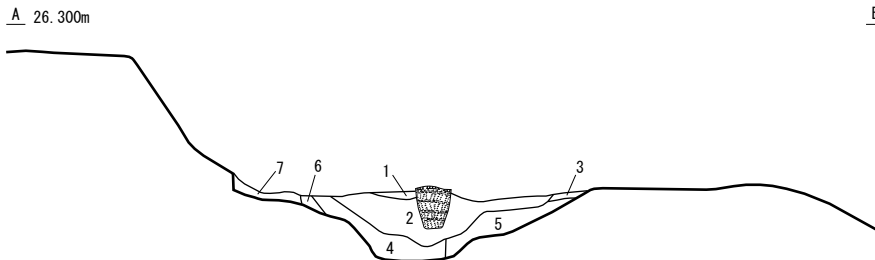
SK-09



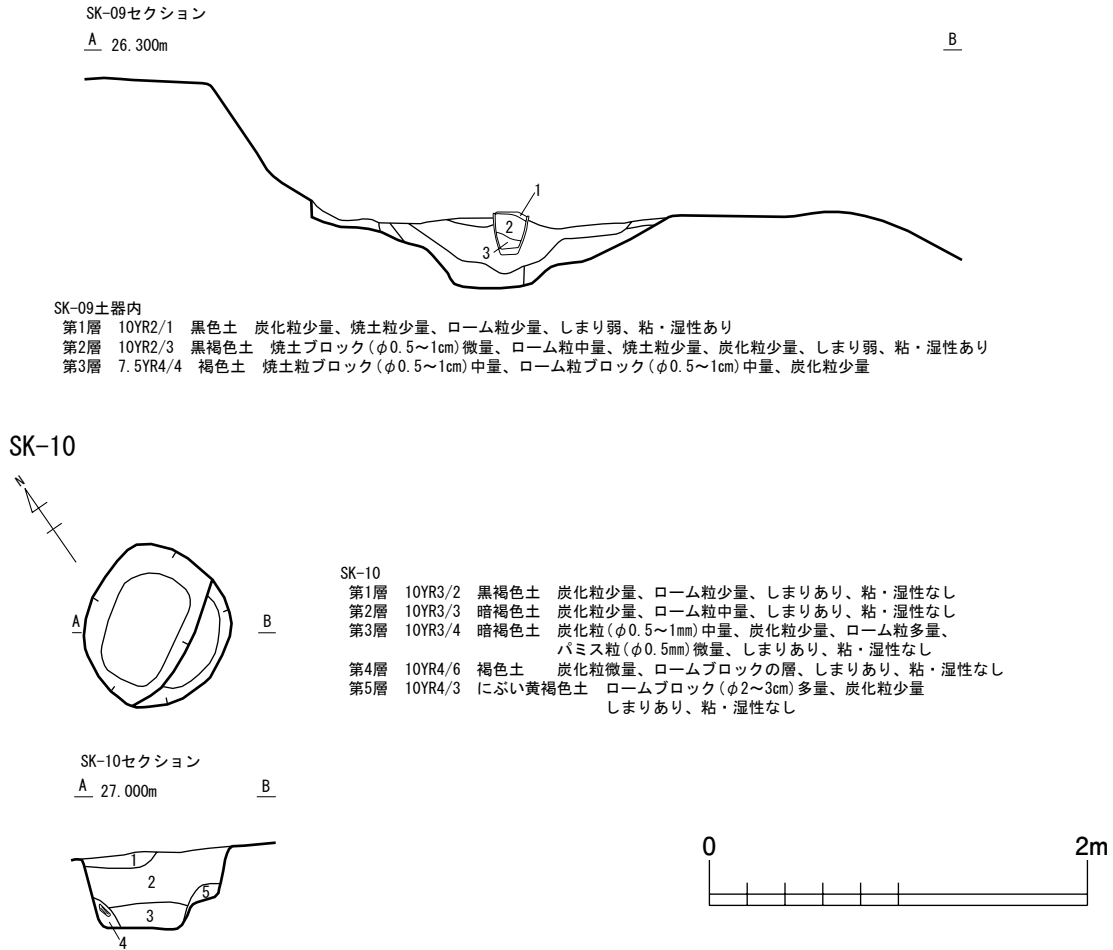
SK-09

- 第1層 10YR3/1 黒褐色土 炭化粒少量、ローム粒少量、しまりなし、粘・湿性あり
- 第2層 10YR2/1 黒褐色土 炭化粒中量、ローム粒少量、しまりあり、粘・湿性あり
- 第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒中量、しまりあり、粘・湿性あり
- 第4層 10YR2/2 黒褐色土 炭化粒中量、ローム粒中量、しまりあり、粘・湿性あり
- 第5層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(φ4~5cm)多量、炭化粒少量、しまりあり、粘・湿性あり
- 第6層 10YR5/6 黄褐色土 炭化粒微量、しまりあり、粘・湿性あり
- 第7層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒多量、炭化粒少量、しまりあり、粘・湿性あり

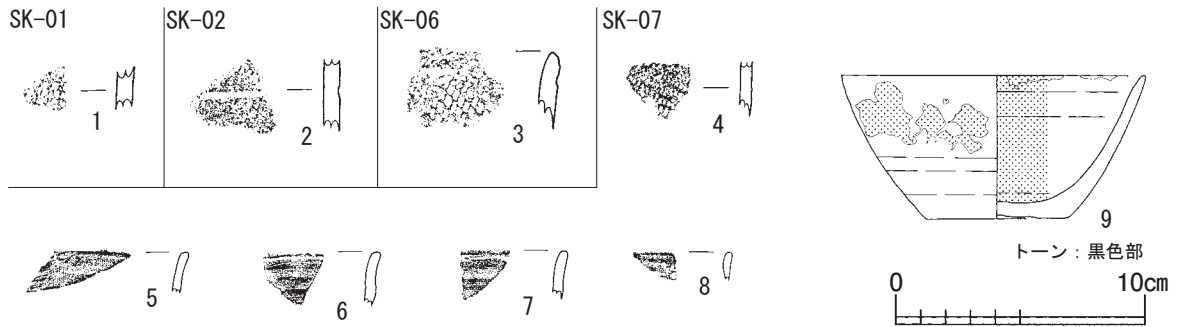
SK-09セクション



第31図 SK-07~09



第32図 SK-09~10



第33図 土坑出土遺物(1)

第14表 土坑出土土器属性表

遺構名	図版番号	整理番号	遺物番号	層位	種別	機種・部位	文様又は外面調整	内面調整	焼成	備考
SK-01	第33図1	2	SK01-p1	覆土	縄文土器	深鉢・胴部	—	ナデ	良	縄文時代中期末
	—	1	SK01-p2	〃	土師器	甕・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
SK-02	第33図2	3	SK02-p1	〃	縄文土器	深鉢・胴部	沈線	ナデ	良	縄文時代中期末
SK-04	—	4	SK04-p1	2	土師器	甕・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
	—	5	SK04-p2	1	土師器	甕・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
	—	6	SK04-p3	〃	土師器	甕・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
SK-05	—	7	SK05-p1	2	縄文土器	甕・底部	ナデ	ナデ	良	
SK-06	第33図3	8	SK06-p1	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線 RL	ナデ	良	縄文時代中期末
SK-07	第33図4	9	SK07-p1	1	縄文土器	深鉢・胴部	—	ナデ	良	縄文時代中期末
	第33図5	10-1	SK07-p2	覆土	土師器	坏・口縁部	ロクロナデ	ナデ	良	
	第33図6	10-2	SK07-p3	〃	土師器	坏・口縁部	ロクロナデ	ナデ	良	
	第33図7	10-4	SK07-p4	〃	土師器	坏・口縁部	ロクロナデ	ナデ	良	
	第33図8	10-6	SK07-p5	〃	土師器	坏・口縁部	ロクロナデ	ナデ	良	
	第33図9	内2	SK07-p6	1	土師器	坏	水挽き成形	ナデ	良	内外にタール付着
	—	10-3	SK07-p7	覆土	土師器	坏・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
	—	10-5	SK07-p8	〃	土師器	坏・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
	—	10-7	SK07-p9	〃	土師器	坏・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
	—	11	SK07-p10	底面	土師器	甕・底部	ナデ	ナデ	良	上げ底
SK-09	第34図10	24	SK09-p1	覆土	縄文土器	深鉢・胴部	瓜形	ナデ	良	表館式
	第34図11	20	SK09-p2	〃	縄文土器	深鉢・胴部	刺突、半截竹管	ナデ	良	表館式
	第34図12	202	SK09-p3	〃	縄文土器	胴部	ループ文様	ナデ	良	表館式
	第34図13	203	SK09-p4	〃	縄文土器	胴部	ループ文様	ナデ	良	表館式
	第34図14	204	SK09-p5	〃	縄文土器	胴部	ループ文様	ナデ	良	表館式
	第34図15	外1	SK09-p6	3	縄文土器	深鉢・完形	RL 懸垂文	ナデ	良	円筒上層 e 式
	第34図16	外2	SK09-p7	2	縄文土器	深鉢・完形	LR 綾絡文9段	ナデ	良	円筒上層 e 式
	第34図17	18	SK09-p8	覆土	縄文土器	深鉢・胴部	LR	ナデ	良	円筒上層 e 式
	第34図18	15	SK09-p9	〃	縄文土器	甕・胴部	—	ナデ	良	—
	第34図19	14	SK09-p10	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	撚糸圧痕 LR	ナデ	良	円筒上層 e 式
	第34図20	19	SK09-p11	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	撚糸圧痕、ボタン状貼付	ナデ	良	円筒上層 e 式
	第34図21	21	SK09-p12	〃	縄文土器	深鉢・胴部	LR	ナデ	良	円筒上層 e 式、炭化物付着
	第34図22	22	SK09-p13	〃	縄文土器	深鉢・胴部	LR	ナデ	良	円筒上層 e 式
	第34図23	17	SK09-p14	〃	縄文土器	深鉢・胴部	LR	ナデ	良	円筒上層 e 式
	第34図24	23	SK09-p15	〃	縄文土器	深鉢・胴部	沈線・懸垂文	ナデ	良	円筒上層 e 式
	—	13	SK09-p16	〃	縄文土器	深鉢・底部	—	ナデ	良	
—	16	SK09-p17	〃	土師器	甕・胴部	ロクロナデ	ナデ	良		
SK-10	—	12	SK10-p1	〃	土師器	甕・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	

第15表 土坑出土石器属性表

遺構名	図版番号	整理番号	遺物番号	層位	器種	計測値				石質	備考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)		
SK-09	第34図25	SK09-s1	S-1	—	台石	224	73	59	1454.0	石英安山岩	

3. 小ピット (SP-01、02)

本調査区から柱穴と考えられる2基の小ピットを検出した(第35図)。

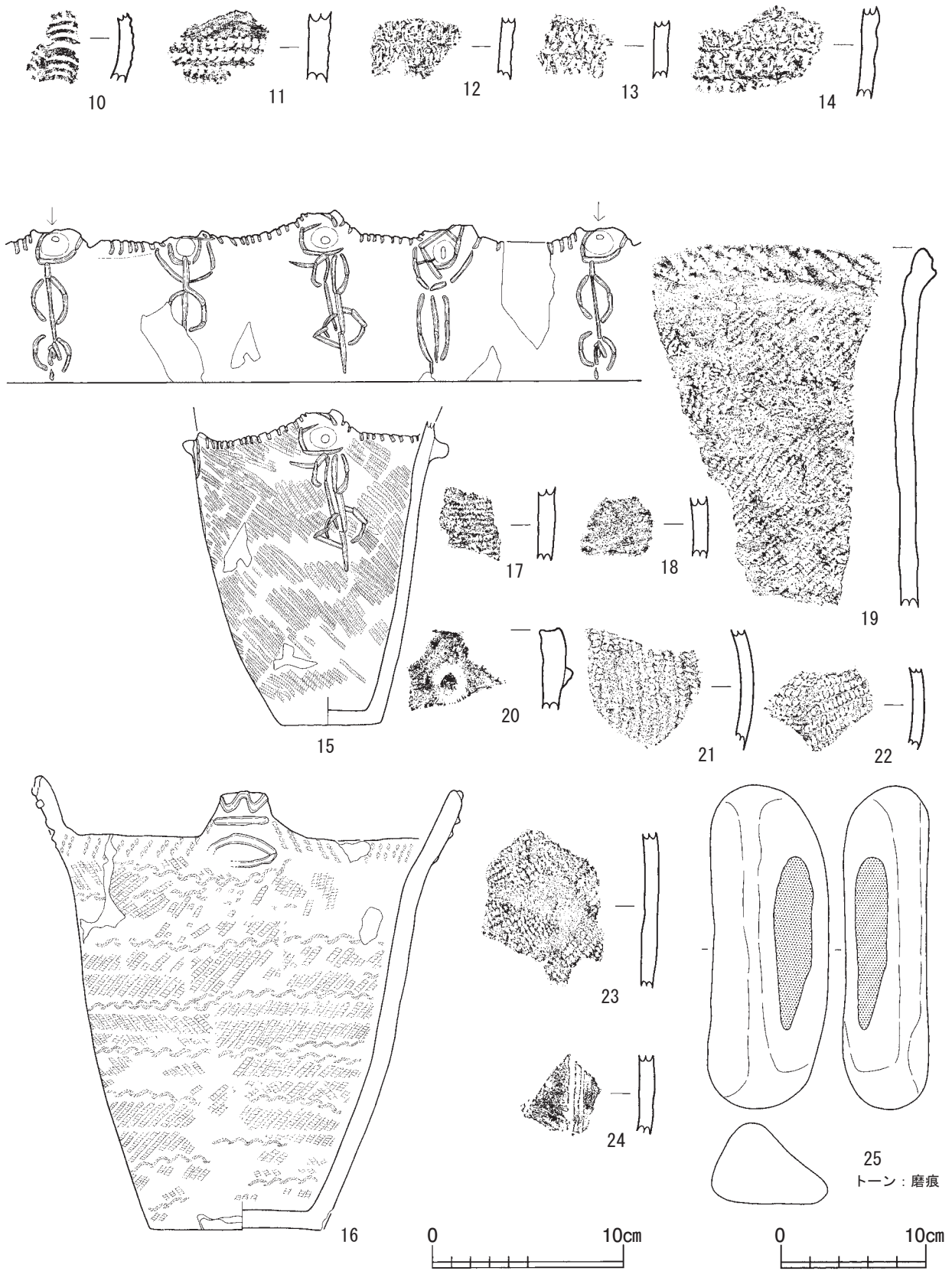
SP-01 (第35図)

丘陵平坦面のAA-27グリッドで確認した。径26cmのほぼ円形で、深さは13cmを計る。堆積土にはローム粒が中量混入している。

SP-02 (第35図)

丘陵平坦面のAC-25・26グリッドで確認した。平面形はやや楕円形を呈し、長軸36cm、短軸29cm、深さは29cmを計る。堆積土にはローム及び炭化粒が少量混入している。

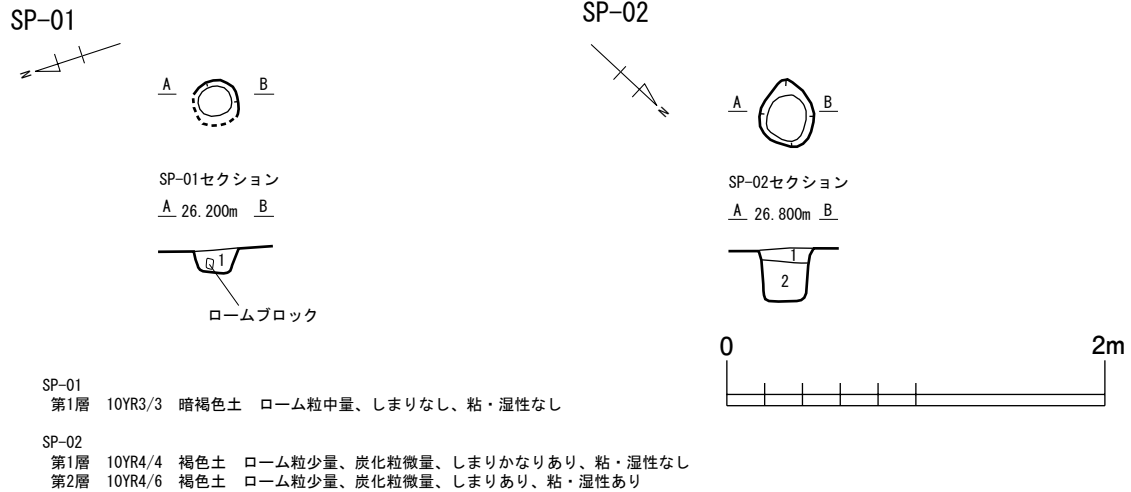
以上、2基の小ピットの位置や配列からは他の遺構との関連は考えにくく、遺物も出土しなかったため時期も不明である。



第34図 土坑出土遺物（2）

第16表 小ピット属性表

遺跡番号	位置	重複	規模 (cm)			平面形	断面形	備考
			長軸	短軸	深さ			
SP-01	AA-27	なし	26	(24)	13	円形	広口筒形	
SP-02	AC-25 AC-26	なし	36	29	29	楕円形	筒形	



第35図 小ピット

4. 焼土遺構 (SF-01、02)

本調査区より2基の焼土遺構を検出した。

SF-01 (第36図)

調査区AA-28グリッドで確認した。平面形は不整形を呈し、長軸66cm、短軸38cm、深さ15cmを計る。底面の掘り込みは鍋底状を呈している。本遺構は2層に分層され、1層は焼土粒や炭化粒の少ない明褐色土で、2層は焼土粒や炭化粒を多量に含む黒褐色土である。遺物は1層から縄文土器片1点(第37図1)、剥片1点を出土しているが本遺構の時期は不明である。

SF-02 (第36図)

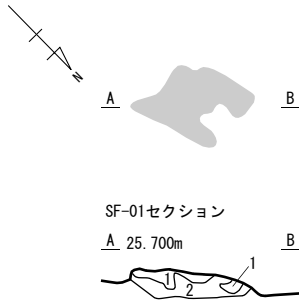
調査区AA-28グリッドで確認した。平面形は楕円形を呈し、長軸74cm、短軸34cm、深さ11cmを計る。本遺構は1層のみで、焼土ブロックや少量の炭化粒を含むにぶい黄褐色土を呈している。底面はあまり熱変化を受けていない。遺物は土師器片3点(第37図2~4)を出土し、うち1点はSI-01の土器ブロック3周辺のP-1と接合する。他に剥片1点を出土している。

(一町田 工)

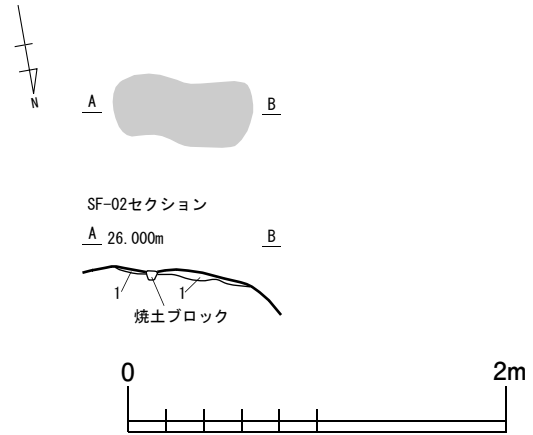
第17表 焼土遺構属性表

遺跡番号	位置	重複	規模 (cm)			平面形	断面形	備考
			長軸	短軸	深さ			
SF-01	AA-28	なし	66	38	15	不整形	緩やかな立ち上がり	縄文土器片1点 剥片1点
SF-02	AA-28	なし	74	34	11	楕円形	緩やかな立ち上がり	土師器片3点 剥片1点

SF-01



SF-02



SF-01

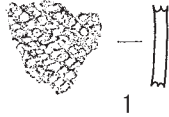
第1層 7.5YR5/6 明褐色土(焼土の層) 炭化粒微量、一部所々に黒褐色土(10YR2/3)少量混入、しまりややあり、粘・湿性なし
 第2層 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒多量、炭化粒多量、しまりややあり、粘・湿性あり

SF-02

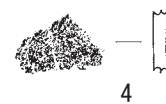
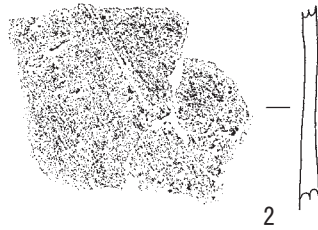
第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 焼土ブロック(5YR5/8明赤褐色土、φ0.5~1cm)中量、ロームブロック(φ0.5~1.5cm)少量、炭化粒少量、しまりややあり、粘・湿性なし

第36図 焼土遺構

SF-01



SF-02



第37図 焼土遺構出土遺物

第18図 焼土遺構出土土器属性表

遺構名	図版番号	整理番号	層位	種別	機種・部位	文様又は外面調整	内面調整	焼成	備考
SF-01	第37図1	SF01-p1	1	縄文土器	深鉢・胴部	RL	ナデ	良	炭化物付着
SF-02	第37図2	SF02-p1	2	土師器	甕・胴部	ケズリ	ナデ	良	
	第37図3	SF02-p2	〃	土師器	甕・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	
	第37図4	SF02-p3	〃	土師器	甕・胴部	ロクロナデ	ナデ	良	

第3節 出土遺物

本調査区から出土した遺物は、土器、石器、土製品、石製品、鉄関連遺物などダンボール7箱分が出土している。遺物の出土傾向としては、縄文時代の遺物がSK-09を含むA~AD-28グリッドの西北斜面周辺より多く出土し、土師器など平安時代の遺物は、竪穴住居跡(SI-01)からの出土が多い。

1. 土器

(1) 縄文時代の土器

縄文土器は、遺構内ではSI-01の覆土(第26図1~26)やSK-09(第34図10~24)、遺構外(第38~44図)から出土している。時期は、前期初頭、前期後葉、中期、中期末葉~後期初頭、後期前葉、晩期に属するものがみられる。

A. 前期初頭の土器

- ・表館式に相当する土器(第39図14~20)

施文文様から4つに分けられる。

- ①刺突文やコンパス文が施されているもの(第39図14~16)

口唇部形状は平坦で、コンパス文のほかに薄片状の篋状工具や、刺突工具としての半截竹管などで文様が施されている。

- ②ループ文が施されているもの(第39図17・18)

末端にループをもつ原体により回転施文されている。

- ③縄端回転文が施されているもの(第39図19)

太めの原体により、縄端回転文が重層に施されている。

- ④0段多条の施されているもの(第39図20)

特徴的に細長い節がみられる。

B. 前期後葉の土器

- ・円筒下層d式に相当する土器(第39図21・22)

7条の撚糸痕が頸部に施され、胴部との境界に若干細い隆起帯がみられる。

C. 中期の土器

- ・円筒上層a式に相当する土器(第39図23、第40図24~34)

山形突起を有し、太い粘土紐による隆起帯直下に撚糸圧痕が口縁に平行する2条の圧痕文が施されるものや、撚糸圧痕が波状に連続するもの、粘土紐でつくった結縄風の装飾及び橋状把手などがみられる。

- ・円筒上層b式に相当する土器(第40図35~38)

粘土紐を貼り付けて区画し、その中に撚糸を丸めた爪形文が施されている。

- ・円筒上層c式に相当する土器(第40図39~42)

粘土紐を貼り付けて区画し、その中に棒状工具の先端で刺突が施され、隆起帯上に撚糸圧痕や篋状工具による刻目がみられる。

- ・円筒上層d式に相当する土器(第40図43~53、第41図54~60)

弁状突起部に細い粘土紐を貼付け、突起部には凹状や二つに分かれた山型がみられ、突起直下にボタン状の装飾を貼付けたものなどがある。口縁部が開いているものが多く、粘土紐の波状隆線文

で飾るものや、篋状工具による刻目が施されているもので、口唇部には撚糸圧痕のあるものもないものがみられる。

- ・円筒上層 e 式に相当する土器（第38図1、第41図61～70・72）

4 単位の弁状小波状突起を有し、細い粘土紐を表裏に施しているものが多く、口の開いた深鉢形を呈している。また、地文には縄文が施され、波状突起部には粘土の貼付けによる小橋状把手や、突起部直下からの懸垂沈線文、胴部には綾絡文が9段程施されており、胴部に若干膨らみをもつもの等がみられる。

D. 中期末葉～後期初頭の土器

- ・型式判別の指標となりうる主要文様を有しない土器（第38図4・5、第39図9・10、第41図73～77、第42図78～93）

口縁部片は無文もあるが、単節縄文、0段多条（胴部含む）、撚糸縦位などの文様が施されている粗製土器である。深鉢形土器が多い。

- ・最花式に類似する資料（第41図71）

肩部の張った部分に刺突がみられるものである。

- ・十腰内 I 式土器成立以前の土器（第38図2・3・6～8、第39図11、第42図94～106、第43図107～142、第44図143～147）

口縁部は波状や平縁を呈し、文様要素の中心は地文が縄文と沈線、磨消縄文と沈線である。他に刺突文、口縁部折返しと縄文、網目状撚糸文と沈線、地文が縄文と沈線とボタン状貼付文などの施されているものもある。沈線は入組文や渦巻文が見られるもので、地文は縄文の場合 RL より LR が多くみられる。文様構成は粘土紐を縦位や横位に区画し、沈線を併用しているものもみられる。

E. 後期前葉の土器

- ・十腰内 I 式土器に相当する土器（第44図148～150）

磨消縄文と沈線、沈線による渦巻文、斜交する格子目文等がみられる。

F. 縄文時代晩期の土器（第39図12・13、第44図151～159）

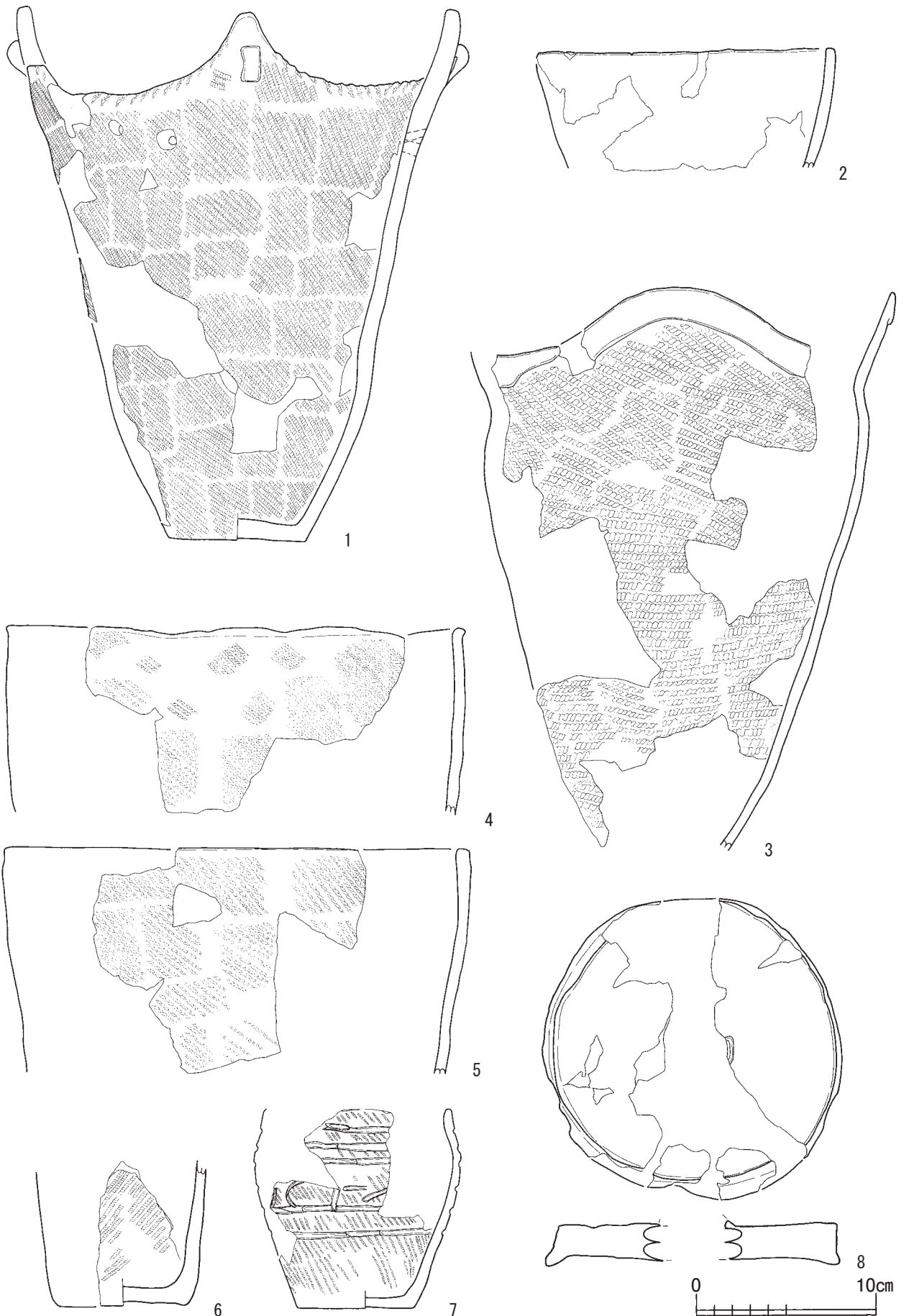
三叉文と沈線、磨消縄文などで構成する注口土器や、口縁部の突起の間に刻目やその直下に沈線文のあるもの、頸部に沈線文が施されているものなどがみられる。多くは大洞 B 式に相当するものと思われる。

縄文土器の底面圧痕について（第39図10、第45図1～5）

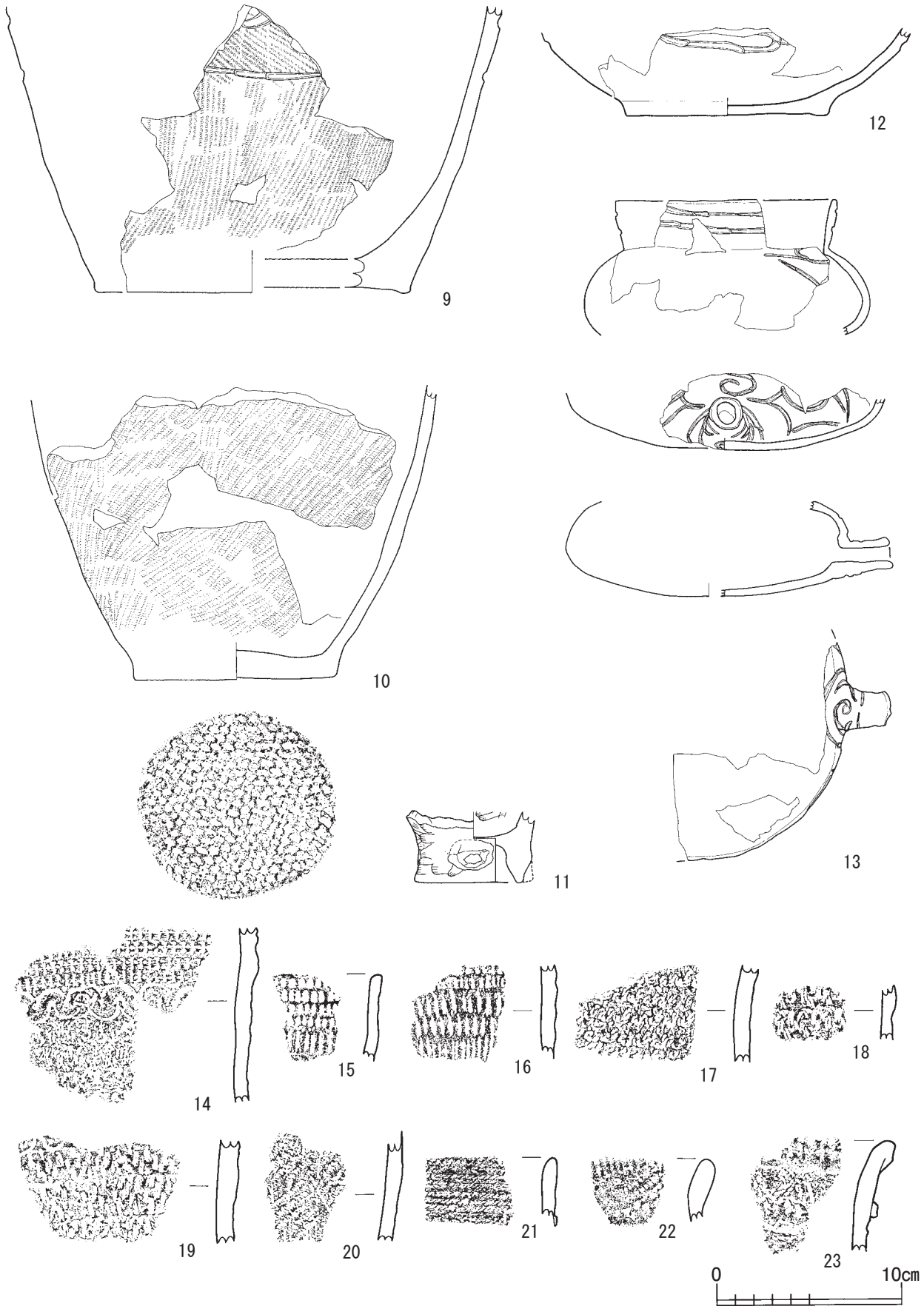
縄文時代中期～後期の深鉢形土器の底面には、綱代圧痕と葉脈圧痕の2種類が認められる。

綱代圧痕（第45図1～4）は素材（蔓材など）の太さや、固さによって違ってみえるが、1本超え、1本潜り、1本送りのものである。

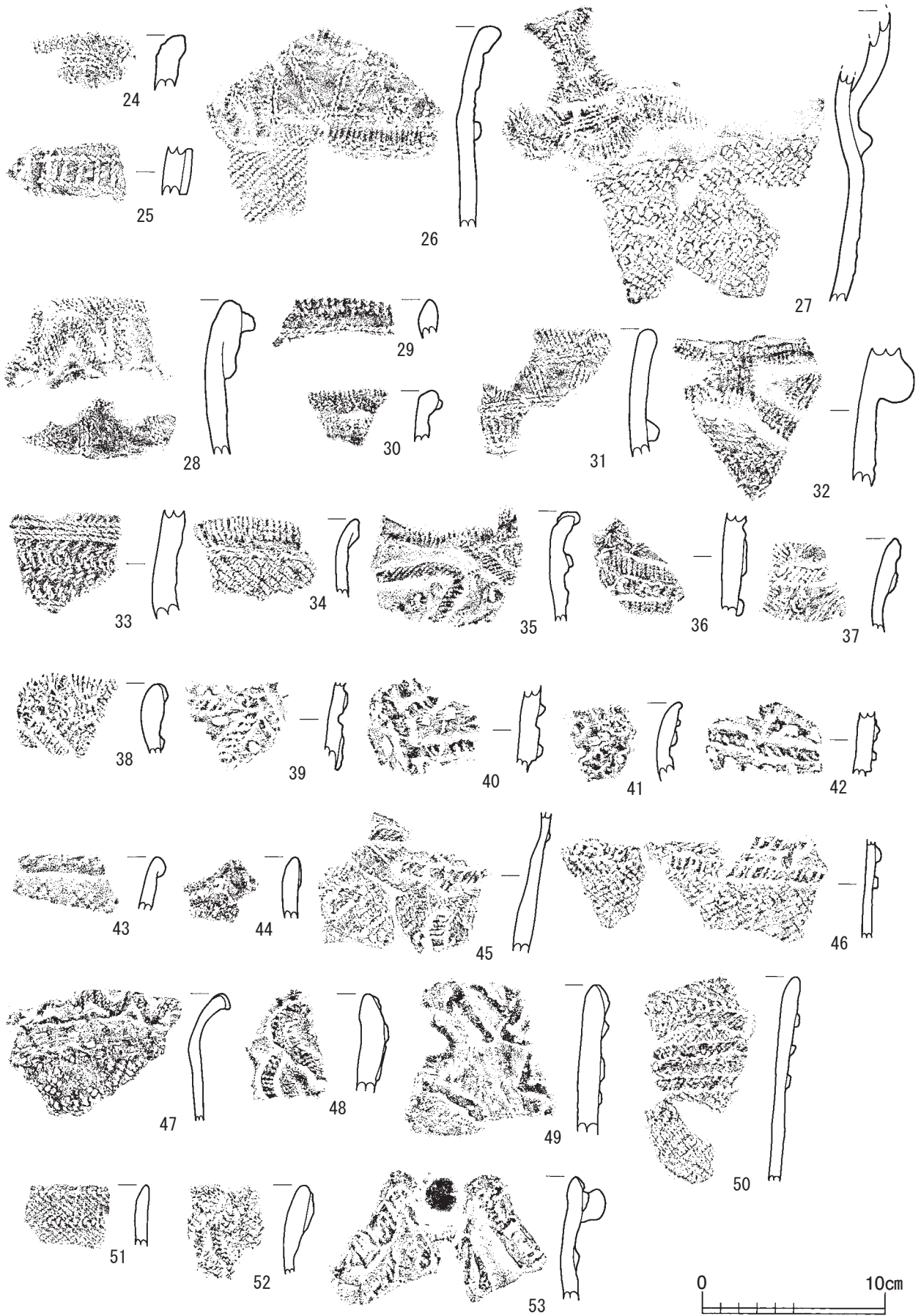
また、葉脈圧痕（第45図5）は、平行葉脈痕であることからチマキザサなど笹類の葉を重ねて敷いたものと思われる。



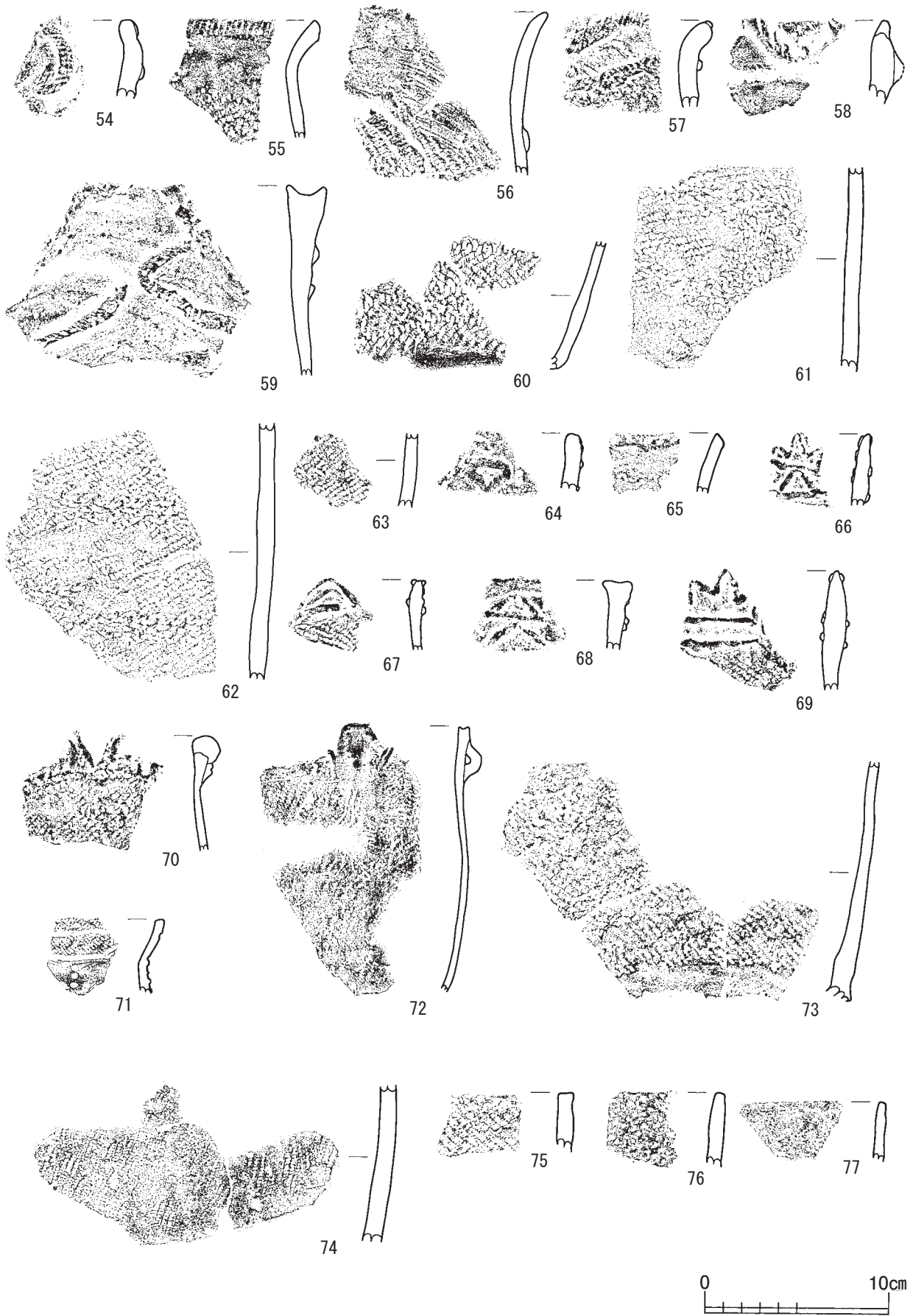
第38図 遺構外出土土器(1)



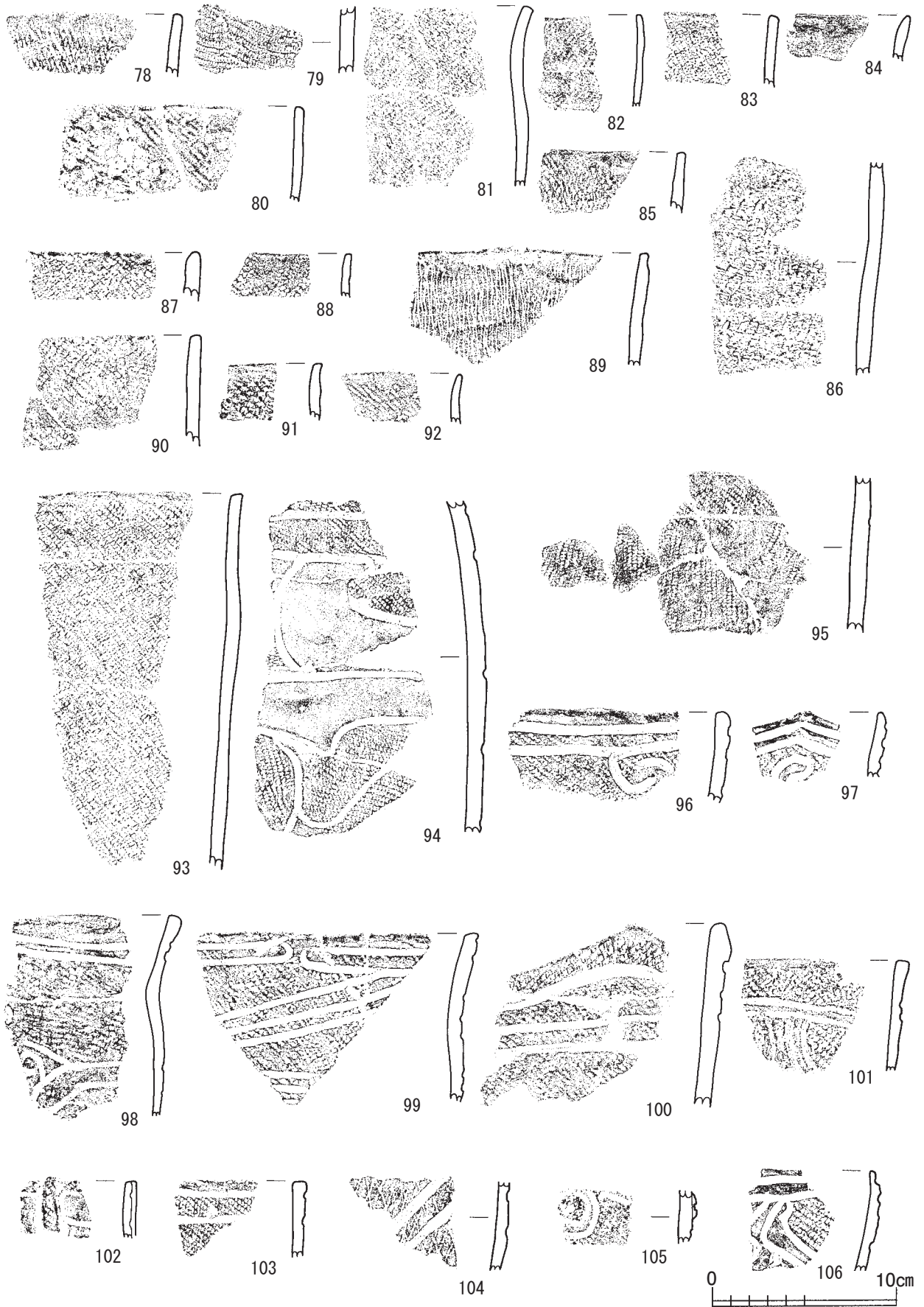
第39図 遺構外出土土器 (2)



第40図 遺構外出土土器(3)



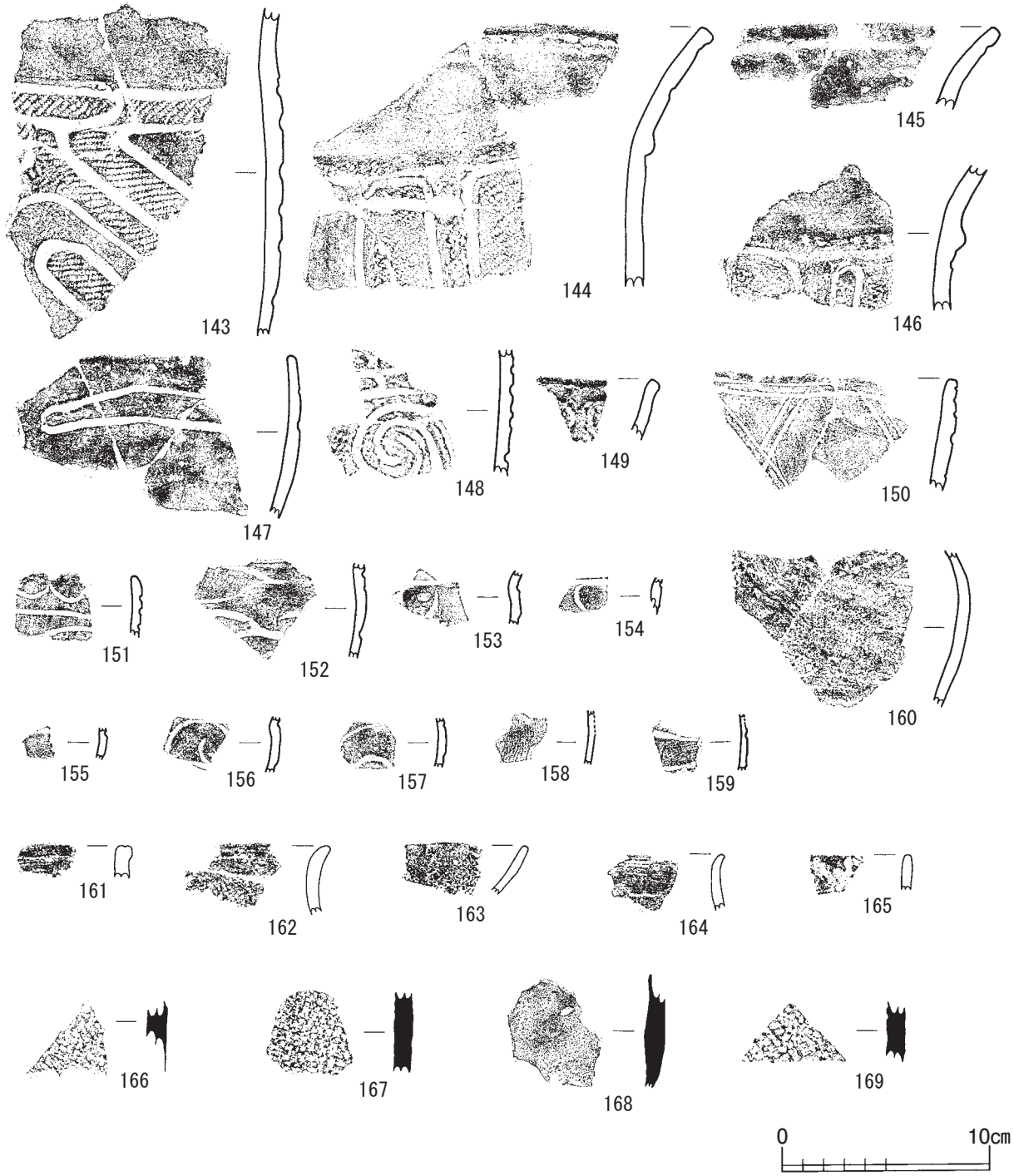
第41図 遺構外出土土器 (4)



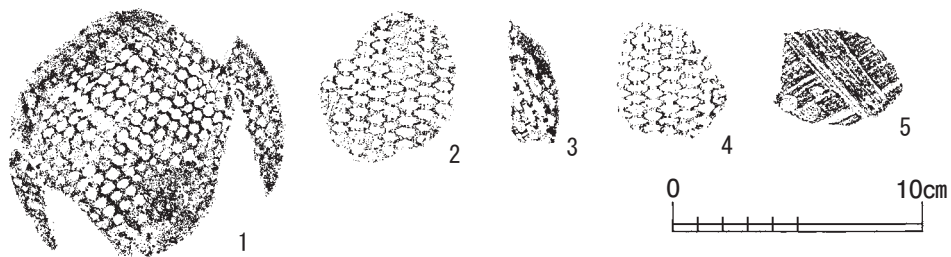
第42図 遺構外出土土器(5)



第43図 遺構外出土土器 (6)



第44図 遺構外出土土器 (7)



第45図 縄文土器底面压痕

(2) 平安時代の土師器・須恵器 (第44図161～165、第44図166～169)

主に SI-01から出土しているが、遺構外からの出土も少なくない。

土師器では甕、坏、須恵器では甕、壺などが出土している。本調査区より出土した土師器及び須恵器の器形や製作技法などの特徴は以下のようにまとめられる。

- ①坏は少なく、手づくねタイプの碗や、ミニチュア土器などがみられる。
- ②碗では内黒処理されているものがみられるが、全面に及んでいないものもみられる。
- ③坏の底面には糸切りの痕跡を有するものがみられない。
- ④甕の口縁部は「く」の字状に外反し、頸部より上は輪積成形のものが多く、ロクロ成形したものもみられる。口縁部は短くつまみ出され、外面に段を有しているものもみられる。(第44図161・162・164)
- ⑤甕の外面にはナデ調整とケズリ調整がみられ、砂粒が多く含んでおり器面が粗い。
- ⑥須恵器は甕と壺が見られるが、坏はない。なお、原因者負担区では須恵器を模した黒色処理の土師器の壺(栄山(3)遺跡発掘調査報告書 青森市埋蔵文化財調査報告書第76集第9図11参照)がみられるなど、須恵器生産の終末期の様相を呈している。

以上のような様相は、浪岡町の大沼遺跡・源常平遺跡、青森市朝日山遺跡と部分的に類似するため、栄山(3)遺跡は10世紀後半代の特徴を有する遺跡と考えられる。

第19表 遺構外出土土器属性表(1)

図版番号	整理番号	出土区	層位	種別	器種・部位	文様及び外面調整	内面調整	焼成	備考
第38図1	外 p1	AA-28・29	Ⅱ・Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	波状口縁、口縁撻系圧痕、ボタン状貼付のある四つの突起、RL	ナデ	良	円筒上層 e 式
第38図2	外 p2	A-27	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口頸部	ミガキ	ナデ	良	後期初頭
第38図3	外 p3	AA-26～28 AC-29	〃	縄文土器	深鉢 口縁部～胴部	折り返し口縁 RL、LR	ナデ	良	中期末～後期初頭
第38図4	外 p4	A-27 AA-27・29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末～後期初頭
第38図5	外 p5	A-27・28 AA-27 AC-29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部 胴部	RL	ナデ	良	中期末～後期初頭
第38図6	外 p6	AA-26	風倒木	縄文土器	深鉢 胴部～底部	LR	ナデ	やや良	中期末～後期初頭
第38図7	外 p7	A-27	Ⅲ	縄文土器	小鉢・口縁部 胴部	磨消縄文	ナデ	良	後期初頭
第38図8	外 p8	A-27	〃	縄文土器	蓋	無文	ナデ	良	中期末
第39図9	外 p9	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・底部	磨消縄文、沈線	ナデ	良	中期末～後期初頭
第39図10	外 p10	AA-28 A-28	Ⅱ・Ⅲ	縄文土器	深鉢・底部	0段多条文	ナデ	良	中期末～後期初頭
第39図11	外 p11	AC-29	Ⅲ	縄文土器?	台付鉢形	ナデ	ナデ		台部に対孔あり
第39図12	外 p12	表採	-	縄文土器	深鉢・底部	無文	ナデ	良	後期初頭
第39図13	外 p13	A-28	Ⅲ	縄文土器	注口器 口縁部～胴部	沈線	ナデ	良	晩期大洞 B 式
第39図14	外 p14	A-28	Ⅲ、 風倒木	縄文土器	深鉢・胴部	刺突、コンパス、ループ	ナデ	良	表筒式、3点接合
第39図15	外 p15	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	刺突、溝い笠状文様	ナデ	良	表筒式
第39図16	外 p16	〃	〃	縄文土器	深鉢・胴部	薄い笠状文様	ナデ	良	表筒式
第39図17	外 p17	A-27	〃	縄文土器	深鉢・胴部	ループ文様	ナデ	良	表筒式
第39図18	外 p18	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・胴部	ループ文様	ナデ	良	表筒式
第39図19	外 p19	〃	〃	縄文土器	深鉢・胴部	縄縷回転文様	ナデ	良	表筒式
第39図20	外 p20	〃	〃	縄文土器	深鉢・胴部	0段多条文	ナデ	良	表筒式
第39図21	外 p21	〃	風倒木	縄文土器	深鉢・口縁部	撻系圧痕(7条)	ナデ	良	円筒下層 d1式
第39図22	外 p22	〃	Ⅱ	縄文土器	深鉢・口縁部	単節 LR、撻系圧痕	ナデ	やや良	円筒下層 d2式
第39図23	外 p23	AC-29	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	太い粘土紐の貼付、口縁部平行撻系圧痕	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図24	外 p24	AA-27	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	太い粘土紐の貼付、口縁部平行撻系圧痕	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図25	外 p25	AB-28	〃	縄文土器	深鉢・頸部	平行撻系圧痕	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図26	外 p26	AC-30	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	太い粘土紐の貼付、口縁部平行撻系圧痕	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図27	外 p27	〃	〃	縄文土器	深鉢・口頸部	太い粘土紐貼付、橋状把手	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図28	外 p28	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	太い粘土紐貼付、撻系圧痕、連続波状文	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図29	外 p29	A-27	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	平行撻系圧痕	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図30	外 p30	AA-27	〃	縄文土器	浅鉢・口縁部	平行撻系圧痕	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図31	外 p31	AC-29	Ⅱ	縄文土器	深鉢・口縁部	太い粘土紐貼付、平行撻系圧痕	ナデ	良	円筒上層 a 式、7点接合
第40図32	外 p32	〃	Ⅲ	縄文土器	深鉢・頸部	結縄風の装飾	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図33	外 p33	〃	〃	縄文土器	深鉢・頸胴部	撻系圧痕	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図34	外 p34	A-27	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	撻系圧痕	ナデ	良	円筒上層 a 式
第40図35	外 p35	AC-29	Ⅳ	縄文土器	深鉢・口縁部	粘土紐の貼付、撻系の圧痕による瓜形文	ナデ	良	円筒上層 b 式
第40図36	外 p36	AA-28	攪乱	縄文土器	深鉢・口縁部	粘土紐の貼付、撻系の圧痕による瓜形文	ナデ	良	円筒上層 b 式

第20表 遺構外出土土器属性表(2)

図版番号	整理番号	出土区	層位	種別	器種・部位	文様及び外面調整	内面調整	焼成	備考
第40図37	外 p37	AC-29	Ⅳ	縄文土器	深鉢・口縁部	粘土紐の貼付、捺糸の圧痕による瓜形文	ナデ	良	円筒上層 b 式
第40図38	外 p38	AB-28	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	貼付の隆起篋	ナデ	良	円筒上層 b 式
第40図39	外 p39	A-27	〃	縄文土器	深鉢・頸部	粘土紐の貼付、棒状先端の刺突	ナデ	良	円筒上層 c 式
第40図40	外 p40	AD-27	〃	縄文土器	深鉢・頸部	粘土紐の貼付、棒状先端の刺突	ナデ	良	円筒上層 c 式
第40図41	外 p41	AC-29	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	粘土紐の貼付、棒状先端の刺突	ナデ	良	円筒上層 c 式
第40図42	外 p42	AA-24	Ⅱ	縄文土器	深鉢・頸部	粘土紐の貼付、棒状先端の刺突	ナデ	良	円筒上層 c 式
第40図43	外 p43	AA-28	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	細い粘土紐貼付、LR、捺糸圧痕	ナデ	良	円筒上層 d 式
第40図44	外 p44	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	細い粘土紐貼付、突起あり	ナデ	良	円筒上層 d 式
第40図45	外 p45	AC-29	〃	縄文土器	深鉢・胴部	細い粘土紐貼付、LR、捺糸圧痕	ナデ	良	円筒上層 d 式
第40図46	外 p46	〃	〃	縄文土器	深鉢・胴部	隆起帯上に刻目、LR	ナデ	良	円筒上層 d 式、炭化物付着
第40図47	外 p47	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	鋸歯状に細い粘土紐貼付、LR、捺糸圧痕	ナデ	良	円筒上層 d 式、炭化物付着
第40図48	外 p48	AB-29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	捺糸圧痕	ナデ	良	円筒上層 d 式
第40図49	外 p49	AC-29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	歯状に細い粘土紐貼付	ナデ	良	円筒上層 d 式
第40図50	外 p50	AB-29 AB-30	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	細い粘土紐貼付、捺糸圧痕、0段多条	ナデ	良	円筒上層 d 式
第40図51	外 p51	AA-29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	羽状縄文	ナデ	良	円筒上層 d 式
第40図52	外 p52	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	細い粘土紐貼付、RL	ナデ	良	円筒上層 d 式
第40図53	外 p53	AB-29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	細い粘土紐貼付、篋状での刻目、ボタン状貼付	ナデ	良	円筒上層 d 式
第41図54	外 p54	AC-29	Ⅱ	縄文土器	深鉢・口縁部	細い粘土紐貼付、丸味のある突起	ナデ	良	円筒上層 d 式
第41図55	外 p55	〃	Ⅳ	縄文土器	深鉢・口縁部	口縁部、細い刻目、LR	ナデ	良	円筒上層 d 式
第41図56	外 p56	A-27	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	細い粘土紐貼付、RL、捺糸圧痕、	ナデ	良	円筒上層 d 式
第41図57	外 p57	AB-30	Ⅳ	縄文土器	深鉢・口縁部	細い粘土紐貼付、捺糸圧痕、	ナデ	良	円筒上層 d 式
第41図58	外 p58	AC-29	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	細い粘土紐貼付、刻目	ナデ	良	円筒上層 d 式
第41図59	外 p59	A-27	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	細い粘土紐貼付、刻目	ナデ	良	円筒上層 d 式
第41図60	外 p60	A-29	〃	縄文土器	深鉢・口胴部	羽状縄文	ナデ	良	円筒上層 d 式
第41図61	外 p61	AC-28	〃	縄文土器	深鉢・胴部	単節 LR、綾絡文	ナデ	良	円筒上層 e 式
第41図62	外 p62	AC-29	Ⅳ	縄文土器	深鉢・胴部	単節 LR、綾絡文	ナデ	良	円筒上層 e 式
第41図63	外 p63	〃	Ⅲ	縄文土器	深鉢・胴部	単節 LR、綾絡文	ナデ	良	円筒上層 e 式
第41図64	外 p64	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	突起部に細い粘土紐	ナデ	良	円筒上層 e 式
第41図65	外 p65	AC-30	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	綾絡文	ナデ	良	円筒上層 e 式
第41図66	外 p66	AB-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	突起部に細い粘土紐	細い粘土紐	良	円筒上層 e 式
第41図67	外 p67	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	単節 RL、突起部に細い粘土紐	細い粘土紐	良	円筒上層 e 式
第41図68	外 p68	AC-29	Ⅳ	縄文土器	深鉢・口縁部	突起部に細い粘土紐	ナデ	良	円筒上層 e 式
第41図69	外 p69	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	単節 RL、突起部に細い粘土紐	細い粘土紐	良	円筒上層 e 式
第41図70	外 p70	〃	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	単節 LR、口縁部捺糸圧痕	ナデ	良	円筒上層 e 式
第41図71	外 p71	A-28	〃	縄文土器	浅鉢・口縁部	沈線、羽状、肩部から無文 刺突	ナデ	良	中期末
第41図72	外 p72	AA-28	Ⅱ・Ⅲ	縄文土器	口縁部・胴部	単節 LR、橋状貼付、沈線による懸垂文	ナデ	良	円筒上層 e 式、7点接合
第41図73	外 p73	AA-27・28	Ⅲ	縄文土器	深鉢・胴部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第41図74	外 p74	A-27・28	〃	縄文土器	深鉢・胴部	LR 縦位	ナデ	良	中期末、粗製土器
第41図75	外 p75	AA-27	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第41図76	外 p76	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第41図77	外 p77	〃	風倒木	縄文土器	深鉢・口縁部	不明	ナデ	良	炭化物付着、粗製土器
第42図78	外 p78	A-27	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	炭化物付着、粗製土器
第42図79	外 p79	〃	〃	縄文土器	深鉢・胴部	0段多条	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図80	外 p80	A-27・28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図81	外 p81	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	LR	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図82	外 p82	AA-28	攪乱	縄文土器	深鉢・口縁部	LR	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図83	外 p83	A-27	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図84	外 p84	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	無文	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図85	外 p85	〃	攪乱	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図86	外 p86	A-28	Ⅱ	縄文土器	深鉢・胴部	0段多条	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図87	外 p87	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図88	外 p88	A-28	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図89	外 p89	A-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	捺糸縦位	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図90	外 p90	A-27	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図91	外 p91	AC-29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図92	外 p92	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図93	外 p93	AA-26	覆土	縄文土器	深鉢・口縁部	RL	ナデ	良	中期末、粗製土器
第42図94	外 p94	AA-28	Ⅲ	縄文土器	深鉢・胴部	磨消縄文、沈線	ナデ	良	後期初頭
第42図95	外 p95	〃	〃	縄文土器	深鉢・胴部	磨消縄文、沈線	ナデ	良	後期初頭
第42図96	外 p96	AA-28	風倒木	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、入組文 RL	ナデ	良	後期初頭
第42図97	外 p97	AC-29	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、渦巻文 RL	ナデ	良	後期初頭
第42図98	外 p98	A-27	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、RL	ナデ	良	後期初頭
第42図99	外 p99	AC-29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、RL	ナデ	良	後期初頭
第42図100	外 p100	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、RL	ナデ	良	後期初頭
第42図101	外 p101	AA-26	風倒木	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、RL	ナデ	良	後期初頭
第42図102	外 p102	AA-28	Ⅲ	縄文土器	深鉢・頸部	縦位隆起帯、沈線区画	ナデ	良	後期初頭
第42図103	外 p103	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、RL	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第42図104	外 p104	A-27	〃	縄文土器	深鉢・胴部	網目状捺糸文、沈線	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第42図105	外 p105	AC-29	〃	縄文土器	深鉢・頸部	沈線、ボタン状貼付	ナデ	良	中期末~後期初頭、炭化物付着
第42図106	外 p106	AC-30	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、RL	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図107	外 p107	A-28	〃	縄文土器	深鉢・胴部	刺突	ナデ	良	中期?炭化物付着
第43図108	外 p108	AA-28	風倒木	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、RL	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図109	外 p109	AC-29	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、RL	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着

第21表 遺構外出土土器属性表(3)

図版番号	整理番号	出土区	層位	種別	器種・部位	文様及び外面調整	内面調整	焼成	備考
第43図110	外 p110	AA-28	風倒木	縄文土器	深鉢・胴部	磨消縄文、RL	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図111	外 p111	AC-29	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、RL	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図112	外 p112	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、RL	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図113	外 p113	AC-30	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、RL	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図114	外 p114	A-27	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、LR	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図115	外 p115	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図116	外 p116	AC-29	〃	縄文土器	深鉢・胴部	沈線、RL	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図117	外 p117	A-27	〃	縄文土器	深鉢・胴部	沈線	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図118	外 p118	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、縦捺糸文	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図119	外 p119	AC-29	Ⅱ	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、縦捺糸文	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図120	外 p120	AA-28	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図121	外 p121	AC-29	〃	縄文土器	深鉢・胴部	刺突、沈線	ナデ	良	中期末～後期初頭、炭化物付着
第43図122	外 p122	AA-26	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	折返し口縁、LR	ナデ	良	中期末～後期初頭、炭化物付着
第43図123	外 p123	AC-30	〃	縄文土器	深鉢・胴部	磨消縄文、沈線	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図124	外 p124	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図125	外 p125	AA-28	風倒木	縄文土器	深鉢・口縁部	折返し口縁、RL	ナデ	良	中期末～後期初頭、炭化物付着
第43図126	外 p126	AC-29	Ⅳ	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、LR	ナデ	良	後期初頭、炭化物付着
第43図127	外 p127	A-27	Ⅱ	縄文土器	浅鉢・口縁部	無文	ナデ	良	中期末～後期初頭
第43図128	外 p128	AC-30	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	捺糸圧痕	ナデ	良	中期末
第43図129	外 p129	AA-28	風倒木	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、LR	ナデ	良	後期初頭
第43図130	外 p130	AC-30	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、RL	ナデ	良	後期初頭
第43図131	外 p131	A-27	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、RL	ナデ	良	後期初頭
第43図132	外 p132	AC-29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、渦巻文	ナデ	良	後期初頭
第43図133	外 p133	AB-29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	無文	ナデ	良	後期初頭
第43図134	外 p134	A-27	〃	縄文土器	深鉢・胴部	沈線	ナデ	良	後期初頭
第43図135	外 p135	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、RL	ナデ	良	後期初頭
第43図136	外 p136	AA-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、RL	ナデ	良	後期初頭
第43図137	外 p137	AC-29	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、RL	ナデ	良	後期初頭
第43図138	外 p138	A-27	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、LR	ナデ	良	後期初頭
第43図139	外 p139	AC-30	〃	縄文土器	深鉢・胴部	沈線、刺突、RL	ナデ	良	後期初頭
第43図140	外 p140	〃	〃	縄文土器	深鉢・胴部	沈線	ナデ	良	後期初頭
第43図141	外 p141	〃	〃	縄文土器	深鉢・胴部	沈線、RL	ナデ	良	後期初頭
第43図142	外 p142	A-27・28	〃	縄文土器	深鉢・胴部・底部	磨消縄文、沈線、LR	ナデ	良	後期初頭
第44図143	外 p143	A-27	〃	縄文土器	深鉢・胴部	磨消縄文、沈線、LR	ナデ	良	後期初頭
第44図144	外 p144	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、大柄文様区面	ナデ	良	後期初頭
第44図145	外 p145	A-28	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、大柄文様区面	ナデ	良	後期初頭
第44図146	外 p146	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	磨消縄文、沈線、大柄文様区面	ナデ	良	後期初頭
第44図147	外 p147	AA-28	風倒木	縄文土器	深鉢・胴部	磨消縄文、沈線	ナデ	良	後期初頭
第44図148	外 p148	AC-30	Ⅲ	縄文土器	深鉢・胴部	沈線、渦巻文、地文縄文	ナデ	良	後期十腰内I式
第44図149	外 p149	〃	〃	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線	ナデ	良	後期十腰内I式
第44図150	外 p150	AA-26	風倒木	縄文土器	深鉢・口縁部	斜交格子目文	ナデ	良	後期十腰内I式
第44図151	外 p151	AA-27	Ⅲ	縄文土器	深鉢・口縁部	沈線、弧線文	ナデ	良	晩期大洞B式
第44図152	外 p152	A-27	〃	縄文土器	深鉢・胴部	沈線、入組文	ナデ	良	晩期大洞B式
第44図153	外 p153	〃	〃	縄文土器	注口器・肩部	沈線、入組文	ナデ	良	晩期大洞B式
第44図154	外 p154	AC-29	〃	縄文土器	注口器・肩部	沈線、入組文	ナデ	良	晩期大洞B式
第44図155	外 p155	〃	〃	縄文土器	注口器・肩部	沈線、入組文	ナデ	良	晩期大洞B式
第44図156	外 p156	AC-30	〃	縄文土器	注口器・胴部	沈線、入組文	ナデ	良	晩期大洞B式
第44図157	外 p157	〃	〃	縄文土器	注口器・胴部	沈線、入組文	ナデ	良	晩期大洞B式
第44図158	外 p158	AA-27	〃	縄文土器	浅鉢・胴部	沈線、縄文	ナデ	良	晩期、2点接合
第44図159	外 p159	AA-28	〃	縄文土器	浅鉢・胴部	沈線、縄文	ナデ	良	晩期
第44図160	外 p160	AC-29	Ⅱ・Ⅳ	縄文土器	鉢・胴部	無文	ナデ	良	後期初頭
第44図161	外 p161	A-28	Ⅲ	土師器	甕・口縁部	ナデ	ナデ	良	
第44図162	外 p162	AA-24	Ⅱ	土師器	甕・口縁部	ナデ	ナデ	良	
第44図163	外 p163	AA-28	Ⅲ	土師器	皿・口縁部～胴部	ナデ	ナデ	良	
第44図164	外 p164	AC-26	攪乱	土師器	甕・口縁部	ロクロナデ	ナデ	良	
第44図165	外 p165	AC-30	Ⅲ	土師器	坏・口縁部	ナデ	ナデ	良	
第44図166	外 p166	AC-29	Ⅱ	須恵器	甕・胴部	タタキ	当て具痕	良	
第44図167	外 p167	〃	〃	須恵器	甕・胴部	タタキ	当て具痕	良	
第44図168	外 p168	AA-25	〃	須恵器	長頸壺・胴部	ナデ	ヘラナデ	良	
第44図169	外 p169	A-28	〃	須恵器	甕・胴部	タタキ	当て具痕	良	外面灰釉

2. 石器(第28図1～3、第34図25、第46図1～15、第47図16～18)

本調査区から出土した石器は、遺構内・遺構外含め石鏃2点、石匙1点、石篋1点、石斧1点、不定形石器8点、台石2点、磨製石斧1点、磨石3点、凹石2点、敲石1点、台石3点、石弾状石器1点、砥石1点、剥片307点である。

①石鏃(第46図1・2)

遺構外から2点出土しており、凸基有茎鏃(第46図1)と尖基無茎鏃(第46図2)がみられる。

②石匙(第46図3)

遺構外から1点出土している。縦型の石匙で背面全体に剥離調整、腹面の周縁に刃部調整が施されている。

③石篋(第46図4)

遺構外から1点出土している。背面に刃部調整が施され、長軸を結んだ下方に急斜度の刃部調整が施されている。

④不定形石器(第28図1、第46図5～11)

SI-01から1点、遺構外から7点の計8点が出土している。背面や腹面に連続的な刃部調整が施されている。

⑤磨製石斧(第46図12)

遺構外から1点出土しており、基部のみが残存する資料である。

⑥磨石(第28図3)

SI-01から2点、遺構外より1点の計3点が出土している。礫の手担面などに磨痕が認められる。

⑦凹石(第46図13・14)

遺構外から2点出土している。いずれも両面のほぼ中央に凹状の使用痕が認められる。

⑧敲石(第46図15)

遺構外から1点出土している。扁平な石材の先端や側縁に敲痕が認められる。

⑨台石(第34図25、第47図16・17)

SK-09から1点、遺構外より2点の計3点が出土している。いずれも安山岩製で平坦面に磨痕が認められる。

⑩石弾状石器(第47図18)

遺構外から1点出土している。研磨などにより球状に整形されている。

⑪砥石(第28図2)

SI-01から1点出土している。平坦面に研磨痕が認められる。

3. 土製品(第28図4～5、第47図19～30)

①土器片利用土製品(第47図19～21)

遺構外から3点出土している。全て縄文土器片を利用したもので、周縁部を人為的に打ち欠いたものである。土器に見られる沈線と地文から縄文時代後期初頭のものと思われる。

②ミニチュア土器(第47図22～30)

遺構外から9点出土している。縄文時代に属するものは、鉢形や壺形を呈するものが3点(第47図22～24)出土している。土師器のミニチュア土器は、鉢形や壺形など6点が出土している(第47図25～30)。これらの土製品の底部径は2.5～3.3cmを計る。

③埴状土製品(第28図4)

SI01-sk02から3点出土している。粘土を盤状に固めたもので、表面にむしろ状の圧痕がみられる。類例が浪岡町山元(2)遺跡から埴状土製品が出土している。時期は10世紀後半以前からの遺物に伴って出土している例もあるが、本遺跡では共伴している土師器、須恵器等から10世紀後半のものと思われる。

④盤状土製品（第28図5）

SI-01の焼土範囲1から1点出土した。粘土を盤状に固め、両面に凹凸がみられる。類例としては羽黒平（3）遺跡出土の盤状土製品等があげられる。本製品の時期は、共伴する土師器等から10世紀後半と思われる。

4. 石製品（第22図上、第29図1～13、口絵2-①.②）

SI-01住居跡南東隅からまとめて黒色と白色の小石（径1.2～2.0cm、厚さ0.7～1.3cm）が13点出土した。時期や状況は異なるが、類似のものが青森県浪岡町野尻遺跡、高屋敷館遺跡（平安時代）、岩手県北上市鬼柳西裏遺跡（11世紀）、平泉町柳之御所遺跡（12世紀）、遠野市篠館跡（15～16世紀）などから出土している。これらの遺跡で出土した基石は径1.7～2.5cm、厚さ0.7～1.0cmを計る。

本遺跡をはじめ、いずれの遺跡とも形状は加工の痕が見られる磨きのある盤状のものや、自然の丸みのあるものを含み、色調は白黒のはっきりしているものと、そうでないものもある。柳之御所遺跡の場合は将棋や独楽など共伴し、鬼柳西裏遺跡では文献資料から推察して基石とされている。本遺跡ではこれらに類似することから基石と思われる小石とした。

5. 鉄関連遺物（第29図14～21）

鉄関連遺物^(註)は14点出土し、炉の土が付着したと思われる赤色の椀形鍛冶滓1点、鍛冶滓1点、その他に炉内でできる結晶が大きい製錬滓6点、砂鉄焼結塊1点、炉壁溶解物2点などの鉄滓11点、棒状鉄製品2点、羽口1点が出土している。羽口はSI-01覆土から1点出土（第29図21）し、胎土に砂粒を多く含み、端部分にガラス質状の光沢のある溶解物が付着している。SI-01ではカマドが確認されていないことから袖の芯材や支脚ではなく、溶着物の付着の状況からみて鍛冶関連のものと考えられる。

なお、椀形鍛冶滓（SI-01覆土、SKE-1）、炉内滓（SI-01覆土、SKE-2）、砂鉄焼結塊（AD-27Ⅱ層、SKE-3）については化学組成分析をおこなっており分析結果を本章第4節に記載している。

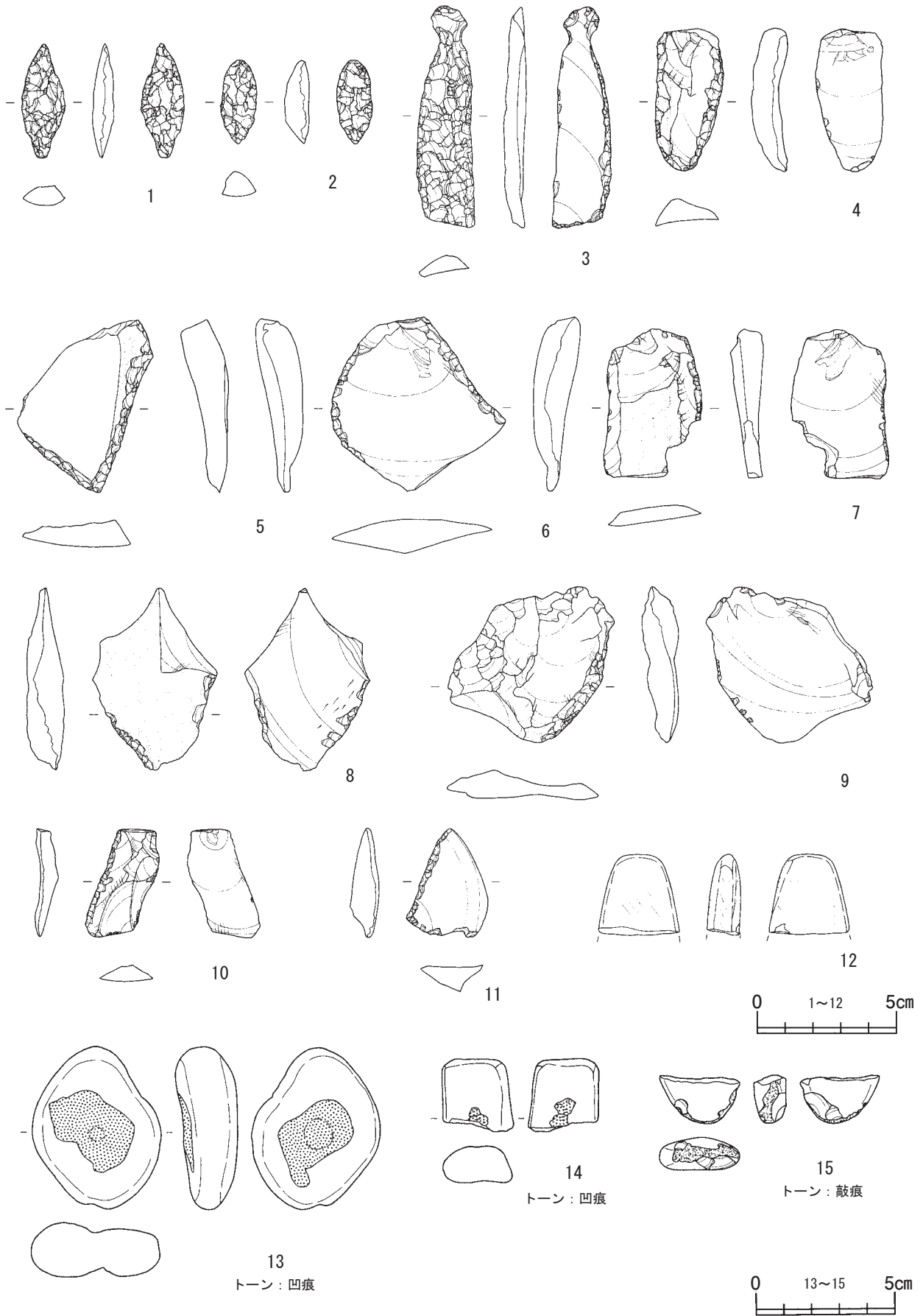
（一町田 工）

註

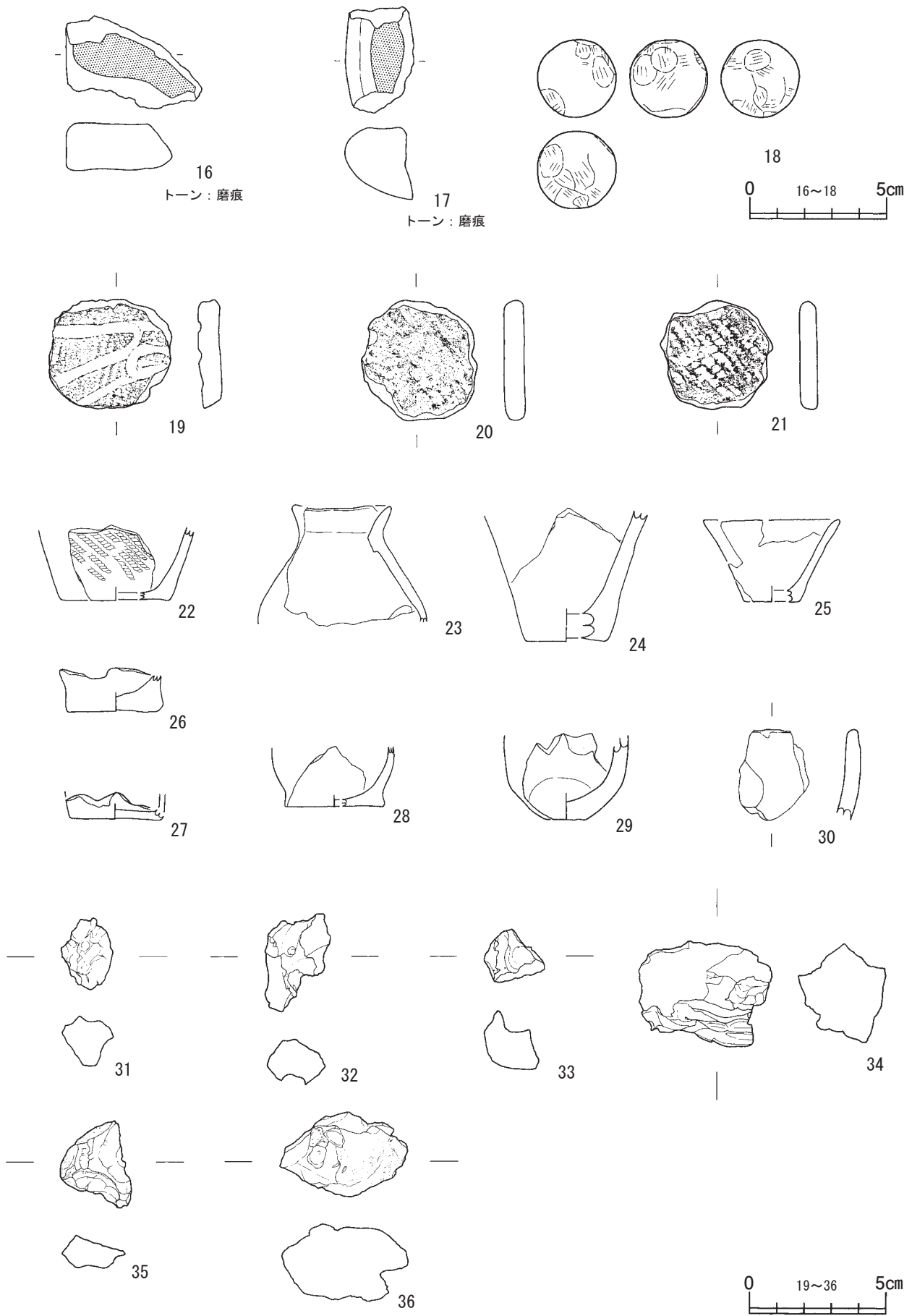
鉄関連遺物のうち鉄滓類と認められる遺物については、特殊金属探知機（KDS メタルチェッカー MR-50、鉄関連遺物用に製鉄遺跡研究会代表 穴沢義功氏の設定による）を使用し、メタル度を測定した（第12表、第24表）。通常は内在するメタルの有無・大小からL（●）、M（◎）、H（○）、銹化物（△）に分けられる。

本遺跡出土の鉄滓類についてはメタルチェッカーによる反応が見られなかったため、強力磁石（タジマ製 ピックアップ PUP-M）によって、磁着反応の強弱を判断し、強い磁着のものを銹化物（△）、弱・非磁着のものを「なし」とした。

これらの資料については、メタルチェッカー・強力磁石の反応にかかわらず、磁着度を測定した。磁着度の測定にあたっては、方眼紙に6mmを1単位とした同心円（中心の円から順に番号を付す）を描いた台紙に、35cmの高さから標準磁石（SR-3）を同心円の中心に吊り下げた状態で使用する。標準磁石に資料を近づけて、吊り下げた磁石が動きはじめる場所に相当する円の数値が磁着度である。



第46図 遺構外出土石器 (1)



第47図 遺構外出土石器（2）、土製品、鉄関連遺物

第22表 遺構外出土石器属性表

図版番号	整理番号	出土区	層位	器種	計測値				石質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)		
第46図1	外 s1	AC-28	Ⅲ	石鎌	41	15	7	3.8	珪質頁岩	
第46図2	外 s2	A-27	〃	石鎌	30	13	9	3.5	珪質頁岩	
第46図3	外 s3	AA-27	Ⅱ	石匙	79	21	8	12.9	珪質頁岩	
第46図4	外 s4	AA - 26	風倒木	石篋	51	24	13	14.5	珪質頁岩	
第46図5	外 s5	A-27	Ⅲ	不定形	62	48	17	28.9	珪質頁岩	
第46図6	外 s6	〃	〃	不定形	62	63	16	38.9	凝灰岩	
第46図7	外 s7	〃	〃	不定形	53	35	12	17.5	珪質頁岩	
第46図8	外 s8	〃	〃	不定形	65	45	13	20.5	珪質頁岩	
第46図9	外 s9	〃	〃	不定形	56	60	13	29.8	珪質頁岩	
第46図10	外 s10	AC-30	〃	不定形	39	26	8	4.6	珪質頁岩	
第46図11	外 s11	〃	〃	不定形	39	29	10	7.0	珪質頁岩	
第46図12	外 s12	AA - 28	風倒木	石斧	(29)	(29)	(12)	(17.2)	輝緑・凝灰岩	破片
第46図13	外 s13	AB-26	Ⅲ	凹石	116	93	45	307.3	凝灰岩	
第46図14	外 s14	〃	〃	凹石	(53)	(51)	(26)	100.8	石英安山岩	
第46図15	外 s15	A-27	〃	敲石	34	57	23	52.7	石英	
第47図16	外 s16	AB-29	〃	台石	(69)	(100)	(37)	(198.0)	安山岩	
第47図17	外 s17	AA-28	-	台石	(78)	(50)	(56)	(262.3)	安山岩	
第47図18	外 s18	〃	Ⅱ	石弾	57	57	56	174.8	凝灰岩	
—	外 s19	AC-29	Ⅲ	磨石	40	41	33	57.6	凝灰岩	

第23表 遺構外出土土製品属性表

図版番号	整理番号	出土区	層位	種別	計測値				焼成	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)		
第47図19	外 p170	AA-28	Ⅲ	土器片利用土製品(円形)	40	45	10	18.4	良	
第47図20	外 p171	A-27	〃	土器片利用土製品(円形)	45	42	8	15.6	良	
第47図21	外 p172	〃	〃	土器片利用土製品(円形)	40	40	8	12.7	良	
第47図22	外 p173	AA-28	〃	ミニチュア土器(縄文土器)、鉢形	-	-	-	7.0	良	外面RL
第47図23	外 p174	AC-29	Ⅱ	ミニチュア土器(縄文土器)、壺形	-	-	-	16.9	良	
第47図24	外 p175	AC-30	Ⅲ	ミニチュア土器(縄文土器)、鉢形	-	-	-	25.2	良	
第47図25	外 p176	A-27	〃	ミニチュア土器(土師器)、鉢形	-	-	-	7.8	良	手づくね
第47図26	外 p177	AA-29	〃	ミニチュア土器(土師器)、鉢形・底部	-	-	-	16.1	良	手づくね
第47図27	外 p178	AC-29	Ⅱ	ミニチュア土器(土師器)、鉢形・底部	-	-	-	4.8	良	内面ナデ、外面ミガキ
第47図28	外 p179	A-27	Ⅲ	ミニチュア土器(土師器)、甕形・底部	-	-	-	6.1	良	手づくね
第47図29	外 p180	AA-28	風倒木	ミニチュア土器(土師器)、壺形	-	-	-	13.6	良	手づくね
第47図30	外 p181	AA-26	〃	ミニチュア土器(土師器)、器形不明	-	-	-	5.3	良	手づくね

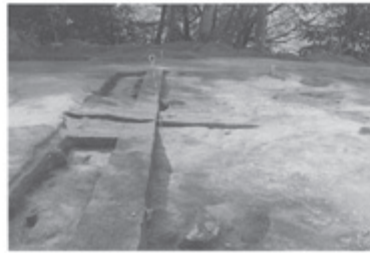
第24表 遺構外出土鉄関連遺物属性表

図版番号	整理番号	出土区	層位	種別	計測値				磁着度 ^{**}	メタル度 ^{**}	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)			
第47図31	外 f1	A-25	Ⅱ	炉壁	26	19	18	3.1	1		
第47図32	外 f2	A-27	〃	流動滓	24	36	17	11.4	2		
第47図33	外 f3	AA-28	Ⅲ	炉内滓	20	22	21.5	8.0	2		
第47図34	外 f4	〃	〃	流動滓	39	49	32	77.2	2		
第47図35	外 f5	AC-29	〃	鍛冶滓	32	26	12	6.5	1		
第47図36	外 f6	AD-27	Ⅱ	砂鉄焼結塊	31	47	29	53.3	6	(○) H 82~88頁 SKE-3	

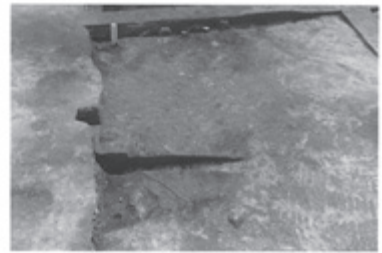
※磁着度とメタル度の基準は78頁の註を参照



全 景



SI-01南北セクション (E→)



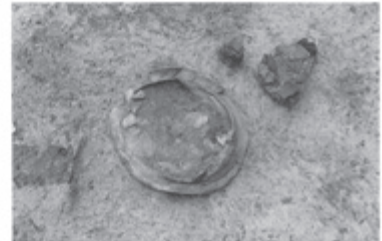
SI-01焼土範囲 (S→)



SI-01内土器ブロック・炉跡状遺構 (W→)



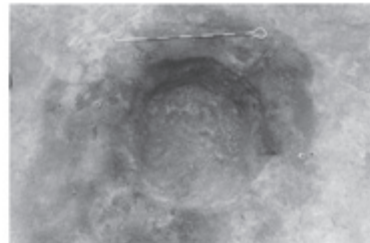
SI-01内土器ブロック3・炉跡状遺構
セクション (NW→)



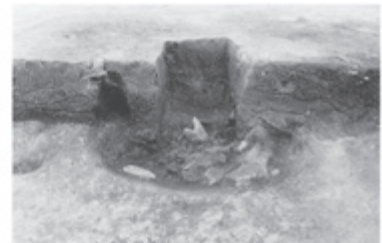
SI-01内土器ブロック2・3遺物出土状況
(NW→)



SI-01内SK-01セクション (W→)



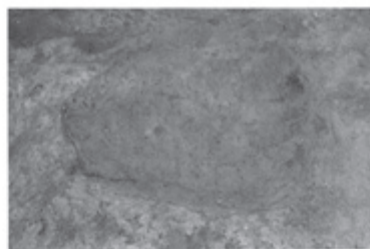
SI-01内SK-01完掘 (W→)



SI-01内SK-02・カマド南北セクション
(W→)



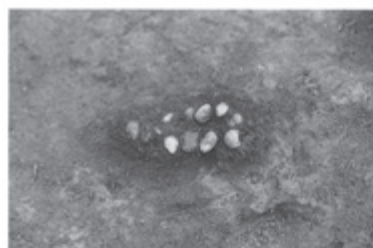
SI-01内SK-02遺物出土状況 (W→)



SI-01内SK-02完掘 (WN→)



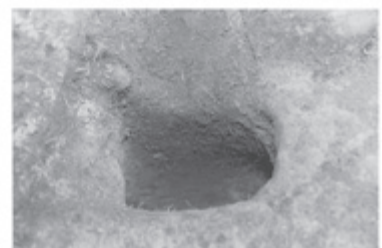
SI-01内基石と思われる小石出土状況 (N→)



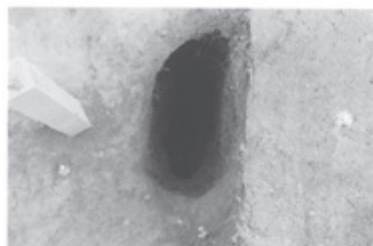
SI-01内基石と思われる小石出土状況 (W→)



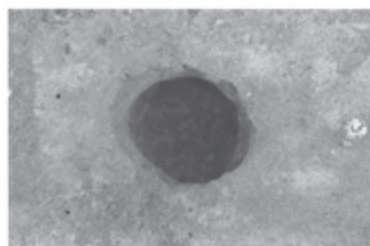
SI-01内pit2セクション (N→)



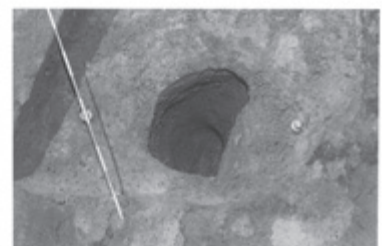
SI-01内pit3セクション (N→)



SI-01内pit4完掘 (S→)

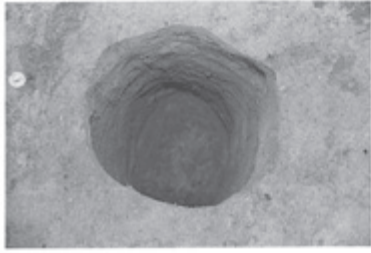


SI-01内pit6完掘 (W→)



SI-01内pit7完掘 (N→)

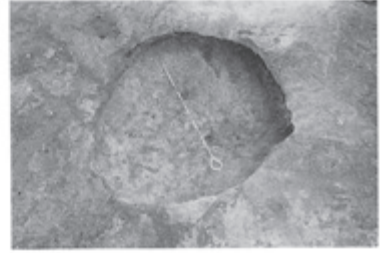
写真5 栄山(3)遺跡検出遺構等(1)



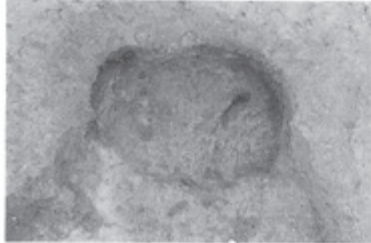
SI-01内pit8完掘 (N→)



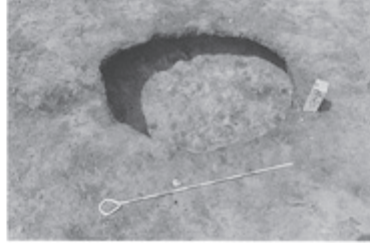
SI-01完掘 (ES→)



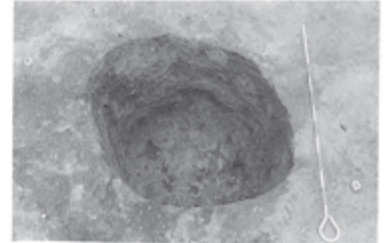
SK-01完掘 (S→)



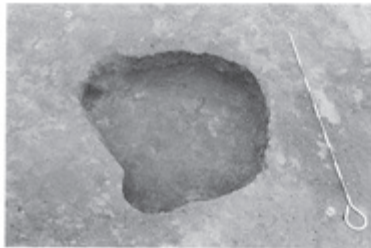
SK-02完掘 (E→)



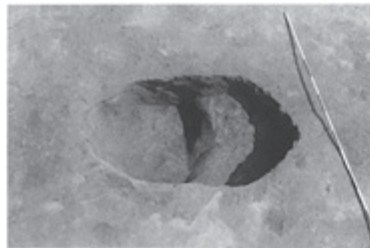
SK-03完掘 (E→)



SK-04完掘 (S→)



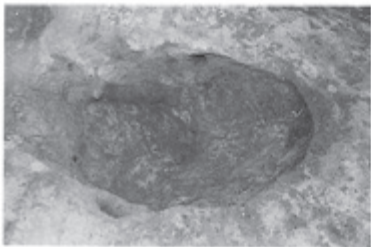
SK-05完掘 (S→)



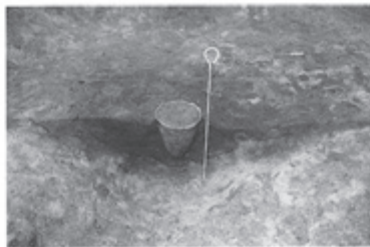
SK-06完掘 (S→)



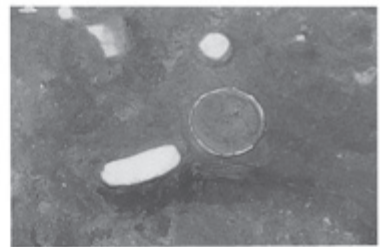
SK-07完掘 (NW→)



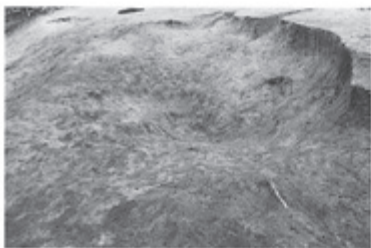
SK-08完掘 (NE→)



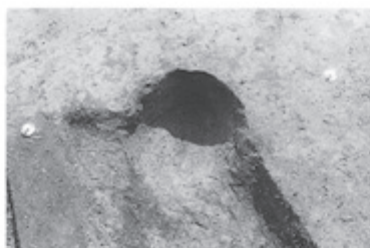
SK-09セクション (N→)



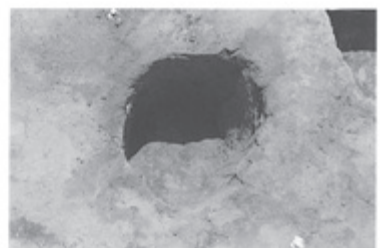
SK-09遺物出土状況 (NE→)



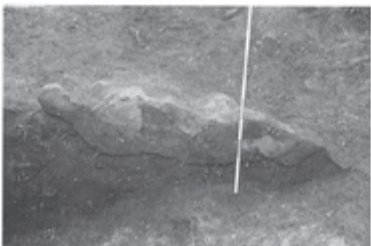
SK-09完掘 (E→)



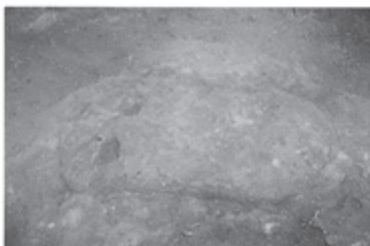
SP-01完掘 (W→)



SP-02完掘 (N→)



SF-01セクション (N→)



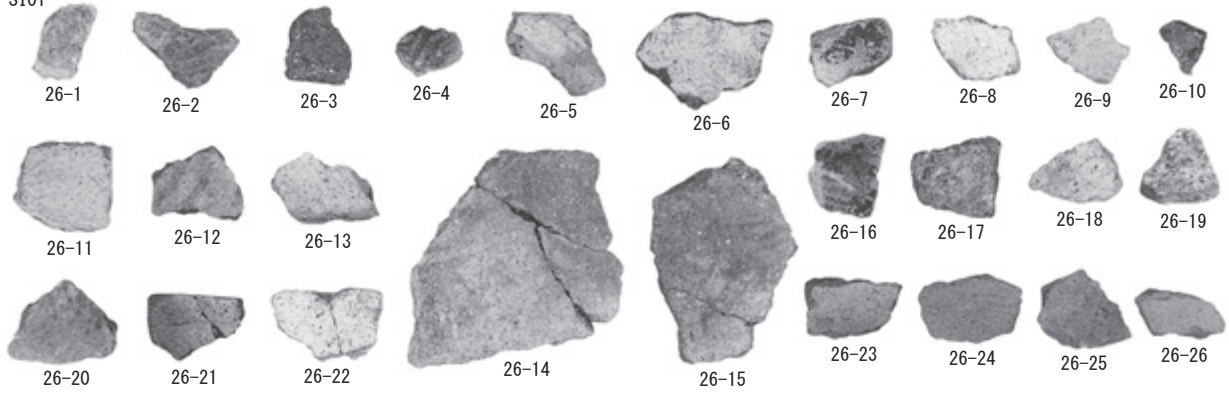
SF-02検出状況 (S→)



SF-02セクション (N→)

写真6 栄山(3)遺跡検出遺構等(2)

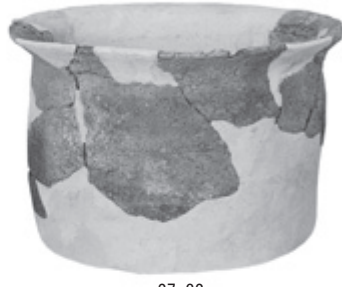
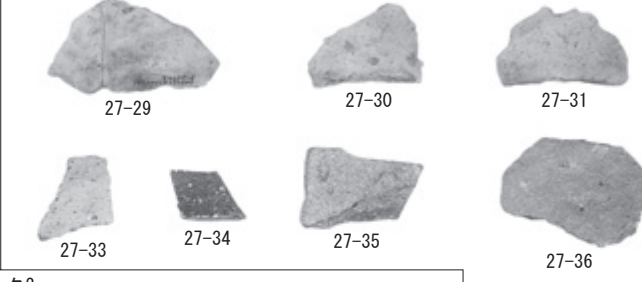
SI01



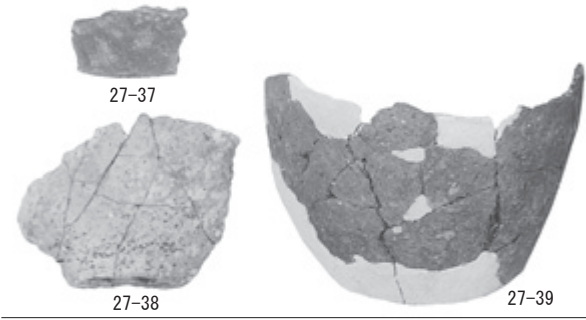
SI01覆土



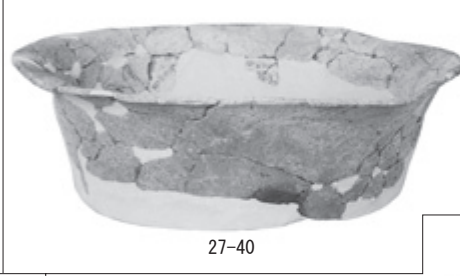
SI01ブロック1



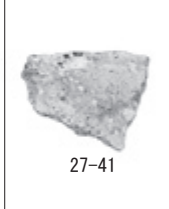
SI01土器ブロック2



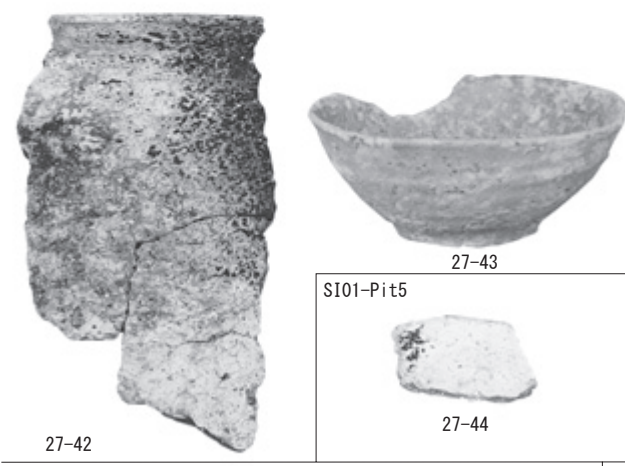
SI01土器ブロック3



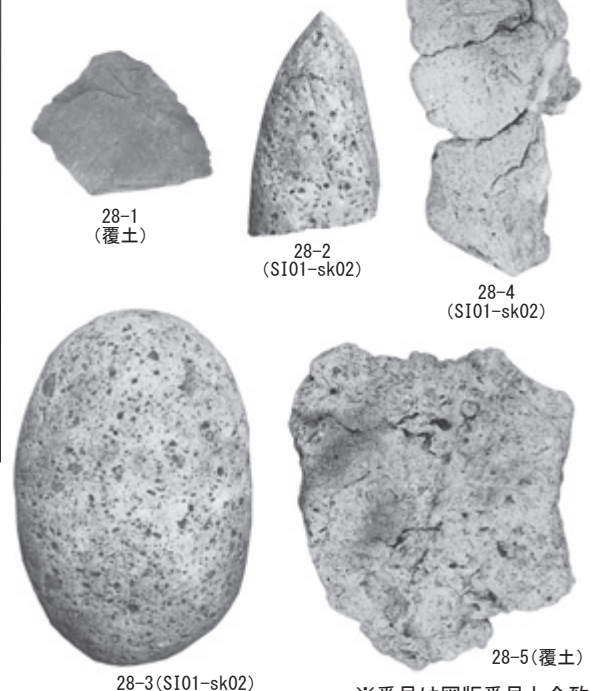
SI01-sk01



SI01-sk02



SI-01覆土及びsk02



SI-01

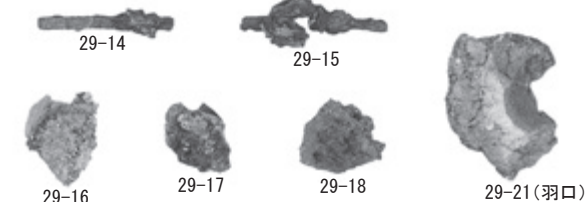


写真7 出土遺物(1)

※番号は図版番号と合致
(例) 26-1→第26図1

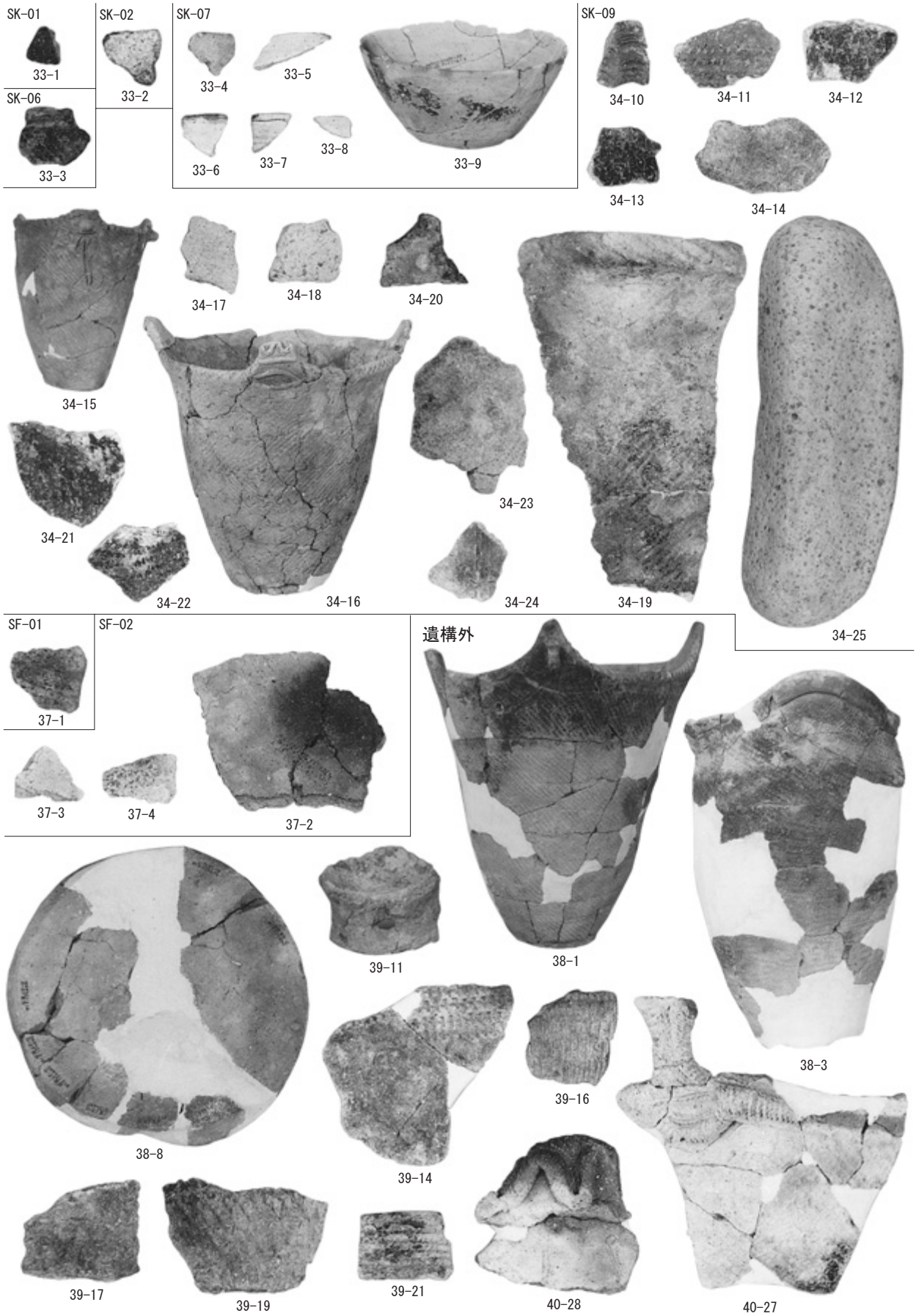


写真8 出土遺物(2)

遺構外

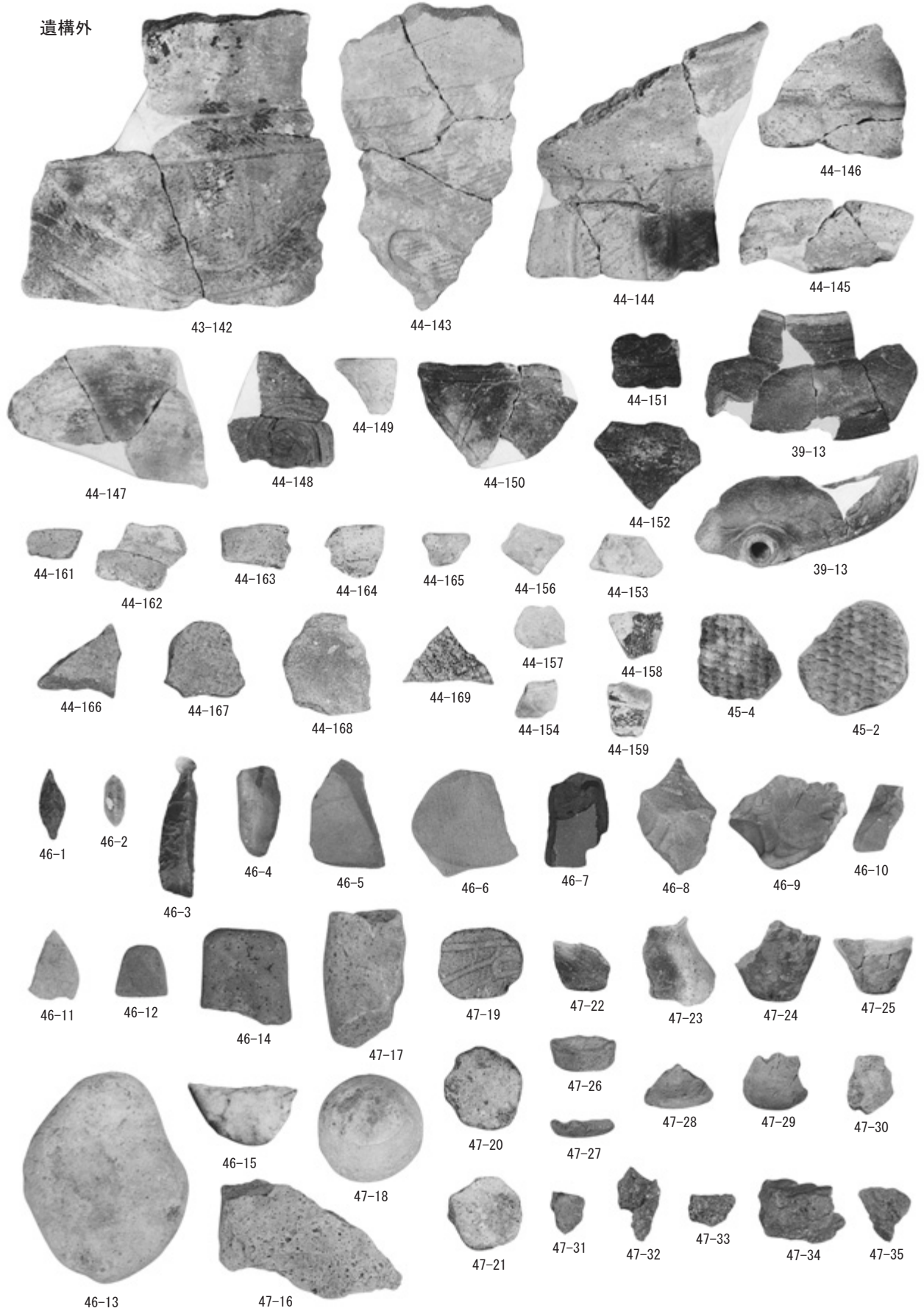


写真10 出土遺物(4)

第4節 栄山（3）遺跡出土製鉄・鍛冶関連遺物の金属学的調査

九州テクノロジーサーチ・TACセンター

大澤正己・鈴木瑞穂

1. 調査目的

栄山（3）遺跡は青森市大字細越字栄山に所在する。調査区内からは、10世紀後半に推定される竪穴住居跡（SI01）が検出された。その覆土からは、炉壁片・羽口・鉄滓等の鉄・鉄器生産に関わる遺物が数点出土した。さらに遺構外でも、鉄滓が若干出土している。

当遺跡ないし地域周辺の鉄・鉄器生産の様相を検討する目的から、金属学的調査を実施する。

2. 調査方法

2-1. 供試材

Table.1に示す。製鉄・鍛冶関連遺物3点の調査を行った。

2-2. 調査項目

（1）肉眼観察

遺物の外観上の観察所見を簡単に記載した。この所見をもとに分析試料採取位置を決定している。

（2）顕微鏡組織

滓中に晶出する鉱物調査を目的として、光学顕微鏡を用い観察を実施した。観察面は供試材を切り出した後、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の 3μ と 1μ で順を追って研磨している。

（3）ビッカース断面硬度

鉄滓中の鉱物の同定を目的として、ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に 136° の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用した。

（4）化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素（ SiO_2 ）、酸化アルミニウム（ Al_2O_3 ）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（ K_2O ）、酸化ナトリウム（ Na_2O ）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（ TiO_2 ）、酸化クロム（ Cr_2O_3 ）、五酸化燐（ P_2O_5 ）、バナジウム（V）、銅（Cu）、：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

3. 調査結果

3-1. SI01覆土出土遺物

SKE-1：椀形鍛冶滓

（1）肉眼観察：平面が不整五角形の椀形鍛冶滓片である。上下面は試料本来の表面と推定されるが、側面はほぼ全面が破面である。滓の地の色調は黒灰色を呈する。上面は気孔や細かい木炭痕が散在しており、下面は全体的に灰白色の鍛冶炉の炉床土が固着する。また破面では下面に沿って、やや大型の気

孔が多数散在するが、全体的には緻密で重量感のある滓である。

(2) 顕微鏡組織: Photo.1①~③に示す。白色粒状結晶ウスタイト (Wustite: FeO)、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライト (Fayalite: $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) が素地の暗黒色ガラス質滓中に晶出する。

(3) ビッカース断面硬度: Photo.1②③中央の晶出物の硬度を測定した。②の白色樹枝状結晶の硬度値は481Hvであった。ウスタイトの文献硬度値^(注1)450~500Hvの範囲内であり、ウスタイトに同定される。また③の淡灰色木ずれ状結晶は602Hvであった。ファイヤライトの文献硬度値600~700Hvの範囲内であり、ファイヤライトに同定される。

試料断面には、製鉄原料の砂鉄に由来する鉄チタン酸化物 (FeO - TiO_2 系晶出物) が全く見られなかった。この鉱物組成の特徴から、鍛造鉄器の熱間加工に伴い派生する、鍛錬鍛冶滓に分類される。

SKE -2: 鍛冶滓片

(1) 肉眼観察: 表面はごく一部を除き全面破面の鉄滓片である。小破片のため、外観上は製錬滓(炉内滓)破片とも、椀形鍛冶滓の破片とも受取れる。滓の地は光沢の強い灰色であるが、表層には広い範囲で茶褐色の鉄錆化物が付着する。しかし特殊金属探知機での反応はなく、滓中の微細な金属鉄が錆化したものと考えられる。また破面には中小の気孔が散在するが、全体的には緻密で重量感のある滓である。

(2) 顕微鏡組織: Photo.1④~⑧に示す。淡褐色多角形結晶はウルボスピネルとヘーシナイト (Hercynite: $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$)^(注2)の固溶体である。また白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライトが暗黒色ガラス質滓中に晶出する。なおウスタイト粒内の微細晶出物も、形態や色調からウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体と推定される。

これは精錬鍛冶滓に最も一般的な組成である。しかし製錬滓でも、比較的チタン (TiO_2) 含有量の低い砂鉄が原料の場合にはよく見られる組成である。

(3) ビッカース断面硬度: Photo.1⑦⑧中央の晶出物の硬度を測定した。⑦の白色粒状結晶の硬度値は523Hvであった。ウスタイトの文献硬度値を上回る値となったが、粒内の微細な淡褐色晶出物の影響で、より硬質の値を示したと判断される。

また⑧の淡褐色多角形結晶の硬度値は765Hvであった。やや硬質の値であり、当結晶はウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体に同定される。

(4) 化学組成分析: Table.2に示す。全鉄分 (Total Fe) は49.25%と高めであった。金属鉄 (Metallic Fe) 0.15%、酸化第1鉄 (FeO) 52.23%、酸化第2鉄 (Fe_2O_3) 12.16%の割合であった。造滓成分 ($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$) は26.55%で、このうち塩基性成分 ($\text{CaO} + \text{MgO}$) は2.28%である。また製鉄原料の砂鉄に由来する二酸化チタン (TiO_2) は7.66%、バナジウム (V) 0.10%であった。さらに酸化マンガン (MnO) は0.25%、銅 (Cu) <0.01%を含む。当試料は、製錬滓としては鉄分が高く、砂鉄に由来する脈石成分 (TiO_2 、V、MnO) はやや低めの組成であった。

青森市内の採取砂鉄及び出土砂鉄の分析調査例^(注3)を見ると、荒川流域の金浜地区 (TiO_2 : 14.97%)、牛館川流域の野木地区 (TiO_2 : 10.35%)、さらに野木遺跡から出土した砂鉄焼結塊 (TiO_2 : 11.65%)と、何れもチタン (TiO_2) 含有率が10%を超える。また青森県下の遺跡出土製錬滓の分析事例^(注4)をみても、チタン含有率は約10%~25%で、高値傾向が顕著である。

以上の分析結果と比較すると、当試料のチタン含有率は製錬滓としては低めである。ウスタイト (FeO) が晶出する鉱物組成の特徴からも、当試料は鍛冶原料 (製錬系鉄塊) に固着した不純物を溶融・分離する工程で派生した精錬鍛冶滓の可能性が高い。

3-2. AD-27Ⅱ層出土遺物

SKE-3: 砂鉄焼結塊

(1) 肉眼観察: 小型で不定形の砂鉄焼結塊である。表面は顆粒の凹凸が残り、比較的粒の細かい砂鉄であった。また地の色調は灰色～黒灰色であるが、転々と茶褐色の鉄錆化物が固着している。更に特殊金属探知機のH(○)で反応があり、一部砂鉄の還元が進んで、微細な金属鉄が生じている。

(2) 顕微鏡組織: Photo.2①～⑨に示す。①～⑤は砂鉄焼結部を示した。このうち①～③は比較的熱影響が少なく、砂鉄粒子の形状がよく残る個所である。多くの砂鉄粒子内には細かい暗色部がみられるが、これはチタン(TiO_2)含有量の高い個所である。さらに砂鉄粒内には、多角形や短柱状の微細な脈石鉱物が点在する。

これに対して、④⑤は砂鉄粒子の溶融が進んだ個所である。外周を取り巻くように、微細な淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル($\text{Ulvöspinel: 2FeO} \cdot \text{TiO}_2$)、及び白色粒状結晶ウスタイトが晶出する。

また⑥⑦中央は微細な錆化鉄粒である。素地は層状のパーライト、黒色部はセメンタイトが剥落した痕跡の可能性が高い。比較的浸炭の進んだ高炭素鋼であった。

⑧⑨には滓部を示した。発達した淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、淡灰色木ずれ状結晶ファイヤライトが暗黒色ガラス質滓中に晶出する。砂鉄製錬滓に最も一般的な組成である。

(3) ビッカース断面硬度: Photo.2⑧⑨滓部の淡茶褐色多角形結晶の硬度を測定した。⑧は577Hv、⑨は572Hvであった。どちらもウルボスピネルの指標とする600～700Hvより、やや軟質の値であった。この結果から、両結晶はFe含有率がウルボスピネルよりやや高く、マグネタイト(Magnetite: $\text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3$)とウルボスピネル($\text{Ulvöspinel: 2FeO} \cdot \text{TiO}_2$)の連続固溶体であるチタノマグネタイト(Titanomagnetite)^(注5)の可能性が高い。

当試料は製鉄炉内に装入された砂鉄粒子が、熱影響を受けて焼結したものであるが、部位によってはかなり溶融・滓化が進んでいる。また成分的には、チタン(TiO_2)含有率の高い砂鉄が製鉄原料であったと判断される。

4. まとめ

10世紀後半に比定される、栄山(3)遺跡の出土製鉄・鍛冶関連遺物3点を分析調査したところ、次の点が明らかになった。

(1) 製鉄関連遺物

AD-27Ⅱ層から出土した砂鉄焼結塊(SKE-2)は、化学分析を実施していないが、断面観察の結果、大半の砂鉄粒子内にチタン(TiO_2)の固溶が確認された。このため周辺地域に賦存する高チタン(TiO_2)砂鉄が、製鉄原料であった可能性が高い。

(2) 鍛冶関連遺物

竪穴住所跡(SI01)から出土した鉄滓2点のうち、鍛冶滓片(SKE-2)は鍛冶原料(製錬系鉄塊)に固着した、製錬滓などの不純物を溶融・除去する精錬鍛冶工程での派生物、椀形鍛冶滓(SKE-1)は鉄器製作の鍛錬鍛冶工程での派生物に分類される。

以上の分析結果から、栄山(3)遺跡の周辺では、高チタン砂鉄を製鉄原料とした鉄生産から、鍛打による鉄器製作までの工程が連続して行われた可能性が高いと考えられる。

東北地方北部では9世紀後半以降、小型の竪形炉を用いた鉄生産が始まる^(注6)が、この地域の製鉄遺跡

には、上述した青森市野木遺跡、森田村八重菊（1）遺跡、及び鯉ヶ沢町空沢遺跡^(注7)など、製鉄炉に近接して鍛冶遺構が検出される事例が多い。当遺跡内でも少数であるが、同様の製鉄～鍛冶の一貫体制を示唆する遺物群が確認される結果となった。

注

(1) 日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968

ウスタイトは450～500Hv、マグネタイトは500～600Hv、ファイヤライトは600～700Hvの範囲が提示されている。ウルボスピネルの硬度値範囲の明記はないが、マグネタイトにチタン（Ti）を固溶するので、600Hv以上であればウルボスピネルと同定している。それにアルミナ（Al）が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため700Hvを超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性が考えられる。

(2) 黒田吉益・諏訪兼位『偏光顕微鏡と造岩鉱物 [第2版]』共立出版株式会社 1983

第5章 鉱物各論 D. 尖晶石類・スピネル類（Spinel Group）の記載に加筆

尖晶石類の化学組成の一般式は XY_2O_4 と表記できる。Xは2価の金属イオン、Yは3価の金属イオンである。その組み合わせでいろいろの種類のものがある。（略）

スピネル（Spinel： $MgAl_2O_4$ ）、ヘーシナイト〔鉄スピネル〕（Hercynite： $Fe^{2+}Al_2O_4$ ）、

マグネタイト〔磁鉄鉱〕（Magnetite： $Fe^{2+}Fe^{3+}O_4$ ）、クロム磁鉄鉱（Chromite： $Fe^{2+}Cr_2O_4$ ）、

マグネシオクロマイト（Magnesiochromite： $MgCr_2O_4$ ）、ウルボスピネル（Ulvöspinel： $TiFe_2^{3+}O_4$ ）またこれらを端成分とした固溶体をつくる。

(3) 大澤正己・鈴木瑞穂「野木遺跡出土鉄関連遺物の金属学的調査」『新町野・野木遺跡 発掘調査報告書Ⅱ』青森市教育委員会 2000

(4) 大澤正己・鈴木瑞穂「Ⅱ. 鉄滓の分析 八重菊農園地点出土製鉄関連遺物の金属学的調査」『八重菊（1）遺跡』森田村緊急発掘調査報告書第7集 森田村教育委員会 2001

(5) 前掲注（2） 第5章 鉱物各論 E. 磁鉄鉱（Magnetite）

磁鉄鉱は広義のスピネル類に属し、 $FeO \cdot Fe_2O_3$ の理想組成をもっているが、多くの場合Tiをかなり多く含んでいる。（略）ウルボスピネル（Ulvöspinel： $2FeO \cdot TiO_2$ ）と連続固溶体をつくり、この固溶体の中間組成のものをチタン磁鉄鉱（Titanomagnetite）とよぶ。

(6) 穴澤義功「東日本を中心とした古代末～中世の鉄生産」『平成9年度たたら研究会大会資料集』たたら研究会 1997

(7) 『空沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第130集 青森県教育委員会 1988

SKE-1

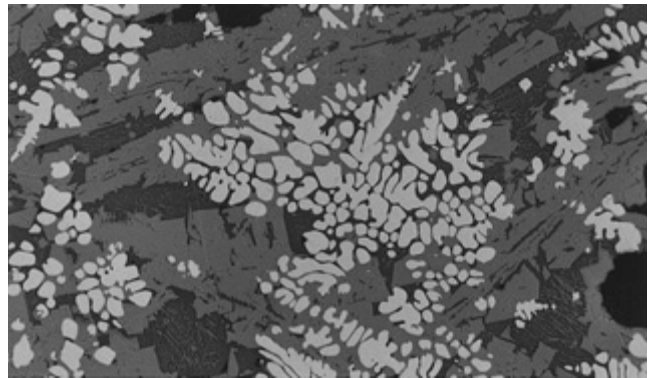
椀形鍛冶滓

①×100 ウスタイト・ファイヤライト

②・③×200 硬度圧痕

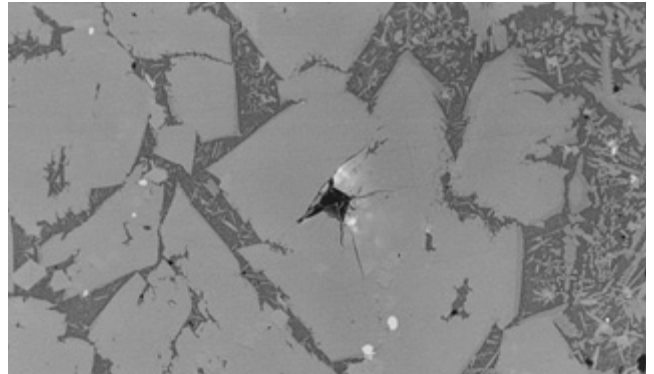
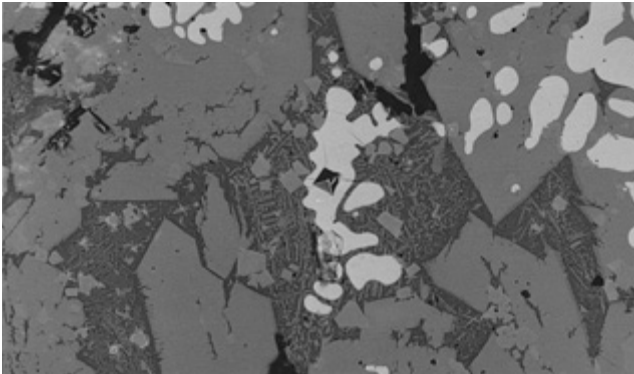
②481Hv. ウスタイト (100gf)

③602Hv. ファイヤライト (200gf)



①

②



③

SKE-2

鍛冶滓

④×100 中央：錆化鉄部

周囲：ウルホスピネルとヘーシナイトの固溶体・ファイヤライト

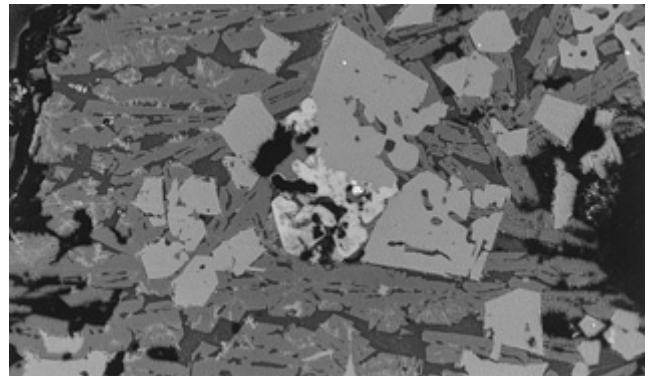
⑤×100

⑥×400 ウスタイト (粒内微少晶出物)・ウルホスピネルとヘーシナイトの固溶体・ファイヤライト

⑦・⑧×200 硬度圧痕

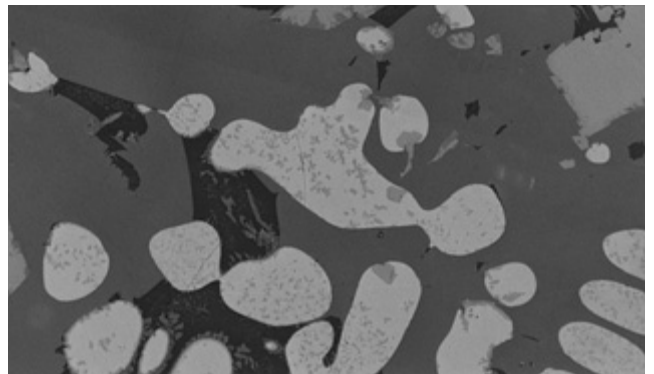
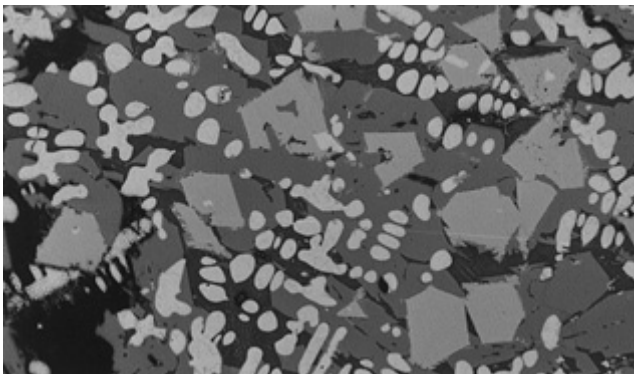
⑦523Hv. (100gf)

⑧765Hv. (200gf)



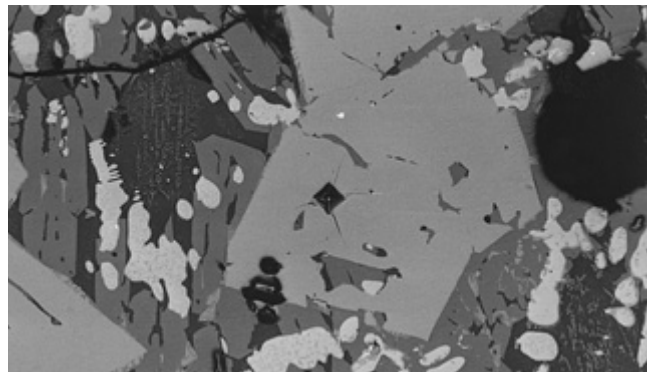
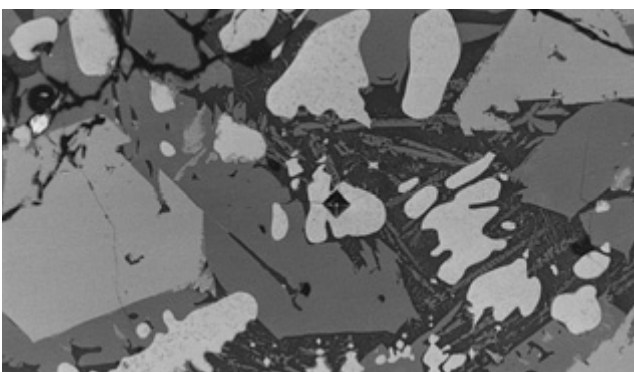
④

⑤



⑥

⑦



⑧

photo.1 椀形鍛冶滓・鍛冶滓の顕微鏡組織

SKE-3

砂鉄焼結塊

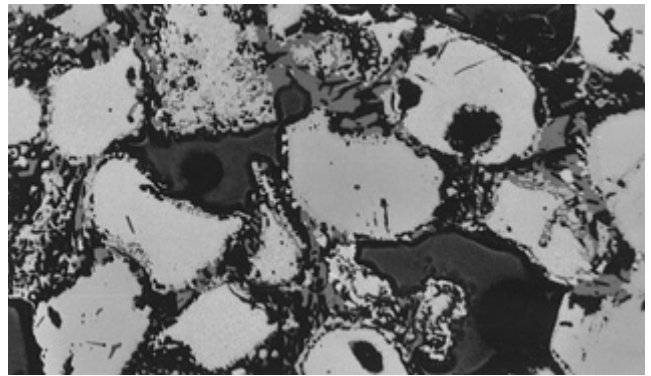
①×100 被熱砂鉄

②×100 ③×400 同上、粒内
暗色部・脈石鋳物

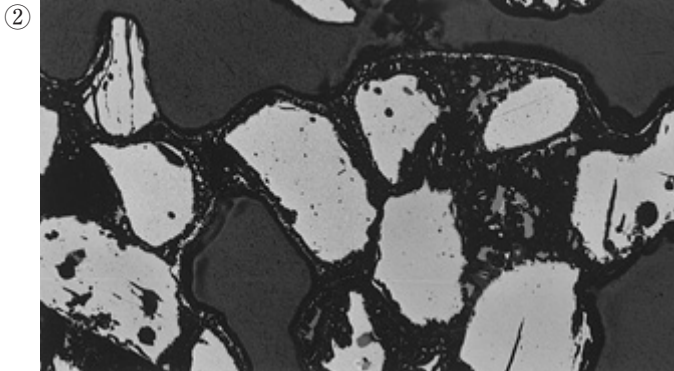
④×100 ⑤×400 砂鉄粒子溶
解進行、周囲：ウルボスピネル・
ウスタイト晶出

⑥×100 ⑦×400 錆化鉄粒
過共析組織痕跡

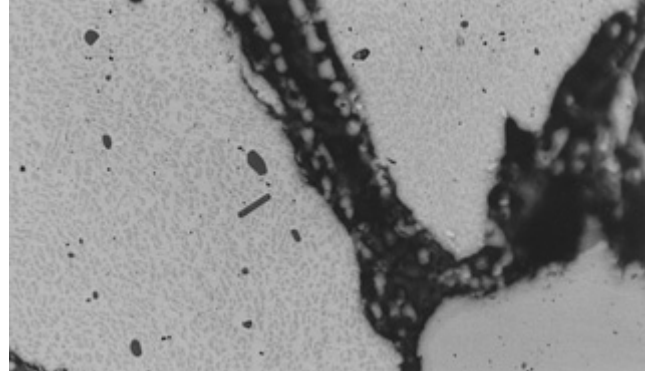
⑧・⑨×200 硬度：⑧577Hv.
⑨572Hv.



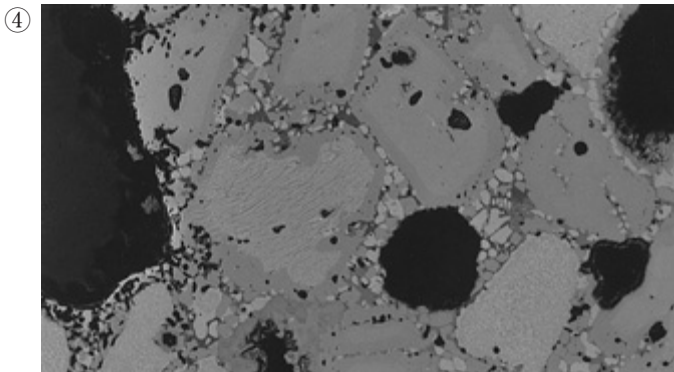
①



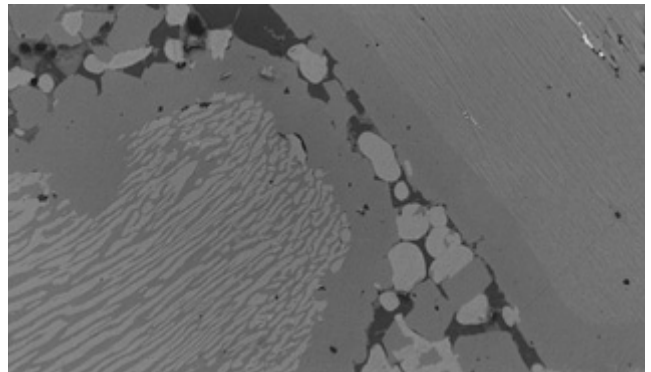
②



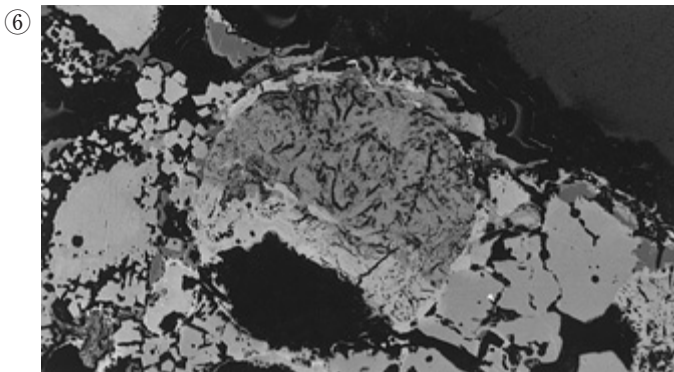
③



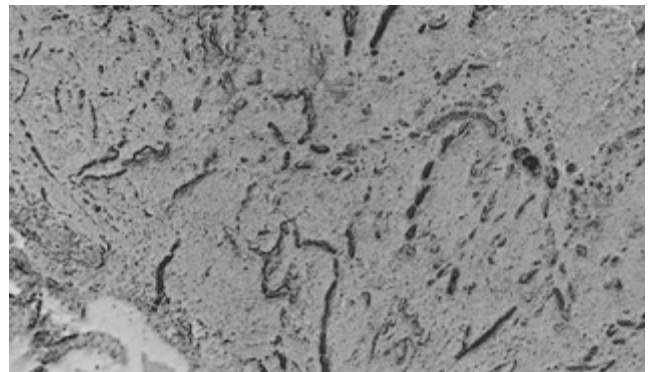
④



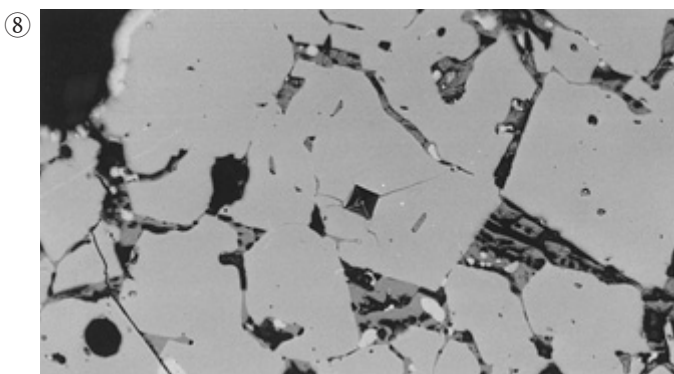
⑤



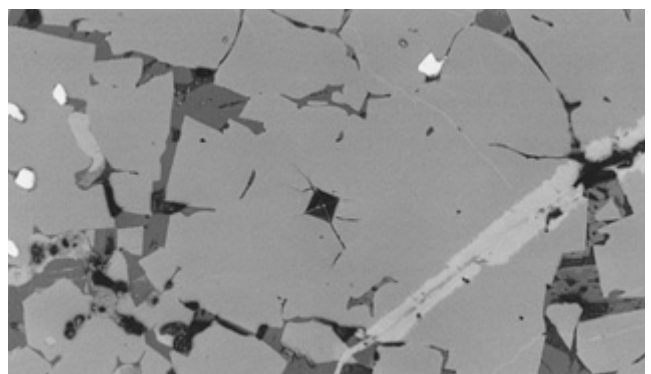
⑥



⑦



⑧



⑨

photo.2 砂鉄焼結塊の顕微鏡組織

Table.1 供試材の履歴と調査項目

符号	遺跡名	出土位置	遺物No	遺物名称	推定年代	計測値			調査項目							備考		
						大きさ (mm)	重量 (g)	継着度	メタル度	マクロ組織	顕微鏡組織	ビッカース断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析		耐火度	カロリー
SKE-1	柴山 (3)	SI-01覆土	1	楕形鍛冶滓	10c 後半	45×39×30	55.1	4	なし		○							
SKE-2				鍛冶滓片	10c 後半	22×41×28	33.0	4	錆化 (△)					○				
SKE-3				砂鉄塊	10c 後半	31×47×29	53.3	5	H (○)									

Table.2 供試材の組成

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第1鉄 (FeO)	酸化第2鉄 (Fe ₂ O ₃)	二酸化珪素 (SiO ₂)	酸化アルミナ (Al ₂ O ₃)	酸化カルシウム (CaO)	酸化マグネシウム (MgO)	酸化ナトリウム (Na ₂ O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン (TiO ₂)	酸化クロム (Cr ₂ O ₃)	酸化モリブデン (MoO ₃)	酸化バナジウム (V ₂ O ₅)	炭素 (C)	窒素 (N)	五酸化リン (P ₂ O ₅)	硫酸 (S)	珪酸 (SiO ₂)	銅 (Cu)	耐火度	造滓成分 Total Fe	TiO ₂ Total Fe	注	
																													重量 (%)
SKE-2	柴山 (3)	SI-01覆土	鍛冶滓片	10c 後半	49.25	0.15	52.23	12.16	17.53	5.87	1.02	1.26	0.37	0.50	7.66	0.02	0.02	0.02	0.11	0.10	0.33	0.02	0.02	0.11	<0.01	26.55	0.539	0.155	

Table.3 出土遺物の調査結果のまとめ

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	化学組成 (%)										所見
						Total Fe	Fe ₂ O ₃	塩基性成分	TiO ₂	V	MnO	ガラス質成分	Cu			
SKE-1	柴山 (3)	SI-01覆土	楕形鍛冶滓	10c 後半	W+F	49.25	12.16	2.28	7.66	0.10	0.25	26.55	<0.01	鍛冶滓		
SKE-2			鍛冶滓片	10c 後半	UとHの固溶体+W (粒内微小晶出物)+F UとHの固溶体 (粒内TiO ₂ 固溶、脈石多量存在)、浮部:MとU 酸熱砂鉄粒子 (粒内TiO ₂ 固溶、脈石多量存在)、浮部:MとU の固溶体 (W:Wustite (FeO)、F:Fayalite (2FeO・SiO ₂)、U:Ulvöspinel (2FeO・TiO ₂)、H:Hercynite (FeO・Al ₂ O ₃)、M:Magnetite (Fe ₃ O ₄))	鍛冶滓	鍛冶滓	鍛冶滓	鍛冶滓	鍛冶滓	鍛冶滓	鍛冶滓	鍛冶滓			
SKE-3			砂鉄塊	10c 後半	砂鉄塊	砂鉄塊	砂鉄塊	砂鉄塊	砂鉄塊	砂鉄塊	砂鉄塊	砂鉄塊	砂鉄塊	砂鉄塊	砂鉄塊	

W:Wustite (FeO)、F:Fayalite (2FeO・SiO₂)、U:Ulvöspinel (2FeO・TiO₂)、H:Hercynite (FeO・Al₂O₃)、M:Magnetite (Fe₃O₄)

第5節 栄山(3)遺跡発掘調査のまとめ

本遺跡の一部は、東北縦貫自動車道八戸線建設事業に先立ち、既に平成11年度に青森県埋蔵文化財調査センターが調査を実施し、平成12年度刊行の『栄山(3)遺跡』青森県埋蔵文化調査報告書第294集として報告されている。本年度の発掘調査は、その調査区に隣接する地区を対象とし、国庫補助事業区と原因者負担区に2分して発掘調査を実施した。本報告書は、そのうちの国庫補助事業区380㎡の調査結果についてまとめたものである。

遺構は竪穴住居跡1軒、土坑10基、小ピット2基、焼土遺構2基を検出し、南北に延びる丘陵平坦部に分布している。しかし、本調査区は基本層序第IV層まで削平が及んでいることもあり、その際に失われた遺構も少なくないと思われる。

今回検出した竪穴住居跡(SI-01)には、床面がほぼ全面残っているにもかかわらずカマドが検出されず、南東壁側と南西壁の間に広がる焼土範囲及び炉跡状遺構の検出や、この周辺から出土した羽口をはじめ化学分析の調査結果でも明らかとなった鍛冶滓、椀形鍛冶滓、砂鉄焼結塊等と合わせ考えると、本遺構は小鍛冶的な場であったように思われる。また、製品である棒状鉄製品や原因者負担区出土の刀子(青森市埋蔵文化財報告書第76集)の存在や、竪穴住居内の鍛冶場のあり方とカマドの有無や構築材としての埴状土製品、鍛冶過程で生ずる盤状土製品等を併せて、この時代の鉄生産について検討に値する資料と思われる。

本発掘調査区から出土した遺物は、土器、石器、土製品、石製品、鉄関連遺物などダンボール箱7箱分に相当する。土器は縄文時代前期初頭～晩期、平安時代(10世紀後半)の土師器、須恵器が出土し、縄文土器はSK-09を含むA～AD-28グリッドの西北斜面より多く出土している。おそらく、傾斜地を土器捨て場とした可能性が考えられる。土師器は、特にSI-01から多く出土している。

石器は、石鏃、石匙、敲石、砥石などが出土し、平安時代と考えられる砥石を除くと、ほとんどが縄文時代に属するものと考えられる。

土製品では、土器片利用土製品、ミニチュア土器、埴状土製品、盤状土製品などが出土し、特に埴状土製品は粘土を盤状に固めたものでSI-01内の土坑(sk02)から坏、焼石、砥石などと共に出土し、被熱を受けたように若干もろくなっている。埴状土製品は片側が薄く、もう一方は厚くなっており、単独の用具として使用されたのか、また周辺から出土している羽口、盤状土製品等とともに鍛冶的な作業のための構築に使用したのか、今後その用途を明らかにする必要がある。

石製品では、基石と思われる小石が、SI-01の一ヶ所からまとまって出土し、白色と黒色のものがみられる。時期については共伴する土師器などからみて10世紀後半と考えられるが、野尻(1)遺跡や高屋敷遺跡(平安時代)、鬼柳西裏遺跡(11世紀)、柳之御所遺跡(12世紀)などを他地域の出土例に比べて古いため、どのようなルートで流入し、文化の一つとして定着したのか今後文献資料など含めさらに究める必要がある。

鉄関連遺物では、SI-01や遺構外から鉄滓・鉄製品、羽口等が出土した。

平成11年度の県調査分および本年度実施した原因者負担区の調査成果を合わせて見た場合、本遺跡は遅くとも縄文前期に形成され、縄文後～晩期まで断続的に使用され、平安時代には竪穴住居跡や土坑、焼土遺構などから構成される集落が営まれていたことが確認された。

(一町田 工)

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1976『泉山遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第31集
- 青森県教育委員会 1978『三内沢部遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第41集
- 青森県教育委員会 1978『源常平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第39集
- 青森県教育委員会 1989「中世の城館」『青森市の歴史』
- 青森県教育委員会 1992『富ノ沢（2）遺跡Ⅳ富ノ沢（3）』青森県埋蔵文化財調査報告書第147集
- 青森県教育委員会 1995『朝日山（3）遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第167集
- 青森県教育委員会 1995『山元（2）遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第171集
- 青森県教育委員会 1995『泉山遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第181集
- 青森県教育委員会 1998『高屋敷館遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第243集
- 青森県教育委員会 1999『野木遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第264集
- 青森県教育委員会 2001 a『栄山（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第294集
- 青森県教育委員会 2001 b『安田（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第303集
- 青森県教育委員会 2003『野尻（1）遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第351集
- 青森県教育委員会 2004『三内丸山遺跡24』青森県埋蔵文化財調査報告書第382集
- 青森市 1958『青森市史 第4巻 産業編（上）』
- 青森市 2004『新青森市史 資料編6 近代（1）』
- 青森市教育委員会 1979『青森市蛭沢遺跡発掘調査報告書』
- 青森市教育委員会 1998『野木遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第38集
- 青森市教育委員会 2002『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第61集
- 青森市教育委員会 2003『深沢（3）遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第67集
- 岩手県教育委員会 1980『鬼柳西裏遺跡発掘調査報告書』
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995『柳之御所』岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000『篠館発掘調査報告書』岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財調査報告書第353集
- 岩手日報社 2001『いわて未来への遺産、古代・中世を歩く 奈良～安土桃山時代』
- 大阪府立弥生文化博物館 2004「三・四世紀の倭人社会」『大和王権と渡来人』平成16年秋期特別展大阪府立弥生文化博物館図30
- 工藤 清泰 2004「浪岡町の古代遺跡」『浪岡町史第1巻』浪岡町
- 潮見 浩 1998『図解技術の考古学』有斐閣
- 望月 精司 1997「土師器焼成坑の分類」『古代の土師器生産と焼成遺構』真陽社
- 山道 紀郎 1980「細越館遺跡」『日本城郭大系2 青森・岩手・秋田』新人物往来社
- 鈴木 克彦 1998「東北地方北部の縄文中期後半の土器」『研究紀要』第3号 青森県埋蔵文化財調査センター
- 浪岡町 1995『羽黒平（3）発掘〔試掘〕調査報告書』浪岡町埋蔵文化財緊急調査報告書第5集
- 浪岡町教育委員会 1990『大沼遺跡発掘調査報告書』浪岡町埋蔵文化財発掘調査報告書第4集
- 成田 滋彦 1994「青森県の土器」『縄文文化の研究4』雄山閣出版
- 松永 篤知 2004「東アジア先史土器の「敷物圧痕」分類について」『金沢大学考古学紀要』第27号 金沢大学文学部考古学講座
- 山内 清男 1979『日本先史土器の縄紋』先史考古学会
- 村越 潔 1974『円筒土器文化』雄山閣出版
- 村越 潔 1983『亀ヶ岡式土器』考古学ライブラリー18 ニュー・サイエンス社

報 告 書 抄 録

ふりがな	しないいせきはつちようさほうこくしょ13							
書名	市内遺跡発掘調査報告書13							
副書名								
巻次								
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第79集							
編著者名	一町田工、児玉大成、設楽政健、小野貴之、福田友之							
編集機関	青森市教育委員会							
所在地	〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL017-734-1111							
発行年月日	西暦2005年3月8日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測値系2000 (JGD2000)		調査期間	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
もやまがき いせき 雲谷山吹(1)遺跡	青森市大字雲谷字山吹	02201	199	40° 44' 33"	140° 47' 22"	20040518	-	分布調査
ゆのしま いせき 湯ノ島遺跡	青森市大字浅虫字蛸谷	02201	316	40° 53' 45"	140° 51' 04"	20040526	-	分布調査
くわばら いせき 桑原(2)遺跡	青森市大字桑原字山崎	02201	317	40° 49' 21"	140° 49' 00"	20040603	-	分布調査
うらながわ いせき 内長沢遺跡	青森市大字細越字内長沢	02201	318	40° 47' 11"	140° 41' 27"	20040618	-	分布調査
さんないまるやま いせき 三内丸山(8)遺跡	青森市大字三内字丸山	02201	315	40° 48' 59"	140° 42' 29"	20040917	-	分布調査
						20040922	482	試掘・確認調査
こまきの いせき 小牧野(2)遺跡	青森市大字野沢字小牧野	02201	319	40° 43' 13"	140° 44' 11"	20041001	-	分布調査
さんないまるやま いせき 三内丸山(3)遺跡	青森市大字三内字丸山	02201	248	40° 48' 56"	140° 42' 32"	20040513	40	試掘・確認調査
ごうし いせき 合子沢松森(2)遺跡	青森市大字合子沢字松森	02201	262	40° 45' 52"	140° 45' 33"	20040518	675	試掘・確認調査
ほろこえ いせき 細越館遺跡	青森市大字細越字栄山	02201	066	40° 47' 45"	140° 42' 35"	20040520	40	試掘・確認調査
やすだちかの いせき 安田近野(1)遺跡	青森市大字安田字近野	02201	014	40° 48' 12"	140° 42' 19"	20040617	8	試掘・確認調査
さんないまるやま いせき 三内丸山(6)遺跡	青森市大字三内字丸山	02201	282	40° 48' 03"	140° 42' 06"	20040610	201	試掘・確認調査
				40° 48' 03"	140° 42' 01"	20040713	102	試掘・確認調査
さんないざわべ いせき 三内沢部(1)遺跡	青森市大字三内字沢部	02201	064	40° 48' 53"	140° 41' 18"	20041201 } 20041203	40	試掘・確認調査
さんないまるやま ちく 三内丸山地区	青森市大字三内字丸山	-	-	40° 48' 20"	140° 41' 28"	20040921	50	開発行為(電力会社) に伴う試掘・確認調査
				40° 48' 19"	140° 41' 40"	20041002	33	
さかえやま いせき 栄山(3)遺跡	青森市大字細越字栄山	02201	066	40° 47' 44"	140° 42' 32"	20040520	25	試掘・確認調査
				40° 47' 49"	140° 42' 17"	20040611 ・ 20040618	209	試掘・確認調査
				40° 47' 49"	140° 57' 02"	20040712 } 20040820	380	発掘調査
所収遺跡名(発掘調査)	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
栄山(3)遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代		竪穴住居跡	1基	縄文土器		
				土坑	10基	土師器		
				小ピット	2基	須恵器		
				焼土遺構	2基	石器		
						土製品		
						石製品		
						鉄関連遺物		

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』	〃	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』
〃	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』	〃	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』	〃	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』	〃	第44集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』	〃	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	6	1971	『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』	〃	第46集	1999	『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』	〃	第47集	1999	『稲山遺跡発掘調査概報』
〃	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』	〃	第48集	2000	『熊沢遺跡発掘調査報告書』
		1979	『沢沢遺跡』	〃	第49集	2000	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』	〃	第50集	2000	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
青森市の埋蔵文化財	1	1983	『山野峠遺跡』	〃	第51集	2000	『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
〃		1985	『長森遺跡発掘調査報告書』	〃	第52集	2000	『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃		1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』	〃	第53集	2000	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃		1987	『横内城跡発掘調査報告書』	〃	第54集	2001	『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃		1988	『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』	〃	第55集	2001	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
青森市埋蔵文化財調査報告書				〃	第56集	2001	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃	第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』	〃	第57集	2001	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』	〃	第58集	2001	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』	〃	第59集	2001	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』	〃	第60集	2002	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』	〃	第61集	2002	『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
〃	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第62集	2002	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』	〃	第63集	2002	『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃	第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』	〃	第64集	2002	『市内遺跡発掘調査報告書』
〃	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』	〃	第65集	2003	『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第66集	2003	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃	第26集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』	〃	第67集	2003	『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第27集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	〃	第68集	2003	『近野遺跡発掘調査報告書』
〃	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』	〃	第69集	2003	『市内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第70集	2003	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
〃	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』	〃	第71集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第72集	2004	『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃	第32集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』	〃	第73集	2004	『新町野遺跡発掘調査概報』
〃	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』	〃	第74集	2004	『市内遺跡発掘調査報告書12』
〃	第34集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』	〃	第75集	2005	『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』	〃	第76集	2005	『柴山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃	第36集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』	〃	第77集	2005	『赤坂遺跡発掘調査報告書』
〃	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』	〃	第78集	2005	『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』	〃	第79集	2005	『市内遺跡発掘調査報告書13』
〃	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	〃	第80集	2005	『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』	〃	第81集	2005	『石江遺跡群発掘調査概報』

青森市埋蔵文化財調査報告書第79集

市内遺跡発掘調査報告書13

発行年月日 平成17年3月8日

発行 青森市教育委員会

〒030-8555 青森市中央一丁目22-5

TEL 017-734-1111

印刷 青森オフセット印刷株式会社

〒030-0802 青森市本町二丁目11-16

TEL 017-775-1431